個別支援会議分析報告書
（平成 21 年）

取上げた３５事例の生活機能と背景因子についての分析

一宮市障害者自立支援協議会
運営会議

1　分析の目的

個別支援会議で取り上げられた事例について、取り上げられるに至った個々の要因や背景を多角的に明らかにするとともに、その結果から、各事例に共通する傾向や特徴を抽出し、一宮市における今後の地域支援の方向性を考察し、自立支援協議会における部会設置のための基礎資料とする。

2　対象

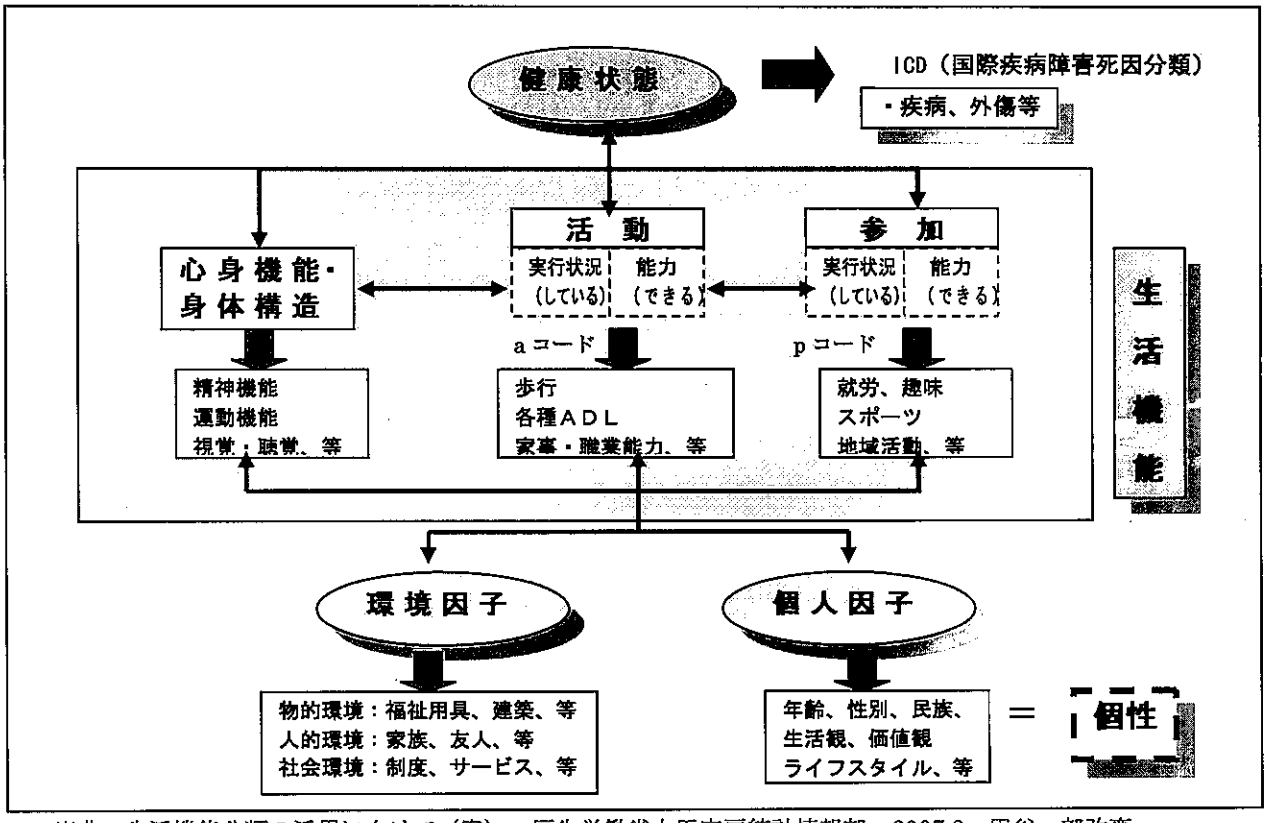
平成21年1月から平成21年12月中に個別支援会議で取り上げられた35事例。

3　分析の方法

今後継続的に利用できる資料とするため、統一的な分析方法を用いてデータベース化する。具体的には、国際生活機能分類（ＩＣＦ：International Classification of Functioning）の基本的な考え方である「心身機能・身体構造」、「活動」、「参加」の３つの構成要素からなる「生活機能」と、それらに影響を及ぼす「背景因子」を「環境因子」並びに「個人因子」の各項目ごとに分析を行うものとする。ただし、今回は評価点基準を用いた評価は行わず、記述による評価を中心に実施する。

ＩＣＦ概念図（図1）を基にした現状分析表を全事例（表1～表35）について作成する。さらに、各項目ごとに分析項目別全事例一覧表（表36～表46）を作成する。作成した表1～表46の内容を比較検討し、共通する評価点や課題を抽出するほか、今後の一宮市の福祉施策の推進に参考となる事項等についても明らかにする。

図１　　ＩＣＦ概念図（具体例が入ったもの）



出典：生活機能分類の活用に向けて（案）　厚生労働省大臣官房統計情報部　2007.3　円谷一部改変

4　分析の時期と実施者

平成22年1月から平成22年2月末日までに、地域自立支援協議会運営会議において選出された者が事務局と調整のうえ実施する。

5　分析結果の活用方法

分析結果を地域関係者に還元し、対象事例の地域支援に役立てるとともに、地域自立支援協議会に設置する部会の協議内容の選定に役立てる。

6　対象35事例の概要

（1）　地区別

地区	宮西	貴船	大志	向山	神山	富士	西成	丹波町	大和町	千秋町	尾　西	萩原町	奥　町	木曽川	北　方	葉栗	浅井	今伊勢
人数	2	1	0	0	2	1	3	0	3	2	4	4	2	3	1	3	2	2

（2）　性別・年齢別

区分	0~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65～
男	1	0	3	3	0	1	2	0	1	0	1	0	0	1
女	0	0	1	3	1	1	1	3	7	0	4	1	0	0

（参考）全体の平均年齢：33.6歳　男：26.7歳　女：37.8歳

（3）　性別・障害別

	身体	知的	精神	その他
男	0	12	0	1
女	0	10	10	2

（注）障害が重複している場合は主たる障害で分類

（4）　性別・家族（両親）の状況

	両親有	片親有	単身	その他
男	5	6	2	0
女	4	12	1	5

（5）事例提出者

保健関係機関	医療関係機関	相談支援事業所	福祉関係機関	その他
0	1	32	2	4

（6）個別支援会議への参加状況

本人と家族参加	本人のみ参加	家族のみ参加	本人と家族共に不参加
9	5	13	8

7.個別支援会議検討事例の概要

	年齢	性別	障害種別	開催日	出席機関（機関数）															検討事項	課題等
					本人	家族	障害福祉サービス事業所					その他福祉関係	医療関係	保健関係	就労関係	児童関係	教育関係	高齢者関係	その他		
							相談支援	訪問系	日中活動系	居住系	その他										
2021	73	男	知的	1月26日	—	○	○	—	○	—	—	○	—	—	—	—	—	○（3）	—	入所先移行、障害福祉サービスから介護保険への移行に向けてサービス調整	・介護保険と障害福祉サービスの連続性の確保
2022	18	男	知的	3月2日	—	○	○（2）	—	○	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	登校に支援が必要であった方の学校卒業後の施設通所へのスムーズな移行のため、生活環境の調整、本人への対応検討、母子分離	・居宅介護事業所の不足 ・学校と障害福祉サービス事業所の連続性の確保
2023	37	女	精神	3月23日	○	—	○	○	—	—	—	○（3）	—	—	—	—	—	—	—	元夫と子と共に貯蓄を使い果たしてしまい、生活費がない状態であるため、当面の生活費の確保、今後の金銭管理について検討	・生活保護が受けられない場合の生活費確保
2101	18	男	発達・精神	4月18日	—	○（母）	○（2）	—	—	—	—	○	○	○	—	○	—	—	○	発達障害、強迫性障害があり、ひきこもりがちで、家庭内での問題などある本人への対応、支援方針	・ひきこもりがちな方の、社会参加支援
2102	21	女	知的	4月24日	○	○（母）	○（2）	—	○	—	○	—	—	—	○	—	—	—	—	就労している本人の余暇の充実について	・余暇支援
2103	13	女	発達	4月28日	—	○（母）	○（2）	—	○	—	—	○	—	—	—	○（3）	○	—	—	発達障害がある本人の学校の友人関係、学校外での余暇支援や、母子家庭であることから母の負担軽減について	・発達障害がある方の対人関係支援のための関係機関の連携 ・余暇支援の方法
2104	33	男	発達・知的	5月14日	○	○（父）	○	—	○	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	通所中断や自宅での行動が問題となっていた本人へ支援プランを提示。本人の希望を元に、支援計画の作成、調整。	・サービスの利用調整
2105	37	女	精神・知的	5月22日	—	—	○	○	—	—	—	○（2）	○	—	—	—	—	○	—	金銭管理、生活環境の調整、母との関係について	細かな金銭管理に対応できる公的サービス ・母と関係不良、同居困難なため、今後も対応方法の検討
2106	44	女	精神	5月28日	—	—	○	—	—	—	—	○（2）	—	—	—	—	—	○（2）	—	兄にも精神疾患あり、認知症の母の処遇などが負担になってきていることなど、今後の家族支援について	・母の今後の支援方針について ・本人・兄の負担軽減
2107	40	女	精神	5月29日	—	—	○	—	—	—	—	○	○	—	—	○（2）	○	—	—	境界性人格障害の診断ある本人の支援方針、対応について	・就労支援（収入確保により安定を図る）
2108	53	女	精神	6月11日	○	—	○	○	—	—	—	○（3）	○	—	—	—	—	○	—	夫婦２人世帯でともに精神障害あり（夫入院中）、金銭管理の支援や、生活環境の調整について	・細かな金銭管理に対応できる公的サービス ・夫退院後の介護保険利用調整
2109	40	女	精神（発達）	7月1日	○	○（母）	○（4）	○	○	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	本人・母とも将来入所施設を希望。本人が望む生活の場や、支援について。	・障害のあるかたの生活の場の確保
2110	43	女	知的（精神）	7月7日	○	—	○（2）	○	○	○	—	○（3）	○	—	—	—	—	—	—	ヘルパー利用しているが、利用時間に自宅にいなかったり、ＡＤＬほぼ自立と思われる本人への利用意義確認、利用量調整と、細かな金銭管理について	・成年後見制度の活用
2111	52	女	精神	7月15日	—	—	○（4）	○（2）	○	—	—	○（2）	—	—	—	—	—	—	—	重度知的障害の息子と２人暮らし。パニック障害あり外出困難。依存傾向強い本人への対応と息子の通所手段の検討。	・本人の自立に向けた援助の展開 ・緊急時の息子の生活確保 ・施設の送迎サービスの確保
2112	43	女	精神・身体	8月25日	—	—	○（2）	○	—	—	—	—	○	○	—	—	—	○（2）	—	本人の入浴のため通所サービスの導入、母への成年後見、障害の診断等はないが、支援が必要と思われる姉への接触について	・姉への支援を含めた一家への包括的支援 ・細かな金銭管理
2113	12	男	知的・発達	9月10日	—	母	○	○	○（3）	—	—	○	—	—	—	○	○	—	—	発達障害のためコミュニケーションに障害あり他者を押してしまったりするため、各事業所で情報交換、本人への対応を考察	・発達障害児に対する支援内容の調整、各機関での統一

	年齢	性別	障害	開催日	出席機関（機関数）															検討事項	課題等
					本人	家族	障害福祉サービス事業所					その他福祉関係	医療関係	保健関係	就労関係	児童関係	教育関係	高齢者関係	その他		
							相談支援	訪問系	日中活動系	居住系	その他										
2114	33	男	発達・知的	9月11日	○	○	○（2）	○（3）	○	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	※2104のケースについて再検討 本人から父やヘルパーに対するいたずらが多く、対応に困るため、今後の支援についてどうするか、本人、父の意思確認、再検討	・発達障害のある方への対応
2115	39	女	身体・知的	9月15日	○	夫（内縁）	○	—	○	—	—	○	○	—	—	—	—	○	—	医療的ケアの比重が高く、介護も必要だが、受け入れ事業所が少なく利用困難、利用できるサービスを活用するため関係機関で情報交換、役割調整	・医療的ケアの必要なかたが利用できる福祉サービスの確保
2116	18	女	知的	9月18日	—	—	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	○	—	—	双子でともに障害があるが、姉は不登校、就労支援などの支援が必要であるため、関係機関で情報交換	・就労支援 ・学校との連携
2117	40	男	知的	10月7日	—	○（母、姉）	○	—	○	○（3）	—	○	—	—	—	—	—	—	—	高齢の父母と三人暮らしだが、父母ともに身体疾患を抱え、姉の支援も限界があり、自宅での生活が困難になりつつあるため、施設入所を視野に今後の支援を検討	・施設側の体制整備
2118	27	女	重心	10月7日	—	—	○	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	母の体調不良や支援者への要求などが強く本人への支援が滞り、介護状況は改善されないため、関係機関での情報交換と支援方針の検討	・母子分離
2119	19	男	知的	10月21日	—	○（母）	○（3）	—	○	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	母が仕事で不在の際、物を壊すなどの行動があり、家庭での対応が困難であるため、対応方法を検討。	・パニック時の対応方法
2120	26	男	知的	10月30日	—	—	○（4）	○（2）	○	○（3）	—	○	—	—	—	—	—	—	—	パニック障害、不安神経症で一人で過ごせない母が家政婦利用し生活上の経済的破綻が予想され、今の生活維持が困難。今後の生活支援について	・母が自ら選択できるように支援策を提示し、生活の改善を図る
2121	44	女	知的	11月5日	○	—	社協	○	○	○	—	○（2）	○	—	—	—	—	—	—	※2110のケースについて再検討 万引き行為あり、再犯防止のための支援策、実家の土地建物の処分、成年後見制度の利用について。	・細かな金銭管理や成年後見制度の活用
2122	53	女	精神	11月10日	—	—	○	○	—	—	—	○（3）	○（2）	—	—	—	—	○	—	※2108のケースについて再検討 夫婦喧嘩が頻繁で自宅での生活は不安定であるため、夫は入退院を繰り返し現在入院中、退院後の生活支援について	・退院後のサービス調整
2123	51	男	知的	11月10日	○	○	○	—	—	—	—	○（3）	—	—	—	—	—	—	○	生活保護など経済的な支援が必要な状態、自宅の処分等財産管理や成年後見制度の利用含め今後の生活支援について	・成年後見制度の活用や生活保護受給のための支援
2124	12	男	知的	11月10日	—	○（母）	○（3）	○	○	—	—	○	—	—	—	○	○	—	—	両親が共働きで、放課後や学校の送迎で祖父母が対応しているが、異食や突発的な行動に対応困難、代わる支援について	・発達障害児の対応について、事業者間での情報交換やノウハウの伝達
2125	3	男	身体 知的	11月18日	—	—	○（3）	—	○	—	○	○	—	—	—	○（2）	—	—	—	離婚し母子家庭となり、母の仕事の都合等で養育が不適切な状況、母の相談先や今後の対応などの支援方針について	・適切な養育環境の確保や母の相談先の確保
2126	17	女	知的	11月26日	—	○（母）	○	○	○（2）	—	○	—	—	—	—	—	○	—	—	今年度卒業予定のため進路について検討	・学校との連携
2127	31	女	知的	12月2日	○	○（両親、親族）	○	○（2）	○	—	○	○	—	—	—	—	—	—	○（保佐人）	結婚の希望がある2人への生活支援について、心配な点などを整理	・障害のあるかたの結婚のための支援
2128	17	女	重心	12月4日	—	○	○	—	○（2）		—	—	—	—	—	—	○	—	—	今年度卒業予定のため進路について検討	・学校との連携
2129	53	女	精神	12月11日	○	—	○（3）	○	○	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	退院に伴い生活基盤を整えるための支援方針・内容等の確認	・精神疾患のため入退院を繰り返す方の地域生活を支える仕組み
2130	57	女	知的	12月11日	○	—	○（2）	○	○（2）	—	—	○	—	—	—	—	—	○	—	介護保険から障害福祉サービスへの切り替えが必要、本人にとって負担少なく、スムーズな移行について	・障害福祉サービスと介護保険の連続性の確保
2131	10	男	知的	12月17日	—	○（母）	○（2）	○（2）	○（3）	—	○	○	—	—	—	○	○	—	—	突発的な行動や自傷行為などがある本児への対応や、相談支援機関について	・発達障害児の対応について、事業者間で共通認識を持つこと
2132	44	女	精神	12月28日	○	—	○（2）	○	—	—	—	○	○（2）	—	—	—	—	—	—	乳がん治療に伴い支援方針の確認、必要なサービスの見直し	・柔軟なサービス利用調整

8　ＩＣＦを基にした現状分析表（表１～表 35）資料１

9　分析項目別全事例一覧表（表 36～表 46）資料２

１０　表３６分析項目別全事例一覧表（健康状態）の分析

（１）主たる疾病名

ア　全事例を通した傾向

知的障害が２２件（６３％）と半数以上を占める中で、知的障害に自閉症の合併がある場合が１０件（４５％）と半数弱を占めていた。精神疾患が１１件（３１％、統合失調症：７件、神経症：１件、非定型精神病：１件、パニック障害：１件、境界性人格障害：１件)、アスペルガー症候群が２件（６％）であった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

医療機関に受診がある場合は２６件（７４％）あり、医療機関との日常的な連携協力が必要である。

（２）合併症等

ア　全事例を通した傾向

重複障害は２３件（６６％）で性別は男性が１１件（３１％）女性が１２件（３４％）だった。障害別では知的で１６件（７０％）精神６件（２６％）アスペルガー症候群１件（４％）であった。

身体機能に関する合併症は１２件（５２％、てんかん：５件、心不全：１件、糖尿病：２件、脳性まひ：２件、交通外傷：２件、脳血管障害：１件、神経因性膀胱：１件、心室中隔欠損症：１件、高血圧・脳出血：１件、乳がん：１件、子宮筋腫・子宮内膜症：１件、）であった。

イ　特に対応が必要と思われる事項

多くは定期的受診ができている。食生活や服薬管理を必要とする事例も多く、日常生活上の相談支援、指導が重要である。

（３）その他

ア　全事例を通した傾向

食生活の問題から肥満傾向３件（９％)、精神症状から食べられず体重減少１件（３％）あった。他には「下肢の廃用性筋力低下で自力歩行不可」「血糖のコントロールが困難」「呼吸管理が必要、体温調整が難しい」「環境が変ると発作を起しやすい」「高血圧で降圧剤を服用中」などの記載があった。いずれも日常的ケアが重要となる。

（４）評価所見

定期的な受診や服薬が必要２５件（７１％)、健康面で問題なしは４件（１１％)、入院中が２件（６％)、通院が不規則は２件（６％)、不調を訴えることが出来ない、きちんと服薬が出来ない、それぞれ１件（３％）ずつあった。

１１　表３７分析項目別全事例一覧表（心身機能・身体構造）

（１）精神機能

ア　全事例を通した傾向

知的障害が２２件（６３％、３件は重症心身障害）あり、その内訳は、軽度２件、中度７件、重度１３件であった。他では、変化が苦手でこだわりがある：９件、精神的に不安定：１２件、理解力や現実検討能力が乏しい：３件、意思表示が難しい：２件、他者への操作性のある：２件、パニックに陥る：２件、不明：１件であった。

イ　特に対応が必要だと思われる事項等

知的障害のある人のうち１０件が自閉症であり、変化に対する弱さやこだわり行動、衝動性などが見られ周囲の理解や配慮が不可欠である。

（２）運動機能

ア　全事例を通した傾向

問題なしが２４件（６９％）四肢のいずれかに機能障害のある場合が６件（１７％）その他に、ほぼ寝たきり、側わん症、ふらつきがある、五十肩、それぞれ１件（各３％）だった。

イ　特に対応が必要だと思われる事項等

重症心身障害が３件あり、医療的ケアが不可欠で在宅療養上の家族の負担は大きく、地域に安心できる支援体制が必要である。精神疾患の人に合併症等による問題から歩行が困難になるケースが３件みられた。

（３）視覚・聴覚

ア　全事例を通した傾向

２７件（７７％）が問題なしであった。聴覚過敏：４件（１１％、自閉症：３件、アスペルガー症候群：１件）視覚過敏、視覚的情報交換が有効、糖尿病により眼科通院中がそれぞれ１件ずつあり、不明が２件あった。

（４）その他

ア　全事例を通した傾向

感覚過敏がある場合が２件（６％）脳出血の後遺症で言語障害がある場合が１件（３％）、バルンカテーテル留置中が１件（３％）、パニック障害で身体症状多数が１件（３％）あった。

（５）評価所見

ア　全事例を通した傾向

あまり心配はない又は改善傾向：７件（２０％）、変化に弱くこだわりがある：７件（２０％）、不安定になりやすい：５件（１４％）、理解力・判断力が低い：４件（１１％）、さみしい・相手になってほしい：２件（６％）、適切な支援・療育が必要：２件（６％）、むずかしいことには支援が必要：２件、他には、強迫性障害により家族がまきこまれている、てんかんで継続受診が必要、すべてのことに介護が必

要、異食・突発的行動あり適切な支援が必要、睡眠障害・感覚過敏への配慮が必要との記述がそれぞれ１件ずつあった。

１２　表３８分析項目別一覧表（生活機能・活動）の分析

（1）歩行

ア　全事例を通した傾向

実行状況、能力ともに問題なしは２５件(７１％)だった。歩行の不安定さや見守り必要は８件(２２％)、まったくの全介助は２件（６％）だった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

ふらつきや、四つん這いで移動する人もあり、運動機能の維持が課題になる。

（2）ＡＤＬ

ア　全事例を通した傾向

実行状況、能力ともに問題なしは１８件（５１％)だった。入浴等一部介助が１３件(３７％)だった。ほぼ全介助は４件（１１％）だった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

環境やこだわりなどで能力を発揮できていないことが考えられるので、その背景を探っていくことが必要。

（3）家事

ア　全事例を通した傾向

すべて自分でこなしている人はいなかった。何らかの公私の支援を受けながらやっている。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

単身の人あるいは同居の家族に障害者や病人がいる人が多く、将来の生活支援ニーズは高まっていくことが予想される。

（4）職業能力

ア　全事例を通した傾向

一般就労は１件（３％)。就労が可能もしくは福祉的就労なら可能と思われる場合が合わせて１６件(４５％)だった。現在子どものため、今後のアセスメントが必要なケースが６件（１７％）だった。高齢で除外が１件（３％）であった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

就労に関する正確なニーズ調査等が必要と思われる。

（5）その他

ア　全事例を通した傾向

金銭管理の支援を受けている、もしくは金銭管理が必要といったケースは合わせ

て９件（２６％）だった。その他、育児に不安や課題を抱えているケースが２件（６％）あった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

一人ひとりの生活機能、実行状況と能力の両面からさらにアセスメントする必要があると考えられる。

（６）評価所見

ア　全事例を通した傾向

身の回りのことはある程度できているのは３件（９％）だった。その他は、何かしらの公私の支援を受けながら生活をしている。また一人暮らしは、２件（６％）であった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

障害特性に合わせた生活環境かいなかを検証しながら、その人にあった活動場所と方法を、具体的な形にして提供をしていくことが必要。

１３　表３９分析項目別一覧表（生活機能・参加）の分析

（１）一般就労・就学等

ア　全事例を通じた傾向

一般就労は１件（３％）のみであった。

一般就労の経験があっても社会性が伴わないため再就職できていないケースは２件(６％)、病状の悪化で日中の安定した過ごし方が優先であるケースは２件（６％）であった。

就学中のケースは７件（２６％)、未就学のケースは１件（３％）であった。

イ　特に対応が必要と思われる事項

一般就労者は職業訓練校で職業訓練を受け一般就労している。一般就労するためには専門的な就労支援が必要である。

精神障害のある人の一般就労を実現させる場合は環境整備や人的支援が必要である。

（２）福祉施設等の利用

ア　全事例を通じた傾向

就労継続Ｂ型２件（６％)、通所授産施設２件（６％）通所更生施設２件（６％)、就労継続Ａ型１件（３％)、地域活動支援センター１件（３％)、日中一時支援６件（１７％)、児童デイサービス４件（１１％)、通所介護１件（３％)、母子通園１件（３％）の福祉施設等の利用があった。その中で高齢、障害の重さや身体機能の低下により福祉施設を利用しているケースが３件（９％）であった。

養護学校卒業後福祉施設を利用した場合は利用継続がスムーズで、その反対に上手く繋がらなかった場合は家族が困ったと支援機関に相談するまで在宅期間となる。

精神障害のある人の福祉施設等の利用はなかった。

イ　特に対応が必要と思われる事項

福祉施設等利用経験のない人が利用する場合は、利用するために支援が必要である。

（3）趣味等

ア　全事例を通じた傾向

趣味等を持っているケースは２７件（７７％）、趣味等を持っていないが持ちたいと思っているケースは３件（９％）、不明は５件（１４％）であった。

イ　特に対応が必要と思われる事項

趣味等楽しみを実現するためには家族の支援や人的支援と社会資源が必要で、行動援護や移動支援が有効である。

金銭管理の自己管理が出来ない人は家族の支援が必要で、独居の場合は日常生活自立支援事業等による支援が有効である。

（4）地域活動

ア　全事例を通じた傾向

カラオケや外出等就労継続Ａ型の利用者や従業員と交流のあるケースが１件（３％）のみであった。

イ　特に対応が必要と思われる事項

地域活動（地域住民との交流やサークル活動等）の参加は今後の大きな課題である。

（5）その他

ア　全事例を通じた傾向

学校、施設、仕事等に通うことができているケースは２０件(６２％)であった。自宅のみで過ごすケースもあり、全般的に活動範囲が限られている。

イ　特に対応が必要と思われる事項

活動範囲を広げるための社会資源（フォーマル、インフォーマル）が必要である。

（6）評価所見

ア　全事例を通じた傾向

現在一般就労、福祉施設、学校に通えている人はその中での定型化した日常生活を送っている。その他の人は自宅で過ごすことが主となり人との交流が少ない。

イ　特に対応が必要と思われる事項

全体的に社会との接点が少ないことが課題である。どのような社会参加ができるかを考察する必要がある

１４　表４０分析項目別一覧表（背景因子（環境因子：物的環境））の分析

（1）利用している福祉用具

ア　全事例を通した傾向

車イス、電動カートなどの移動用ツールの利用が４件（１１％）、絵カードなどのコミュニケーションツールの利用が３件（９％）、ポータブルトイレ４件（１１％）、たん吸引機・紙おむつ・座位保持装置、体位変換機、介護ベッドが各１件（各３％）。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

コミュニケーションツールの統一など、関係機関の協力が必要なケースがあった。

（２）あるが利用していない福祉用具

ア　全事例を通した傾向

入浴補助器具、特殊寝台、マットが各１件あった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

本人又は介助者の利用のニーズにマッチしていないことが理由で利用がされていない場合もあると思われる。ニーズや環境にあった福祉用具の利用を調整する必要がある。

（３）あれば利用したい福祉用具

コミュニケーションツール、入浴補助用具、歩行器が各１件（各３％）だった。

（４）住居の状況

ア　全事例を通した傾向

一戸建てが１７件（４９％）、アパートなどの集合住宅が１２件（３４％）、福祉施設１件（３％）、不明が２件（６％）であった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

老朽化に関する記述が２件みられた。

（５）その他特筆すべき物的環境

ア　全事例を通した傾向

本人では解決できないそれぞれ個別の困難な課題があった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

居室が不衛生なため、害虫、ねずみなどが発生しており、早急な介入が必要なケースがあった。落ち着いて過ごすために物的環境に工夫が必要なケースが多く見られた。

（６）評価所見

ア　全事例を通した傾向

物的環境に問題がないケースが３０件（８６％）、不明が１件（３％）で、６件（１７％）が生活上何らかの物的困難を抱えていた。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

問題がない場合でも工夫をすることにより、より暮らしやすい環境に整う可能性もあるため、もっと丁寧なニーズの掘り起こしが必要である。

１５　表４１分析項目別一覧表（背景因子（環境因子：人的環境））の分析

（１）家族の支援

ア　全事例を通した傾向（複数計上）

両親の死亡が８件（２３％）、両親および父母のどちらかに高齢化や障害等があるケースが１６件（４６％）、兄弟に障害等があるケースが１０件（２９％）、配偶者に障害等があるケースが４件（１１％）、子に障害等があるケースが１件（３％）、問題なしは４件（１１％）のみだった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

本人以外の家族に障害等があるケースも多くあり、家族の支援のみに頼らない、包括的な支援の体制作りが必要

（２）友人との交流・支援

ア　全事例を通した傾向

何らかの交流があるケースは１６件（５０％）、交流なしは３件（９％）、不明は１３件（４１％）であった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

不明の中には、交流・支援が無いために情報として得られていないと考えられるケースもあり、実際に数字に表れている以上に友人との交流がない人が多いのではないかと推察される。不明のケースについて、より詳しい調査が必要である。また、サークル活動や、交流できる場所を拡充していく必要もある。

（３）近隣との交流・支援

ア　全事例を通した傾向

隣人が気にかけてくれているケースは３件（９％）であった、残りは不明か、なしだった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

支援者の方から、隣人、民生委員などに関係作りを働きかける必要がある。

（４）関係者との交流・支援

ア　全事例を通した傾向

関係者との良好な関係を築けているケースが２０件（５７％）、感情的に訴えてくることがある、場面によって差がある等、良好な関係を築くことに困難が伴っているケースが１３件（３７％）、拒否的なケースが２件（６％）であった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

当事者と関係者間の関係作りも援助の視野に入れ、支援の輪を広げていくことが

必要である。

（5）ボランティア等、その他の人的交流・支援

ア　全事例を通した傾向

以前の通所先職員との交流があるケースが２件（６％）あった。家族、友人、近隣、関係者以外の、ボランティア等との交流をしている人は少ない。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

関係を求めないケースもあるが、ボランティア等とのポジティブな関係作りを支援する必要がある。また、すでに交流がある方についても関係を継続できるような支援が必要である。

（6）評価所見

ア　全事例を通した傾向

支援者がある程度整っている等、人的環境に問題がないケースが１４件（４０％）、関係者が支援者だけに限られているケースが６件（１７％）、周囲の共通理解が更に得られるとよい等、調整が必要なケースが４件（１１％）であった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

友人、近隣、ボランティア等との交流が弱い。家族、関係者からの、支援を整えるとともに、インフォーマルな支援者との交流を充実させていく必要がある。

１６　表４２分析項目別一覧表（背景因子（環境因子：社会環境））の分析

（1）利用している制度

ア　全事例を通した傾向

療育手帳所持２０件（６２％）、精神保健福祉手帳所持９件（２８％）、身体障害者手帳所持６件（１８％）、うち複数所持が４件であった。また、障害基礎年金受給は１３件（４０％）、自立支援医療受給９件（２８％）や、生活保護受給は５件（１４％）、成年後見制度の利用が１件（３％）あった。

（2）あるが利用していない制度

ア　全事例を通した傾向

成年後見制度３件（９％）、手帳未申請１件（３％）であった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

成年後見制度を利用することにより金銭管理や財産管理等が適切に行われると思われるケースがあり、制度の利用を促進していく必要がある。

（3）利用している公私のサービス

ア　全事例を通した傾向

障害福祉サービスの利用が２７件（７７％）あり、内訳（重複計上）は、居宅系サービス（居宅介護、移動支援、行動援護等）の利用２６件（７４％）、居住系サー

ビス（短期入所）の利用３件（９％）、日中活動系サービス（就労系、通所施設等）の利用が９件（２６％）、日中一時支援の利用が６件（１７％）、児童デイ、母子通園利用があわせて５件（１４％）あった。また、公的サービス利用者の中で、二つ以上のサービスを利用している人は２５件（９６％）であった

その他では、日常生活自立支援事業の利用が４件（１１％）、配食サービス利用５件（１４％）、訪問看護の利用８件（２３％）、精神科デイケアの利用１件（３％）、そのほか、私的契約による居宅介護の利用、家政婦の利用、事業所のボランティア利用が各１件（各３％）、医療でのレスパイト入院の利用や、移動入浴の利用も各１件（各３％）あった。

（４）あるが利用していない公私のサービス

ア　全事例を通した傾向

利用していない障害福祉サービスがあるケースが１５件（４３％）あり、内訳（複数計上）が、居宅系サービス（家事援助や通院介助等）が４件（１１％）、居住系サービスが短期入所５件（１４％）、施設入所支援２件（６％）、日中活動系サービス（生活介護や就労系事業）が８件（２６％）、日中一時支援が１件（３％）であった。障害福祉サービスそのものを利用していないケースも１名（３％）あった。

その他、日常生活自立支援事業が５件（１４％）あった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

利用しないのか、利用したいが出来ないのかを確認し、必要なサービスに関しては利用できる環境を整えていく支援が必要である。

（５）あったら利用したい制度・サービス

ア　全事例を通した傾向

ケアホームが２件（６％）、金銭管理に関する事業が２件（６％）、余暇支援２件（６％）、学校や施設への送迎サービス３件（９％）、夜間や日中の見守り等が３件（９％）、長時間の預かり（レスパイト）が２件（６％）あった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

現在ある枠組みの中で対応可能なケースに関しては、個別支援会議等での事業所間の調整が必要であるが、すぐにサービスに直結する内容ではないものが記載されている傾向がある。制度が無いものについて、規定以外での対応が必要とされている。

（６）評価所見

ア　全事例を通した傾向

制度やサービスがある程度行き届いているケースが１０件（２９％）あった。そのほかのケースについては、家族や支援者による制度やサービスの充実が未だ整っていない。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

１つの事業所だけでは、問題を解決できないケースも多く、今後も相談支援や個

別支援会議などを通じて、支援の輪を広げていく必要を感じる。公的サービスの狭間にあるケースなどに対して、今後どういった支援が可能なのか、検討する必要がある。また家族との関係などで介入が困難なケースについても、様々な接点やネットワークを介してサービス利用を促していく必要がある。

１７　表４３分析項目別一覧表（背景因子（個人因子））の分析

（１）生活観（実現したい生活）

ア　全事例を通した傾向

買い物など余暇の充実等を望むケースが１２件（３４％）。今の生活を維持したいケースが２件（６％）。今の生活に満足できていないケースが１１件（３１％）、不明が９件（２５％）あった。無理だから望まないといったネガティブなケースもあった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

本人のニーズや課題が整えられて、その支援を行なっていく必要がある。

（２）価値観（大事にしていること）

ア　全事例を通した傾向

安定した生活や自由な生活を大切にしているケースが３件（９％）。変化のない生活パターンや、自分なりのこだわりを大切にしているケースが４件（１１％）、不明が２０件（５７％）あった。その他、散歩やファッション・音楽とか、四季の行事という内容のケースもあった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

それぞれの価値観をどう汲み取っていき、支援につなげていくのかが大切なポイントである。

（３）独自の生活習慣等

ア　全事例を通した傾向

買い物、動物とのふれあいなど、外出等本人なりの余暇を楽しんでいるケースが３件（８％）あった。暴れる・物を壊す・喧嘩といった行動習慣があるケースが５件（１４％）入浴出来ない、しないなど問題があるケースが５件（１４％）、家になかなか入れない・衣服へのこだわり・服薬しすぎで起きられない等、障害特性上の行動様式が習慣したケースが４件（１１％）あった。その他、喫煙に問題のあるケースが２件（５％）。不明８件（２２％）あった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

物を壊すといった行為や、暴力、暴れるといった行動については、支援者は家庭との連絡を密にして、医療機関や他の専門機関と連携を図りながら支援にあたる必要がある。

（４）未解決の生活上の問題

ア　全事例を通した傾向

通販の未払いなどの金銭管理の問題が、５件（１４％）。生活費に困る家庭が、３件（９％）。入浴に課題がのこるケースが、２件（５％）。その他、母や本人、支援者など人との関係がうまく築くことができないために、課題がのこるケースがある。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

金銭問題については、金銭のコントロールをいかに支援していくかが重要である、権利擁護や日常生活自立支援事業との連携が必要となる。その他の個別の問題については、丁寧に関わっていく必要がある。

（５）その他の特記事項

ア　全事例を通した傾向

他者に暴力、万引き行為などの行動があるケース、本人の希望（生活面・仕事感等）が課題となっているケース、感情面の変化が著しいケースなど様々な記載がある。特記事項なしが１９件（５４％）あった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

他者への暴力、万引きなどが課題となっているケースは、警察等の情報交換・協力体制が必要である。

（６）評価所見

ア　全事例を通した傾向

記載内容は様々であり、個々の生活スタイルがあり、ニーズも多様である。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

すべてのケースに、家族、支援者、地域の方といった、人との係わり合いがあり、それが課題となっていることが多い。フォーマル、インフォーマルに関わらず、適切な支援者、理解者が必要であり、それをどのように得ていくのか、またどう本人支援につなげていくのかが課題である。

１８　表４４会議参加者（参加状況）の分析

（１）本人

ア　全事例を通した傾向

全事例を通じての参加は１４件（４０％）である。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

すべての事例について、個別支援会議を開催すること自体に、本人・家族の了解が必要であり、検討された方向性や取り組みなどを承認してもらう必要がある。

（２）家族

ア　全事例を通した傾向

父参加が２件（６％）母参加が１２件（３４％）、また両親共の参加はなかった。夫、内縁の夫、前夫がそれぞれ１件（３％）。親族、兄弟参加が、２件（６％）。い

ずれかの家族の参加があったケースは２３件（６６％）。本人と家族が両者参加のケースは、９件（２６％）であった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

（１）本人・イ欄で述べたことと同様に、会議の開催について、本人・家族の了解や、検討された事柄について承認を得る必要がある。また、本人。・家族ともに出席できていないケースについて、本人・家族の意思や権利を保障できるように配慮する必要がある。

（３）私的関係者

ア　全事例を通した傾向

民間企業の管理者、養護学校元担任教師、交際相手やその両親が参加したケースが３件（９％）あった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

近隣、友人などといった身近な存在の支援者の参加はなかった。地域で支え合う為にも、そのような方の個別支援会議参加が必要なのだが、あまり参加されていないのが現状である。

（４）医療関係者

ア　全事例を通した傾向

精神病院の医師やPSWが参加した事例は、７件(２０％)。その他訪問看護担当者が、６件（１７％)。医療機関MSWが２件（６％）あった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

精神障害の方の会議では、専門的な意見の聴取から精神科の医師や PSW の参加が望ましい。そのような意味でも、医療関係者の個別支援会議への積極的な参加が今後も望まれる。

（５）保健関係者

ア　全事例を通した傾向

保健所職員参加は２件（６％)。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

専門的意見の聴取の必要性から、他の事例においても個別支援会議の参加が望まれる。

（６）福祉関係者

ア　全事例を通した傾向

個別支援会議への参加者は、相談支援事業所が３３件（９４％)、児童相談所が参加したのは１件（３％)、療育サポートプラザが出席したケースは３件（９％)、就業・生活支援センターの参加は４件（１１％）であった。また、社会福祉協議会は３件（９％)、日常生活自立支援事業の担当者参加は、５件（１４％）あった。包括支援センターの参加は、５件（１４％）あった。

障害福祉サービス事業所では、日中活動の事業所が１９件（５４％）であり、また、居宅介護事業所の参加も多く１９件（５４％）の参加があった。

行政は、福祉課で障害福祉担当が２２件（６３％）の出席、生活保護担当者が６件（１７％）の出席があった。また子育て支援課が２件（６％）、高年福祉課が６件（１７％）、生活保護担当者は６件（１７％）の出席があった。

この出席者の頻度から、一宮市の個別支援のニーズ、地域のニーズが読み取れるのではないかと思われる。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

必要と思われる関係機関の参加についてある程度整っているように思われるが、個別のニーズや生活スタイルの変化等に応じて、関係機関が限られないよう、広がりをもった参加スタイルをイメージして、参加を呼びかけていく必要がある。

（７）評価・所見

ア　全事例を通した傾向

参加者が整っていることにより、支援策をある程度充実させることが出来ている。また、本人が参加している場合には、本人の希望や意思のもとに検討できたなどのコメントがあった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

ネットワークの構築を支援することにより、個々の支援を充実させていくことにつながっていくと思われる。会議の参加者の幅を広げていく必要がある。

１９　表４５現状を中心としたまとめ（会議開催後の経過・地域連携・総合所見）の分析

（１）会議後の取り組みで改善された点

ア　全事例を通した傾向

個別支援会議を重ねることにより各機関との連携が取りやすくなっており、以前よりスムーズに支援が出来るような環境が整ってきている。ほぼ全てのケースで本人の状況や障害特性などの認識を共有し、支援方法の統一がなされた。実際に福祉サービス利用・改善に繋がったのは５件（１４％）、日常生活自立支援事業の利用に繋がったのは２件（６％）であった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

個別支援会議を行うことによって支援の方向性を定めることができたが、様々な問題が課題として残っている。権利擁護に関する事例は５件（１４％）、自閉症・発達障害への専門的支援の不足は９件（２６％）、家族支援に関する事例は１１件（３１％）が未解決の課題として目立った。より継続的な支援が必要とされている。

（２）既存の地域ネットワーク

ア　全事例を通した傾向

全事例を通して、ネットワークや支援体制が整っているとされたのは９件（２６％）で、そのうち、相談支援を中心としたネットワークは２件（６％）であった。次に多くみられたのは、家族を中心としたネットワークが８件（２３％）で、中で

も母が中心となっているものは６件（１７％）で家族（特に母親）への負担が大きいことが見受けられる。

また、限られた支援者によるネットワークが６件（１７％）、そもそも支援者間の連携が取れておらずネットワーク化されていないものが４件（１１％）あった。個別支援会議に出席した関係機関の中での社会資源の利用や、問題解決を図ろうとする傾向があり、限られたネットワークとなっている。

地域住民やボランティアなどが関わっている事例はほとんどなく、民生委員が関わっているケースが４件（１１％）であった。

介護保険サービスの関係者との連携を要するケースは３件（９％）となっており、障害を持った方の加齢に伴い、今後増えていくと推察される。

また、発達障害や、人格障害など対応に共通の理解がいる事例について本人の訴えや行動に対応する形の支援体制となっているケースが３件（９％）あった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

個別支援会議に地域の住民や有志ボランテイア、また本人の友人や教師などといった私的関係者が出席する事例がほとんどないことが課題である。個別支援会議の参加者を、既に本人に関わっている事業者や関係者に限定しないことが、必要なサービスや社会資源の開発につながっていく。また、そうした様々な社会資源のコーディネートができる支援者の育成が必要である。

（３）総合所見

ア　全事例を通した傾向

障害福祉サービスの調整や関係者での情報交換など、連携の必要があったケースが１９件（５４％）あり、その内容は、新たな障害福祉サービス等に関する情報提供や、現状の支援方針の確認、将来的な支援に関することや、各事業所におけるサービス提供の質に関する調整、本人・家族の希望する支援が異なること、結婚に関することなどについての調整など、多岐にわたっている。

コーディネーターが不在であるため、新たに設定することによって支援の調整をする必要があったケースが６件（１７％）、制度の切り替えやスムーズな移行に関することが５件（１４％）あり、その５件の内訳としては、生活保護受給のため介護保険から障害福祉サービス利用への移行と、高齢者であり障害福祉サービスから介護保険への移行が各１件、学校卒業後の進路に関する移行が３件となっている。

そのほか権利擁護に関することとして、適切な金銭管理に関することや、成年後見制度の利用に関することが合わせて５件（１４％）あった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

本人と家族の想いに差があること、本人と支援者との間でもその傾向が見られる場合もあり、真のニーズを見極めて支援にあたることが必要で、望ましいことではあるが、その困難性も高い。支援者が本人・家族のニーズを適切に見極めていく必要がある。また、個別支援会議を行うことにより、さまざまな関係機関とのネットワーク構築にも結びついているが、関係者が限られているなか、制度ありきでの閉鎖的な検討になっている可能性もある。新たな人材確保や育成、サービスの構築など、ニーズに基づいた支援のあり方を、常に検討する必要がある。

２０　表４６今後を中心としたまとめ（残された課題等・今後目指す地域支援ネットワーク・総合所見（今後））の分析

（１）残された課題等

ア　全事例を通した傾向

個別支援会議が開催された全ての事例において、支援関係者による新たなネットワークが構築され、個々の課題に対しての対応策が検討され、改善、解決に向けた取り組みを開始することができたが、課題解決の難易度が高い事例によっては、充分な改善に至らないことも見られた。傾向としては、知的障害（自閉症）や精神障害の方などの障害特性に適した対応、そのためのサービス提供体制や家族・関係者の支援確保に関することが１０件（２９％）、金銭管理や成年後見制度の利用確保、適切なサービスの提供など、障害者の権利擁護に関する課題が７件（２０％）、進路や制度の切り替えがあるための、制度に関する課題や移行のための連携確保に関する課題が６件（１７％）、家族に障害等があるための家族支援や、家族関係の調整など、家族に関する課題が２件（６％）、医療的ケアが必要な方に対応できる福祉サービスの確保の課題が２件（６％）、ケアホームなどの居住の場の確保に関する課題が２件（６％）あった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

障害の特性により、専門的な支援が必要な事例や、家族関係の調整など家族への支援の必要度の高い事例など、改善すべき課題の多い事例については、専門的な人材や、質の高い支援事業者等の介入が必要となっている。新たな社会資源の開発や支援機関の充実など、地域力が向上することによって、個々の問題に対応していくことが求められている。

（２）今後目指す地域支援ネットワーク

ア　全事例を通した傾向

家族支援、地域住民を含むネットワークなど、包括的な支援体制が必要と捉えているケースが１３件（３７％）あった。障害者の暮らしが、一人ひとりの希望する充実した生活にいたらない原因の一つに、地域の身近な人たちとの交流の機会が乏しいことや、インフォーマルな社会資源の活用が少ないなど、地域社会の一員として社会参加する機会が広がっていないためではないかと考えられる。また、そういったネットワーク構築のためにコーディネーターの役割が重要になると捉えているケースが９件（２６％）あった。

その他、支援者側に適切な支援方針と距離を保ちつつ、途切れないように支援を展開していくといった、現在のネットワークを保つための支援も重要であるとの記載が７件（２０％）あった。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

複数の障害者のいる家庭など、複雑な家族関係が問題となるケースや、対応の難しいケースへの支援を行う場合は、多くの専門機関との密な連携や明確な役割分担が必要となっている。また、地域での生活を支えていく上で、近隣や地域の力を活用できるよう、支援者のネットワーク作りやコーディネーターとしての相談支援の果たす役割がさらに重要となっている。これまでのような支援者のネットワークか

ら、より専門的、また、より身近な人たちを巻き込んだ新たなつながりを広げていくための課題に取り組んでいく必要がある。

そのほか、支援者側の対象者に対する共通理解が、よりよいネットワーク、支援体制を保つためには重要な事柄である。個別の問題や障害特性に対する支援者側の更なる理解、対応能力の向上が必要である。

（3）総合所見（今後）

ア　全事例を通した傾向

障害者の暮らしの問題の多くは、生活する上での必要な配慮が充分にされていないなど、適切な環境が整っていないことから生じている。障害者の暮らしに必要な制度や社会資源の充実、ネットワークの広がりなど、障害者が暮らしやすい環境に調整していくことが大きな課題となっている。

イ　特に対応が必要と思われる事項等

障害福祉サービスから介護保険サービスへの切り替えなど、制度の切り替え時の問題や、教育、福祉、医療等の連携の問題などは、幅広い領域へのネットワークの広がりによって改善できることも多くあるが、家族援助や本人のエンパワメントの支援、権利擁護のための支援等についての対応は、特に対応を強化していく必要がある。

２１　全体のまとめ

（1）事例の要因分析から明らかにになった対象事例の全体像

今回の対象事例を障害別に見てみると、知的障害者の事例が最も多く、ついで精神障害者の事例であったが、知的障害者の事例のうち約半数が自閉症を伴う人の事例であったことから、自閉症とアスペルガー症候群を合わせて発達障害として分類してみると全体の３５％となっており、発達障害に関する問題が多く取りあげられていることがわかった。

精神面では、判断能力や情報交換の方法に何らかの支援が必要な人の事例がほとんどで、障害特性に配慮した支援がないことで二次的な問題が生じてしまい、問題をより複雑にしてしまっていることも推察できた。

背景因子としては、主たる介護者である親が高齢であったり、既に亡くなっていたり、また、親や兄弟に障害があるなど、家族からの充分な支援が受けにくい環境にあることや、地域とのつながりがないことや制度の活用が充分にされていないなど、それぞれの障害特性に配慮された環境が整っていない状況にある事例が多いこともわかった。

また、個人因子に対して適切に配慮できないことで、問題をより複雑にしてしまったり、家族関係の悪化を招いてしまったり、あるいは必要な情報が得られず、さらに不適切な環境となってしまっている事例も多く見られた。

そうしたことに対応していくためには、多機関による専門的な支援が必要であるが、すぐにサービスに直結できない事例も多くあり、制度やサービスが、ある程度行き届いている事例はわずか２９％であった。

問題の本質に適切に介入できる専門的な支援機関や、それらをつなぐネットワーク

が重要であることがあらためて理解できたと思われる。

（2）事例の要因分析から考えられる今後の協議会の方向性

今回開催された個別支援会議で検討された事例を要因分析で整理した結果、対象事例の全体像を明らかにすることができ、さらにそれらの事例ごとに検討された問題点、課題については、個々の事例ごとに個別的であることや、一事例に複数の問題が存在していることから問題が複雑化してしまっていることも明らかになった。

一連の個別支援会議のなかで検討されたことは、それぞれ個別的ではあったものの、この１年間の個別支援会議のなかで多く課題としてあがっていたことは、「自閉症やその他の発達障害児者の支援に関すること」があり、その対応方法などについて検討される内容がポイントとなっていた。具体的な内容としては、対応困難な行動をしてしまう人の問題に関すること、育て方のわからない親の問題、関係者の支援方法の不一致などの混乱に関すること、専門的な支援機関の不足や事業所間の力量の格差の問題、家族への暴力の問題、活用できる社会資源が不足しているなどの問題であった。

その他に多かった課題として、「障害者の権利擁護に関すること」があり、主な内容は、成年後見制度に関すること、障害者虐待に関すること、触法行為をしてしまう障害者に関すること、日常的な金銭管理に関することなどであった。

また、「障害者の家族関係の問題に関すること」の課題もあり、主な内容は、複数の障害者がある家族の問題に関すること、障害のある親による子育て、養育に関すること、障害者の結婚に関すること、家族関係の調整や家族の支援に関することなどであった。

その他にも、「制度の谷間や切り替えに関すること」、「障害者の暮らしの場の支援に関すること」「障害者の就労に関すること」、「障害者の一般企業への就労に関すること」「医療的ケアに関すること」など、課題となり対応が必要である事柄は多岐にわたる。

これらの課題のうち、会議後に改善されたことも多くあるが、すぐには解決が困難な内容も多くあり、引き続き支援内容を検討していくことや、新たな対応策を開発していかなければならないものも多く、このことは個々のケースへの対応だけでなく、地域全体で取り組むべき課題であり、一宮市における地域課題であると言えるだろう。

今後、協議会が目指す目標は、昨年同様、本人や家族が安心して楽しく生活していけるための地域生活支援の実現であり、そのためには、今回の分析結果で明らかになった問題について、一つ一つ検討し、「人生の各ステージで切れ目のない幅広い地域生活支援活動」をシステム化していくことが必要である。

資　料　1

8　ＩＣＦを基にした現状分析表（表 1～表 35）

表1 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2021

性別:男　年齢:73　地域:萩原　国籍等:日本　平成21年1月26日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	—	—	—	—	—	年齢相応の体力、健康を保持できている
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		変化は苦手であるが情緒は安定	問題なし	問題なし	—	—	体調・健康面にあまり心配のない状態
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	身の回りのことはほぼ自立	洗濯機の使用は可能	簡単な作業は可能	家事に支援必要(ヘルパーの利用)	家事に援助は必要
	能力(できる)	可	身の回りのことはほぼ自立	洗濯は出来る	簡単な作業は可能		家事に援助は必要
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	一般就労はない	就労継続支援B型の利用あり	特になし、テレビを見ること	なし	生活支援ハウスで生活	就労支援施設の活動は積極的にできる
	能力(できる)	年齢的に一般就労の可能性低い	就労継続支援B型の利用あり	自ら余暇活動を行うことは困難	不明	生活支援ハウスでの共同生活可	慣れた場面では積極的に活動できる
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	生活支援ハウス	なし	生活上の環境は整っている
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	兄弟、親戚数名	施設利用者との交流	施設入所のために交流なし	支援者との関係は良好	なし	本人に対し支持的な支援者が多い。
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳B、年金	なし	介護保険居宅介護、就労継続支援	介護保険デイサービス、養護老人ホーム	金銭管理	必要な社会資源を利用できている
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	安定した生活がしたい	安定した生活	衣服に対してのこだわり	なし	支援者の指示には従うが、同僚や他利用者には我が出てしまう	変化に弱いが、緩やかであれば適応良好
会議参加者	参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
		—	兄弟(5名)	—	—	—	相談支援事業所、就労継続支援事業所、養護老人ホーム、居宅介護事業所、高年福祉課、福祉課	本人参加予定であったが、施設側の都合があり参加できず、本人への確認が別途必要になった

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	養護老人ホームへ入所移行となり、日中活動も障害福祉サービスの利用から介護保険デイへの利用へと緩やかにつなげる計画を関係者で共有できた。	本人への確認と移行後の適応状態の確認	生活支援ハウスでの生活や介護保険デイサービスの利用にも適応出来つつある
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	障害福祉サービス関係者と介護保険事業者との連携あり	公的サービスとしてではなく、これまで利用していた支援者や事業所との関係を保つ	高齢者の制度による支援を受け生活していく

表2 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2022

性別:男　年齢:18　地域:奥町　国籍等:日本　平成21年3月2日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	自閉症	—	—	—	—	自分から不調を訴えることは出来ない
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		自閉症のため、コミュニケーションの特徴やこだわりがある	問題なし	問題なし	—	—	自閉症のため、コミュニケーションの特徴やこだわりがある
活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	整容、入浴、食事に援助が必要	母が行う	学生のため未就労	—	自閉症のため、身の回りのことに援助が必要
	能力(できる)	可	動作自体は可能だが、こだわり等により困難	電子レンジを使うことあり	作業は可	—	自閉症のため、身の回りのことに援助が必要
参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	養護学校在籍中	日中一時支援	音楽を聴く、ビデオ鑑賞	なし	不登校気味(登校に支援が必要)	スムーズな参加のためには支援が必要
	能力(できる)	福祉サービス事業所での実習は可	作業所通所は可能と思われる	自分で楽しみを見つけることが出来る	不明	援助があれば通所できる	スムーズな参加のためには支援が必要
背景因子 環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	一戸建て	なし	物的環境に特に問題はない
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母:本人に振り回されがち、父:身障あり、兄弟:協力的	学友との交流あり	不明	先生からの支援や通所事業所の協力あり	なし	家族が本人を支える力が弱い
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳A	なし	日中一時支援、行動援護	居宅家事援助、通院介助、短期入所	通学援助	通学の支援が必要であった
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	不明	不明	パターンの固定化された生活により安定する	コミュニケーションの困難から母への暴力行為あり	自分の思うとおりにならないと暴力をふるうことあり	自閉症に配慮した支援が必要
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	参加状況 —	母	—	—	—	相談支援事業所(2)、知的障害者通所授産施設、養護学校	卒業後のスムーズな移行について役割確認を行った

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等
	朝の送り出しの支援にヘルパーが入ることで、スムーズな通所が可能になった	時に母への暴力行為があったり、生活パターンが崩れる恐れもあるため適宜介入は必要
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク
	家族(特に母)が支援の中心者であり、学校の先生や通所予定先事業所の職員の関りもあった	家族が支援困難な場面でのヘルパー利用や相談支援事業所のコーディネートによる生活支援

総合所見(現状)
学校卒業に伴って、障害福祉サービス事業所の利用となるため、スムーズに移行できるように通所の支援や余暇活動の確保などが得られるよう調整がなされた
総合所見(今後)
障害福祉サービス利用し、家庭での安定した生活と通所先事業所への適応を図る

表3　国際生活機能分類（ICF）を基にした現状分析表

IDNo.2023

性別：女　　年齢：37　　地域：萩原　　国籍等：日本　　平成21年3月23日現在

健康状態		疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
		統合失調症	心不全	—	—	—	外食などによる急な体重増加がみられる	精神科への定期的な通院継続が出来ている
生活機能	心身機能・身体構造		精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
			現実検討能力は乏しい	右足をひきづって歩くため長い歩行は困難	問題なし	—	—	精神疾患の影響から判断能力の低下等みられる
	活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
		実行状況（している）	右足をひきずって歩く	ほぼ自立	洗濯や掃除は自分で行う	就労はしていない	育児が人任せ	活動意欲はあまりない
		能力（できる）	単独歩行は可能	ほぼ自立	食事の援助はヘルパー利用。元夫宅の食事をもらうこともあり	就労意欲が本人にない	育児が人任せ	活動意欲はあまりない
	参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
		実行状況（している）	なし	なし	外食	自ら近所づきあいは出来ていない	元夫との交遊あり	元夫と一緒に遊びあるいてしまう
		能力（できる）	継続的に働くことは困難と思われる	通所の意思なし	適切にはできない	自ら近所づきあいは出来ていない	—	必要な行動の判断はできない
背景因子	環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
		物的環境	電動カート	なし	なし	集合住宅	—	家具など、自宅内の持ち物は少ない
			家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
		人的環境	両親死亡、兄：長期入院中、元夫：同集合住宅に居住、知的障害、子：2人、元夫宅におり知的障害有り	不明	民生委員の見守りあり	ヘルパーの受け入れは良好	なし	元夫との交遊が浪費につながっている
			利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
		社会環境	精神保健福祉手帳2級、障害年金2級、自立支援医療	なし	居宅介護、通院介助	日常生活自立支援事業、福祉有償運送	—	金銭管理の援助が必要
			（生活観）実現したい生活	（価値観）大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子		元夫と再婚して楽しい生活を送りたい	元夫と一緒に過ごすこと	なし	金銭管理と母子関係の形成	—	自分の意思は強いが現実的ではない
会議参加者	参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
		参加	元夫	—	—	—	相談支援事業所、居宅介護事業所、民生委員、福祉課（保護、障害福祉）	日常生活自立支援事業担当者は都合つかず欠席

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見（現状）
	生活保護の利用は元夫からの借金返済優先と生活実態などの理由でできないが、金銭管理は日常生活自立支援事業の利用へ結びついた	生活していくためには元夫にかしたお金を返済したもらうなどの不安定な要素に頼るしか手段がない	預貯金が100万円程度あったものを元夫や子との外食や交遊で使い果たしてしまい、生活困難となったため会議で検討。年金支給までは元夫の借金返済分で生活し、その後は日常生活自立支援事業を利用し適切な金銭管理の支援をうける。
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見（今後）
	ヘルパーの利用と民生委員の関りあり、元夫との交遊に規制はなく現実的な判断無く自由に行動。	元夫の家庭とのかかわりも含めて相談支援事業所による生活支援のコーディネートが必要	日常生活自立支援事業利用し、適切な金銭管理の支援。相談支援事業所の支援を受け生活の立て直し、元夫や子との適切な関係を構築する。

表4 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2101

性別:男　年齢:18　地域:萩原　国籍等:日本　平成21年4月17日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	アスペルガー症候群	強迫性障害	—	—	—	本人に障害の認知があまりない、本人受診なし	アスペルガーの二次障害としての強迫性障害
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		強迫性障害の症状が強く出ている状態	問題なし	音に敏感	—	—	強迫性障害の行動に家族(母)が巻き込まれている
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	こだわりや確認行為が多く、行動に支障あり	母が行う	中卒後、ひきこもりがちで就労なし	—	こだわりや確認行為が多く、行動に支障がある
	能力(できる)	可	動作そのものはできる	不明	不明	—	こだわりや確認行為が多く、行動に支障がある
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	なし	ゲーム、TV、PC、音楽	なし	—	自宅でひきこもり生活、外出は母とのみ
	能力(できる)	不明	不明	機器を扱うことは可能だが周囲への配慮はできない	不明	—	自らの社会参加困難で支援が必要
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	一戸建て	なし	物的環境に特に問題はない
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母:本人の行動に巻き込まれている、父:理解不十分	不明	不明	第3者の受け入れはかなり拒否的	なし	本人の拒否姿勢から他者の介入はほとんどない
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	自立支援医療(精神通院)	精神保健福祉手帳	なし	なし	ひきこもりに対しての訪問	制度の狭間にあり適する公的サービスがない
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	このままではよくないと感じているが具体的には不明	不明	障害のために生活行為に多々支障がある	コミュニケーションの障害により社会参加が困難	なし	現状は強迫性障害への対応が優先される
会議参加者	参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
		—	母	—	精神科病院医師、PSW	保健所	相談支援事業所(2)、療育サポートプラザ、発達障害者支援センター、福祉課	医師の意見を元に関係者間で支援方針を検討できた

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等
	母より、第3者の介入という希望があり、相談支援事業所が介入することとなった(主治医の協力のもと)	本人からのニーズをひきだすこと、本人の精神科受診
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク
	母が医療機関受診、相談機関に相談するのみで本人の関りなし	医療機関と相談支援事業所の連携をもって本人に関り、本人のニーズを元に支援体制を構築する

総合所見(現状)
アスペルガーをベースに強迫性障害が強く出ているため、周囲が対応に苦慮しており、母の孤立を防ぐためにも支援必要とされている

総合所見(今後)
本人との関係を徐々に構築しながら、本人の受診やサービス利用などにつなげたい

表5 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2102

性別:女　年齢:21　地域:千秋　国籍等:日本　平成21年4月24日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	てんかん	—	—	—	—	てんかんのための受診継続が必要
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		不明	問題なし	問題なし	—	—	てんかんのための受診継続が必要
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	自立	不明	一般就労	自転車通勤していたが発作のため母送迎	発作のため制限あるがそれ以外に不都合はないと思われる
	能力(できる)	可	自立	不明	軽作業可能	自ら通勤は出来ていない	発作時の対応が適切であれば問題ないと思われる
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	一般就労	なし	マクドナルド、映画、カラオケが好きだがあまり行けない	不明	—	余暇を充実して過ごせていない
	能力(できる)	軽作業可	—	1人では行けない	不明	—	支援があれば趣味を充実することが出来る
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	不明	不明	不明	不明	住居は交通機関が無く移動に不便を感じている	不明な事は多いがおそらく問題なし
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	家族と外出、買物	友人は居るが休みがあわず会えないためメールでの交流がキ	不明	職業開拓校担当者との日常的な報告・相談	—	本人能力で出来る範囲内でのコミュニケーションが取れている
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳B	なし	なし	居宅介護、就業・生活支援センターの当事者交流会	なし	サービスメニューの情報提供はされている
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	余暇を充実させたい	職業開拓校の担当者との日常的な連絡(報告・相談)	なし	一人で外出できない	なし	情報提供したなかで本人が希望すれば支援受けられる
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	参加状況 参加	母	—	—	—	職業開拓校、相談支援、身障療護施設、居宅介護事業所、就業・生活支援センター	本人の希望に対しフォーマル・インフォーマル支援の提案ができた

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	生活相談が出来る事業所の確認、居宅介護利用の提案、サークル活動、就業・生活支援センターの当事者交流会の情報提供、療護施設のボランティアの週末参加	ニーズに対し情報提供されたため本人がどのようなサービスを希望するかの見守り	会議で情報を得たものの中から本人が希望する内容に参加(療護施設の週末ボランティア参加)
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	この会議を機に支援機関が顔を合わせそれぞれの役割分担を明確にすることが出来た	職業開拓校担当者が聴き取った本人ニーズを地域の支援機関と連携できる体制	今ある地域資源での余暇活動の提案に対し本人がどのような希望を持つか、どの資源を活用するか見届けていく

表6　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2103

性別:女　年齢:13　地域:千秋　国籍等:日本　平成21年4月28日現在

健康状態		疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
		アスペルガー症候群	—	—	—	—	—	処方薬あり
生活機能	心身機能・身体構造		精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
			不安定になることが時々ある	問題なし	問題なし	—	—	周囲の影響により不安定になる
	活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
		実行状況(している)	可	自立	言われたことはできる	学生のためなし	—	中学生として相応
		能力(できる)	可	自立	言われたことはできる	学生のためなし	—	中学生として相応
	参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
		実行状況(している)	中学2年生(普通学級)	なし	好きなことはいろいろありそう	不明	習い事:パソコン、塾、スイミング、部活:テニス	通常の社会参加をしている
		能力(できる)	学生のため不明	ボランティアとして参加できそう	自分で楽しむことできる	不明		適切な友人関係を作ることが困難
背景因子	環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
		物的環境	なし	なし	なし	集合住宅	特になし	物的環境に問題なし
			家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
		人的環境	母子家庭で弟に身障、アスペあり、母うつ状態	学校の悪友に巻き込まれトラブルになっている	不明	学校の先生による配慮あり	なし	障害に配慮して関れる支援者が必要
			利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
		社会環境	アスペでの障害者医療	なし	なし	なし	余暇活動支援	公的サービスとしてではない社会参加支援が必要
			(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子		安心できて、疲れない生活	不明	なし	交友関係	—	周囲の影響や変化に弱い
会議参加者	参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
		—	母	—	—	—	相談支援事業所(2)、中学校、養護学校、児童デイ事業所、身体障害者療護施設、療育サポートプラザ、児童相談センター、福祉課	参加機関は本人に対し協力的

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等
	学校内で先生たちが注意してみてくれるようになった。	放課後や長期休暇の生活をどうするか
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク
	関係機関は母を通してのつながりのみだった	障害に限らない、包括的な地域支援ネットワーク

総合所見(現状)

一般的な学生生活を送ることが出来るが、アスペルガーゆえ周囲の影響や変化に弱く、適切な交友関係が持てないことあり、周囲の協力や支援を必要としている

総合所見(今後)

学校の先生による配慮や、地域に存在する支援者の見守りなどの協力により、本人の社会活動への継続的な支援ができるとよい

表7　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2104

性別:男　　年齢:33　　地域:神山　　国籍等:日本　　平成21年5月14日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	自閉症	—	—	—	好きなものばかり自由に食べられる生活のため肥満ぎみ	精神科に定期通院あり
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		こだわりやコミュニケーション障害あり	問題なし	問題なし	—	—	知的の障害は軽いので、自分の意を通そうとする
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	清潔保持や入浴などは不十分	父とヘルパーが行う	民間企業の好意でお手伝い程度に行っている	簡単な買物はできる	身の回りのことはある程度出来るが不十分な面もあり
	能力(できる)	可	清潔保持や入浴などに一部介助、見守り要	行う意欲はなさそう	過去就労経験あり、作業可能	金銭管理は苦手	自分の意思で自由に行動できる
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	民間企業で掃除などお手伝い程度	現在はなし	ボウリング、回転寿司、喫茶店、スーパー銭湯	近所へのいたずらがある	—	気ままな生活を通そうとしている
	能力(できる)	過去就労経験有り、対人関係の困難など支援は必要	就労系通所サービスの利用可能	楽しむことは出来るが適度な利用は困難	してはいけないことだと分かってやっている	—	個人の活動は出来るが、集団になじみにくい
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	入浴補助器具	なし	集合住宅	浴槽が深く入浴が困難	浴槽改修が必要
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母が亡くなってから父にベッタリで父の疲労激しい	不明	不明	支援者の助言の受け入れはやや良い	以前利用していた事業所職員	父の前と第3者の前では本人の態度が異なる
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳B、障害年金2級	なし	居宅介護(私的契約)	就労系通所サービス	—	本人はサービス利用の意思はあまりない
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	父と一緒の自由気ままな生活	不明	自宅の風呂に入らない	入浴できない、通所しない	本人の希望:トレーニグジム、布団やさん、かっぱ寿司がやりたい	気ままな生活がしたいようである
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	参加状況	参加	父	民間企業の管理者	—	—	相談支援事業所(3)、地域活動支援センター、短期入所事業所、福祉課	本人宅で本人の意思、希望確認しながらサービスの調整ができた
会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点		残された課題等		総合所見(現状)		
	地域活動支援センターの見学、朝の支度のヘルパー支援など、障害福祉サービスの利用に対し本人の同意を得た		障害福祉サービスの利用が定着して本人の生活リズムが確立できるかどうか		本人の意見をもとにサービス利用計画の作成をすることが出来、関係機関で共有することが出来た		
地域連携	既存の地域支援ネットワーク		今後目指す地域支援ネットワーク		総合所見(今後)		
	父と本人にさまざまな関係機関が関っていた		各関係機関の目標の共有(本人、父も含め)		サービスの利用状況、経過のモニタリングが必要		

表8　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2105

性別：女　　年齢：38　　地域：大和　　国籍等：日本　　平成21年5月22日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	神経症	精神発達遅滞	—	交通外傷(右大腿骨骨折)	—	—	精神科に定期通院あり
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		被害的な思考パターンにより易怒的で不安定	歩行に困難有り	問題なし	—	—	機能的に十分ではないが一定の能力はある
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	屋内、短距離は歩行可	ほぼ自立	家事全般はヘルパーが行う	なし	2週間分の金銭管理をしている	ヘルパー等による援助により単身生活を送っている
	能力(できる)	屋内、短距離は歩行可	ほぼ自立	手伝い程度	不明	2週間分の金銭管理をしている	ヘルパー等による援助により単身生活を送っている
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	なし	ラジオにて音楽を聴く	なし	—	個人的な交遊関係はあり
	能力(できる)	不明	集団活動は現段階では困難	不明	不明	—	本人に適する日中活動の場がない
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	一戸建て	—	身障あるが用具なしで生活できる
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母：精神科入院中、会えば激しい喧嘩となる	交際している男性がいる	不明	支援者の役割理解し使い分けている	母の支援者への関りあり	自ら関係をくずすことはない
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	身体障害者手帳3級、精神保健福祉手帳2級、障害年金2級	なし	居宅介護、訪問看護	日常生活自立支援事業	常時相談可能なところ	サービスは整っている
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	自宅で静かに過ごしたい	自由にできること	タバコ	母親との関係	寂しいという訴えあり	精神的に不安定ながら単身生活できている
会議参加者	参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
		—	—	—	精神科病院訪問看護担当者	—	相談支援センター、包括支援センター、居宅介護事業所、日常生活自立支援事業担当者、高年福祉課、福祉課	本人、家族の参加は見込めない

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	日常生活自立支援事業の実施、お風呂のガス開栓	母との関係不良で、母退院後の同居は困難と思われるためその際に再度検討は必要である	本人の年金受給がスタートしたため日常生活自立支援事業の利用が可能となり、本人の生活費が確保され金銭面は母と分離可能になった
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	相談支援、訪問看護、居宅介護などの関係者や、母の関係者との連携もとれており、本人の支援体制はほぼ整っている	金銭管理の制度も利用し、各関係機関での連携を保つ	母の調子に左右されない環境での生活を送るため、今後も関係機関による支援や検討が随時必要

表9　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2106

性別:女　　年齢:44　　地域:木曽川　　国籍等:日本　　平成21年5月28日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	統合失調症	—	—	—	—	精神症状から食事摂れず体重減少	精神科定期通院あり、現在入院中
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		時々不安定になる	問題なし	問題なし	—	—	不調の自覚がうすい
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	自立	ヘルパー利用あり	就労経験なし	医療的なケアは精神科訪問看護の支援、服薬管理は兄	病状により生活能力の低下がみられる
	能力(できる)	可	自立	具体的には不明	病状不安定のため困難と思われる	自らの不調を訴えることはできる	病状により生活能力の低下がみられる
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	なし	未確認	なし	—	社会的参加はほぼない
	能力(できる)	不明	本人の意志が固まれば可能	料理を覚えたい希望あり	不明	—	通所には条件を整える必要がある
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	s	なし	なし	一戸建て(老朽化激しい)	近隣から植木の苦情などあり	自宅の管理は負担になっているよう
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母:認知症あり、入所待機登録中、兄:うつ病あり	不明	不明	関係者の受け入れは良好	なし	関係は受身的だが支援者は確保されている
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	生活保護、精神保健福祉手帳2級	なし	居宅介護、精神科訪問看護	デイケアなど日中活動の通所系事業	料理教室など	自宅外での活動の場の確保ができるとよい
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	不明	不明	なし	母の介護	—	本人の意思表出少ないため確認はその都度必要
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	参加状況 —	兄	—	—	—	相談支援センター、包括支援センター、高年福祉課、福祉課(障害、保護)	兄からの訴えあり、本人の状況確認と、今後の対応について検討
会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点		残された課題等				
	母の介護負担大きいことから母への適切な介護サービスや医療の導入、自宅のゴミの処分など関係者の関り継続の確認		母の介護サービス調整、認知症の治療、一家のことについて判断が必要な際は三女の協力が必要				
地域連携	既存の地域支援ネットワーク		今後目指す地域支援ネットワーク				
	関係者で連携取られているが、ケアマネとの連携がうまく取れていなかった		本人、兄は相談支援事業所、母はケアマネ中心に各関係機関が連携しながら一家の支援にあたる				

総合所見(現状)

本人は入院治療継続、退院後の生活は現在と変わらず。兄の訴えや母の対応については関係機関で役割分担しながら支援継続。

総合所見(今後)

今後も案件が随時絶えない一家であるため見守りと必要時の介入に備える

表10 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2107

性別:女　年齢:40　地域:尾西　国籍等:日本　平成21年5月29日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	境界性人格障害	—	—	—	—	—	精神科通院あり、自立支援医療診断書の病名は統合失調症
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		他者への操作性高い、見捨てられ不安が強い	問題なし	問題なし	—	—	思うようにならないと不安定になる
活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	自立	行えるが不十分	過去就労あり、現在はなし	育児が不十分と自ら訴えあり	調子の良し悪しにより差がある
	能力(できる)	可	自立	行えるが不十分	過去アルバイト経験有り	—	調子の良し悪しにより差がある
参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	現在は無し	なし	不明	おそらくなし	あちこちの相談窓口に自ら相談をしている	対人関係がうまく構築できないことでのトラブルは予想される
	能力(できる)	おそらく可(対人関係は困難か)	必要としていない	不明	不明	あちこちの相談窓口に自ら相談をしている	対人関係がうまく構築できないことでのトラブルは予想される
背景因子 環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	集合住宅	自家用車利用あり	物的環境に特に問題なし
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	父:厳しいが常識的範囲で、子育て支援あり、母:精神通院あり、元夫・子:同集合住宅に居住	不明	不明	感情的に訴えてくることあり	なし	支援者側は対応統一の必要がある
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	母子医療、児童手当、自立支援医療(精神通院)	なし	なし	なし	就労支援	収入のために仕事に就くことを求めている
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	子供と自分の3人での自由な生活	不明	服薬しすぎで朝起きれないことある	規則正しい生活、育児ができること	感情が先行し、操作性が高い	本人の特性を周囲が理解しておくことが必要
会議参加者 参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	なし(参加は拒否)	—	—	精神科主治医	—	児童相談センター、相談支援センター、子育て支援課、母子自立支援員、福祉課、小学校	主治医から本人の障害特性について助言あり、対応を具体的に検討できた

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	本人の状態安定のために就労支援が適当とのことで、対応方針を関係者で統一する確認ができた	子供の成長発達に適した育児	本人の状態不安定で両親との不和や、育児が不適切だったりと様々な問題が出ていたが、過去の経験から本人の就労が安定につながること予想できたため、就労支援を支援方針とした
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	本人から各関係機関への訴え多く、それぞれで対応していた	各関係機関の連携により統一された対応をもって本人の支援にあたること	仕事に就くことで、収入と居場所が確保されることで安定した生活をおくることが期待される

表11　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2108

性別：女　　年齢：53　　地域：葉栗　　国籍等：日本　　平成21年6月11日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	統合失調症	—	—	—	—	—	精神科通院あるも不規則
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		時に不安定	問題なし	問題なし	—	—	思考力、判断力の低下がみられる
活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	自立	ヘルパーによる援助	現在はなし	通販での買い物の管理ができない	身の回りのことはある程度できている
	能力(できる)	可	自立	手伝い程度は可	不明	金銭管理は不十分	身の回りのことはある程度できている
参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	なし	買い物	不明	—	自宅での生活が中心になっている
	能力(できる)	不明	条件整えば可(生活介護など)	自ら進んで楽しみを見つけることは出来る	不明	—	役割遂行は困難と思われる
背景因子 環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	集合住宅(市営住宅)	なし	物的環境は問題なし
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	夫：精神科入院中、夫の姉：金銭管理の支援あり	不明	近隣住民とあいさつや多少の行き来あり	受け入れは良好、民生委員の密接な関りあり	なし	関係は支援者に限られている
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	生活保護、精神保健福祉手帳2級、自立支援医療	なし	居宅介護、訪問看護、移送サービス、配食サービス	日常生活自立支援事業、就労系事業	—	日常生活で必要なサービスはほぼ整っている
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	自由に買い物できる生活	不明	夫へお金を要求して通らないと不安定、喧嘩になる	通販の未払い	—	お金に関することで不安定になりやすい
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
参加状況	—	夫	—	精神科PSW、訪問看護	—	相談支援センター、居宅介護事業所、民生委員、包括支援センター、日常生活自立支援事業担当者、福祉課(障害、保護)	地区民生委員が積極的に、密接に関っている

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等
	夫の日常生活自立支援事業の利用と、本人の定期的な通院の確保	夫退院後の介護保険サービス、障害福祉サービスの使い方
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク
	身内による金銭管理と、公的サービスの利用で生活は成り立っていた	医療、福祉(障害、生活保護)、介護の支援者らの連携と地域での見守り

総合所見(現状)
夫入院中の本人の生活は支援を受けつつ成立しているが、夫が退院してからのサービス調整については不十分であった

総合所見(今後)
夫の退院が決定したところでの再調整が必要

表12 際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2109

性別:女　年齢:40　地域:大和　国籍等:日本　平成21年7月1日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	非定型精神病	知的障害	—	—	—	—	定期的に精神科クリニックに通院あり
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		変化に弱く、パニックになる	問題なし	問題なし	—	—	変化に弱いことについて自覚はある
活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	自立	母がほとんど行っている	事業所でのボランティア的な手伝い	—	手伝いにとどまっている
	能力(できる)	可	自立	指示されたことは出来る	指示されたことは出来る	—	決まったこと・指示されたことは出来そう
参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	週1回ボランティア的なお手伝い	オセロなどのゲーム	不明	—	保護的な環境での参加にとどまっている
	能力(できる)	不明	毎日は行けない	自発的に楽しみを見つけるのは困難	不明	—	支援者がいて、定型的なことならできる
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	一戸建て	—	物的環境に問題なし
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母のみ	ほとんどなし	不明	ヘルパー、通所事業所の職員など	なし	関っている人が限られている
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	精神保健福祉手帳2級、障害年金2級	なし	居宅介護、事業所のボランティア的利用	通所事業所	サロン的地域活動支援センター、ケアホーム	緊急性はないが、サロン的通所が出来る所があるとよい
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	一人暮らしは無理だと思っているし望まない	マイペース	飼い犬とのふれあいが大きな心理的サポート	変化に対して対応できるようにしたい	—	自分の意思や意見もあり、状態も把握している
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
参加状況	参加	母	—	—	—	居宅介護事業者、相談支援事業者、ケアホーム事業所、福祉課	本人が意見を言うことができた

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等
	通所事業所の見学	本人が納得できる通所事業所がない
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク
	関っているところが限られていた	ライフステージに応じた流動的なネットワークが必要

総合所見(現状)
緊急性はないが将来的な不安を持っている
総合所見(今後)
母不在となった場合に備え、本人の対処能力を身につけていくことが必要

表13 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2110

性別:女　年齢:43　地域:木曽川　国籍等:日本　平成21年7月7日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	—	—	—	—	—	精神科定期的通院あり
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		知的障害ベースで、不安定になることあり	問題なし	問題なし	—	—	自由を好むが誰かにかまってほしいという行動あり
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	ほぼ自立	気分による(ヘルパー利用あり)	作業所通所している	金銭管理は苦手	精神的な調子、気分的なところに左右される
	能力(できる)	可	ほぼ自立	一通り可能	作業所通所可能	日常生活自立支援事業利用している	個人の生活能力は備わっている
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	通所授産施設利用	買い物	不明	通所事業所帰りにショッピングセンターに寄る	行動範囲は限られている
	能力(できる)	通所授産施設での活動は可能	通所は毎日できている	抑制はきかない	不明	毎日寄ることが出来る	限られた範囲での行動は単独で可能
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	アパート	実家があるが空家になっており管理不十分	通常の生活に不自由な面はない
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母:養護老人ホーム入所中、兄:同居、知的障害有り、就労あり	不明	不明	福祉関係の支援者との関係有り	不明	関係者と良好な関係を築くことが困難なので、関係者側に配慮必要
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳B、障害年金2級	なし	居宅介護、知的障害者通所授産施設、日常生活自立支援事業	短期入所	—	必要な制度やサービスの利用はある
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	自由な生活	自由な生活	毎日ショッピングセンターに寄ること	適切な人間関係が保てない	—	自由にしていたいが誰かに認めてもらいたい
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	参加状況 参加	—	—	精神科病院PSW	—	社協(サービスセンター事業担当、日常生活自立支援事業担当)居宅介護事業所、相談支援事業所、通所事業所、福祉課	本人の参加により、本人の意見を関係者に伝えることが出来た。

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	ヘルパーの支援内容の見直し、入所施設の体験(短期入所など)	金銭管理の問題	サービスの利用や支援者は整っているが本人の希望することは支援者側の考えや実際の支援と異なることがある。本人の状態に応じて柔軟に対応を変えて関ることが望ましい(支援は途切れないように)
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	関係者は整っている	適切な距離感で支援者が途切れないように関係を継続させたい	支援者が本人と適切な関係を保ちつつ関りを持つことが必要

表14　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2111

性別:女　年齢:52　地域:西成　国籍等:日本　平成21年7月15日現在

健康状態		疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
		パニック障害	うつ病	下痢症	—	—	—	外出できず通院が出来ない(処方薬あり)
生活機能	心身機能・身体構造		精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
			不安が強く、家の外に出られない、他者への操作性が高い	五十肩で腕が上がらない	問題なし	—	身体症状は多数あり	こだわりや思い込みが強く生活が制限されている
	活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
		実行状況(している)	可	自立	全般行う	就労は現在ない	外出できない	能力はあるが、実行できない
		能力(できる)	可	自立	家事は出来る	不明	外出できない	能力はあるが、実行できない
	参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
		実行状況(している)	現在はなし	なし	不明	不明	—	外出できないため社会活動に制限を受ける
		能力(できる)	不明	必要なし	不明	不明	—	支援関係者への要求は強い
背景因子	環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
		物的環境	なし	なし	なし	一戸建て	なし	物的な整備等は特に必要としていない
			家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
		人的環境	息子:自閉症、叔母:施設入所(以前同居)、弟:別居、アルコール依存	障害を持つ子の親として仲良くしている友人の助け有	ほとんどない	関係者に対しての要求が高い	なし	本人のこだわり強く家族・親戚の援助が得られる状態ではない
			利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
		社会環境	精神保健福祉手帳3級、自立支援医療	なし	居宅介護、日常生活自立支援事業、家政婦利用	なし	常にそばにいてくれる人	自分で制度・サービスを選択して使っている
			(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子		自分の意のままになる生活	体調不良はサプリメントで調整(月7万)	きちんとしていないと気がすまない	外出できない、お金の遣い方、経済的問題、息子の介護	共同生活の提案、紹介には拒否	人格障害の要素を呈している
会議参加者	参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
		—	—	—	参加なし(主治医コメント有り)	—	相談支援事業所、居宅介護事業所(2)、息子の通所事業所、福祉課	医師のコメントが会議で参考になった

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	本人に対する関係者の理解が深まって、対応の統一を図ることが出来た	お金の遣い方(残金わずかで2月に破綻の予測あり)、息子の介護、本人が生活の変化を受容し、対応すること	本人の思い、意思が強いため、確認しながら見守り、関係者が出来る範囲での支援を継続する
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	本人が支援者を集めるだけで、ネットワーク化していなかった	関係機関の統一した対応が求められるネットワーク	本人が出来ることをなるべく伸ばせるような関りを継続しつつ、息子の介護や将来のことについても検討が必要

表15 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2112

性別:女　年齢:43　地域:萩原町　国籍等:日本　平成21年8月25日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	統合失調症	痒疹	—	—	—	下肢の廃用性筋力低下で自力歩行不可	定期的に通院あり、2ヶ月に1度(精神科)
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		理解力・現実検討能力は乏しいが、知的好奇心は高い	下肢の廃用性筋肉低下	問題なし	—	—	リハビリにより身体的能力改善傾向
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	四つん這いで可	ほぼ全介助	ヘルパーによる	現在は就労不可と思われる	—	自宅のベッド上で過ごすことがほとんど
	能力(できる)	昨年は全く出来なかったがリハビリにより改善傾向	セッティングあれば着脱や食事可	不可	不可	—	下肢のリハビリにより活動の幅は広がる
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	なし	不明	不明	—	外出は通院時のみ
	能力(できる)	不可	金銭面で母のストップあり	不明	不明	—	福祉施設の利用も可能と思われる
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	車イス、ポータブルトイレ	なし	歩行器	一戸建て(持ち家)	2階居室のゴミの影響で不衛生、害虫やねずみも	姉の居室にヘルパーは入れないため改善しない
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母:判断力低下、姉:なんらか障害がありそう(精神疾患未治療)	なし	不明	ヘルパー、相談支援、医療機関など、訪問リハ担当	—	姉への支援も必要と思われる
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	精神手帳1級、身障手帳4級、障害基礎年金1級、自立支援医療	成年後見制度	ヘルパー、訪問リハ、相談支援による訪問	生活介護、自立支援事業	—	近い将来には成年後見が必要
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	不明	母親の判断	入浴の機会が確保されていない	住環境の衛生保持	会話可能だが複雑な話は理解難しい	新しい出来事に不安を示すが適応はよい
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	参加状況 —	—	—	精神科病院PSW	保健所	居宅介護事業所、包括支援センター、相談支援事業所、高年福祉課、福祉課	成年後見の利用も含め医療機関からの意見をとのことで通院先も参加

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	本人らの金銭の状況について明らかになり母の成年後見についてまずは進めることになった。他、姉へのアプローチも開始されることに	本人の成年後見と、姉との関係作り	母の判断能力低下みられ、金銭管理も不十分であることから母への成年後見が必要となった。本人らの生活安定のためにも姉への支援が必要とされ、介入の機会をうかがっていた
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	訪問系の事業による関りで形成されていた	本人が外出できるよう通所の事業所も含め、連携を保つ	本人への成年後見の準備、生活介護の利用を進める。相談支援による姉への関りもスタートする

表16 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2113

性別:男　年齢:12　地域:奥町　国籍等:日本　平成21年9月10日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	自閉症	—	—	—	—	定期通院なし
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		自閉症のためこだわりなどあり	問題なし	視覚、聴覚の感覚過敏	—	—	感覚過敏やこだわりへの配慮が必要
活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	排泄や衣類の着脱は一部介助	母が行う	児童のため不明	—	身の回りのことで見守り、仕上げがいる
	能力(できる)	可	介助や見守りでほぼ可能	児童のためお手伝い程度	児童のため不明	—	習慣化されていることはできている
参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	養護学校小学部6年生	放課後、休日に児童デイ、日中一時利用	水遊び、高いところが好き	不明	—	設定されれば参加し、過ごしている
	能力(できる)	児童のため不明	児童デイ、日中一時それぞれに適応している	室内プールは苦手	不明	—	自発的な参加にはなっていない
背景因子 環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	絵カード	なし	なし	一戸建て	パニック時に落着けるための場所が必要	関係する機関でコミュニケーションツールの統一がされるといい
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母:主介護者、父:単身赴任、兄:受験生、本人とトラブル多い	学校、児童デイでの交流あり	不明	本人の支援者との関係は良好	通りがかりの人を押したり、パニック時に胸ぐらつかむことある	安心できる人には要求を示せる
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳A		児童デイ、日中一時、移動支援	通院介助、身体介護		サービスの利用あり、統一の対応、質の向上を要す
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	安心できる生活	不明	ヒラヒラ等常動行動有、自慰行為有	原因は不明だが人を押す行為あり	スケジュールの示し方やコミュニケーションの方法の確立	押す行為を予防し、安心できる環境を作る援助を要す
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
参加状況	—	母	—	—	—	養護学校、児童デイサービス事業所、日中一時支援事業所、療育サポートプラザ、相談支援事業所、居宅介護事業所、福祉課	本人に関わる機関が参加でき、情報の集約ができた

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等
	各関係機関での取り組みが報告され、本人への対応を統一することができた	母は、どんな大人になって自立した生活ができるかとの心配を持っている
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク
	関係機関でのそれぞれの取り組みだった	本人への関りを関係機関で共有し、情報交換しながら支援していく

総合所見(現状)
本人の不安や思いと外れることから起こる問題行動について共通の認識がもて、対処についても共有できた
総合所見(今後)
会議の結果を今後、実際に本人と関わるときに生かしていくことが必要

表17 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2114

性別:男　年齢:34　地域:神山　国籍等:日本　平成21年9月11日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見	
	知的障害	自閉症	—	—	—	肥満傾向	心療内科での処方薬あるがきちんと服用できていない	
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見	
		知的障害は軽いため、わかっていることは多い	問題なし	問題なし	—	—	知的障害は軽いため、わかっていることは多い	
	活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
		実行状況(している)	可	入浴や着替えなど衛生面の保持は適切でない	ヘルパー利用	地活利用、作業は可能	簡単な買物	清潔保持に介助は必要だが身の回りのことは自力で可能
		能力(できる)	可	動作は行えるが見守りや声かけなど必要	整頓程度	以前就労経験あり、地活での作業もできている	金銭管理は苦手	能力的には可能でも、意思が不明確
	参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
		実行状況(している)	なし、地活での作業	地域活動支援センター	ボーリング、喫茶店、スーパー銭湯	他の家の郵便物を抜き取るなどのいたずらをしてしまう	—	本人のいたずら行動が支援を妨げている
		能力(できる)	過去就労経験有り。作業可能(ゆっくり)	朝の支援がいるが一応継続して利用できている	楽しむことはできるが計画的に利用できない	いたずらだとわかってやっている	—	いたずら行為について自覚あるがやめられない
背景因子	環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
		物的環境	なし	なし	なし	集合住宅	—	物的環境に特に問題なし
			家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
		人的環境	父:本人中心の生活に限界を感じている	不明	不明	支援者との関りは積極的だが人を選ぶ	以前通所先の施設長	本人の行為に父や関係者が振り回されがち
			利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
		社会環境	療育手帳B、障害年金2級	なし	地域活動支援センター、居宅介護(公費、自費)、移動支援	なし	なし	サービス利用希望はあるが、実際は本人のいたずらで関係者が困っている
			(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子		母が居たころの生活	不明	自宅の風呂に入っていない	本人のいたずらが絶えない	電話頻回で、調子が悪いときは無言	母への寂しさがいたずら行為を増長
会議参加者	参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
		参加	父	—	—	—	相談支援事業所(2)、居宅介護事業所(3)、地域活動支援センター、福祉課	本人、父からの意見に基づいて検討できた

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等
	ヘルパーの利用について本人の意思確認と、父の想いを伝えてもらい、支援の継続について関係機関で確認することができた	支援が上手く継続されるか、本人のいたずらがどうなるか、モニタリングが必要
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク
	相談支援を中心に本人の支援が行われている	今後も継続して連携を持って支援、私的利用のヘルパーも含めネットワークを構築

総合所見(現状)
本人のいたずらに父も支援者も振り回されがちで、現在の支援の継続に疑問が生じたため検討を要した
総合所見(今後)
本人にヘルパーの利用希望有り、通所も継続し、支援は継続。今後も時機をみて再検討しながら支援していく

表18 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2115

性別:女　年齢:40　地域:貴船　国籍等:日本　平成21年9月15日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	疾病	疾病	その他	評価・所見
	知的障害(重心)	もやもや病による脳血管障害	I型糖尿病、部分てんかん、神経因性膀胱	—	—	血糖のコントロールが困難	疾患多く、定期通院あり
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		知的障害あるが意思疎通は可	体幹、上肢に障害有り	問題なし	バルンカテーテル留置	—	問いかけについて単語での返答や笑顔みられる
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	不可	ほぼ全介助	夫が行っている	なし	—	夫による介助で支えられている
	能力(できる)	不可	お茶を飲む、車椅子の操作などの動きは可能	介助が必要	作業的活動は軽度であれば可能と思われる	—	ゆっくりとした動作は可能、意思も伴う
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	なし	ペンたてのような作品を作りたいと希望を話す	不明	—	身体疾患などにより行動に制限を受けている
	能力(できる)	困難	身体疾患も多く利用可能な事業所は少ない	援助があれば可能	不明	—	介助のもとで外出は出来る
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	車イス、介護ベッド、ポータブルトイレ、体位交換機	—	—	集合住宅1階(賃貸)	自宅のお風呂場が狭く入浴は不可	通院先医療機関に近いため通院は便利
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	内縁の夫が本人の介護を行っている	不明	不明	関係者と夫が良好な関係を築けない傾向	不明	夫が本人の支援のため行動を起こし結果トラブルに
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	生活保護、身障手帳1級、療育手帳A、障害基礎年金1級	なし	訪問看護、医療でのレスパイト入院、移動入浴	居宅介護、生活介護、短期入所	—	医療的ケアが多くサービス利用が困難になっている
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	不明	不明	自宅で入浴が出来ない	入浴の機会確保	—	利用できる制度が少なく入浴の機会が少ない
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	参加状況	参加	内縁の夫	—	通院先医療機関MSW,生活介護事業所母体医療機関Ns	—	相談支援、生活介護事業所、介護保険居宅介護支援CM、福祉課(保護、障害)	利用先の事業所との情報交換が適切に行われた

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	新規の生活介護事業所を含め、関係機関で本人への支援方針や連絡体制などが確認でき、スムーズに利用を進めることができた	入浴の機会の確保など含め、医療的ケアの重いかたが利用できる福祉サービスの拡充	利用できるサービスが少なく、夫が中心となって介護に当たる一方で、関係機関との信頼関係を築きにくく関係が悪化しがち。福祉サービスの調整を会議で行うことによりスムーズなサービス利用につなげたい
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	医療機関や相談支援など様々な関係機関へ夫が相談を持ちかけ、整理されない状態であった。	医療的ケアと福祉サービスの連携	利用できるサービスは限られているが、継続して定期的に利用できるよう今後も計画的にサービスを利用していく

表19 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2116

性別:女　年齢:18　地域:北方　国籍等:日本　平成21年9月18日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	—	—	—	—	小・中と学校生活に馴染めず不登校、夜泣きや失禁、髪を抜く自傷みられた	小・中の頃の様な精神的不安定さはない
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		精神的不安定さは確認されず服薬もない	問題なし	問題なし	—	—	小・中の頃の様な精神的不安定さはない
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	自立	母が行う	中卒後はどこにも通わず就労もしていない	—	家事ははとんど母が行うが本人もやれば出来る
	能力(できる)	可	自立	自分でもできる	不明	—	家事ははとんど母が行うが本人もやれば出来る
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	なし	携帯電話、音楽鑑賞、お化粧、猫と遊ぶ	なし	—	外出は母といとことのみ
	能力(できる)	あいさつ、簡単な読み書き、計算、日常会話が可	不明	公共交通機関利用して遠方までコンサートに行ける	不明	—	勉強なり就職なり通えるところが欲しいが支援必要
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	大家と同一敷地内の離れを借りている	なし	物的環境にほぼ問題なし
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母:理解力低く支援不十分、弟:身体、知的障害	いとこと外出する	大家がいるがほとんど交流なし	就業・生活支援センター職員や弟の担任教員との交流あり	日常的な交流は親族のみ	つきあいの範囲が狭く、家族に障害あるため支援必要
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳C	なし	なし	職業訓練校、職業開拓校	自宅近くの就労移行支援事業所	生活保護停止は妥当でないと思われる
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	学校に行き将来は子ども相手の仕事や図書館、花屋で働きたい	10代のファッションや音楽についていくこと	なし	生活保護停止、学校にも施設にも所属していない	—	現状ではいけないという思いがあるため支援は有効
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	—	—	—	—	—	相談支援事業所、障害者就業・生活支援センター、養護学校	本人のみでなく世帯単位で支援が必要であると確認できた

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等
	情報共有と役割分担ができ、支援方針を一致させることが出来たため連絡がスムーズになった	生活保護開始へ理解が得られるか、本人が望む就労に向けた学びの場があるか、またあっても利用できるか
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク
	生活保護ケースワーカーや弟の担任教員があるが連携はほとんどない	相談支援事業所が介入し生活保護CW,弟の担任交え世帯全体への支援体制を構築する

総合所見(現状)
不登校、ひきこもりの期間が長かったこと、また家族から進路選択についての有効な支援が得られないことから継続的な支援が必要である

総合所見(今後)
生活保護の開始、職業訓練校等の進学を支援していくなかでひきこもりの弟へのアプローチを試み、家族全体を支援していきたい

表20　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2117

性別:男　年齢:40　地域:今伊勢　国籍等:日本　平成21年10月7日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	自閉症	—	—	—	—	定期通院等はなし
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		気分のムラがあり不安定になることある	問題なし	視覚的情報交換が有効	—	—	気分のムラがあり不安定になることある
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	入浴一部介助必要	母、姉が行っている	施設での作業	—	家族の支援がある状態で、支障なく生活している
	能力(できる)	可	洗体や洗髪には介助が必要だがそれ以外はほぼ自立	経験が無いのでおそらく不可	簡単な作業なら可能	—	支援が無い場合どこまで可能か不明確
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	通所更生施設、日中一時支援	外出、買い物、絵を描く、アニメ、フィギュア	不明	—	休日は単独で外出している
	能力(できる)	簡単な作業、通所更生施設での活動は可能	定期的に利用	お金の計算はできない	不明	—	余暇を楽しむことができている
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	一戸建て	同敷地内に姉一家が居住	物的環境は整っている
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	父:直腸ガン、母:透析、姉:自家のことで手一杯	不明	不明	支援者との関係は構築されている	異性への興味強く、問題となってしまうことある	家族の支援は今後受けることが困難になる
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳A、障害基礎年金2級	なし	知的障害者通所更生施設、短期入所、日中一時	なし	入所施設、ケアホーム	介護者不在のため施設入所で対応する必要がある
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	不明	不明	日曜日は本人なりの余暇活動あり	公的サービスによる支援に慣れる必要がある	慣れてしまえば定着する	新たな生活スタイルにゆっくり慣れる支援を要する
会議参加者	参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
		—	姉	—	—	—	相談支援(3)、知的障害者入所更生施設、通所更生施設、施設入所支援、ケアホーム事業所、福祉課	本人の代弁者として姉の参加

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	施設入所のめどを立てることができた。	施設側の体制未整備のため通いなれた施設を離れなければならず、施設入所に伴い本人の通所先が変更になる	両親の体調悪化で今までどおり自宅で生活することが困難になってしまったため、入所施設を探し、生活の拠点を移す。
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	通所施設と家族のみのネットワーク	入所先施設を拠点に家族や関係者との関係を継続	施設入所に向けショートステイでの施設利用から徐々に慣れていけるように準備をしていく。

表21　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2118

性別:女　年齢:27　地域:富士　国籍等:日本　平成21年10月7日現在

健康状態		疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
		知的障害(重心)	脳性小児マヒ	—	—	—	呼吸管理必要、体温調整難しい	痙攣止めの薬処方あり、定期通院有り
生活機能	心身機能・身体構造		精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
			重心の状態で意思表示等はほぼできない	ほぼ寝たきり、寝返り不可	不明	—	—	重心の状態ですべてに介護が必要
	活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
		実行状況(している)	不可	全介助	母とヘルパーが全般行う	なし	意思表示も困難	全面的に介助が必要
		能力(できる)	不可	全介助	不可	不可		全面的に介助が必要
	参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
		実行状況(している)	なし	なし	不明	なし	—	障害が重く参加に制限がある
		能力(できる)	不可	不明	不明	不可	—	障害が重く参加に制限がある
背景因子	環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
		物的環境	たん吸引機、紙おむつ、座位保持装置	特殊寝台、マット(自宅床が抜けそう、母が抱えられない)	なし	一戸建て(築70年)	室温調節が難しい	必要最低限の物品はある
			家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
		人的環境	母のみ	不明	隣人との交流(母)	病院、ヘルパー、相談支援の関りある	なし	関係者の関りに母が協力的ではない
			利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
		社会環境	身体障害者手帳1級、療育手帳A最重度、特別障害者手当、障害年金1級	なし	居宅介護、訪問看護	生活介護、短期入所	無料で利用できるサービス	サービスについて母のこだわり強く結びつきにくい
			(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子		不明	不明	生活は母の采配による	入浴など金銭的理由によりサービス利用されていない	本人の希望はわからない	母の意志により本人の生活は左右される
会議参加者		本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	参加状況	参加	母	—	訪問看護	—	相談支援センター、居宅介護、生活介護事業所、福祉課	本人参加でも本人の意思や希望は確認できない

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等
	母の精神科受診を勧めたい、ヘルパー(身体介護)を2人体制で利用できるようにする	本人への適切な介護やサービスの確保のための母の理解
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク
	各関係機関で母からの訴えを受け止めつつ支援継続している	母の意志に左右されずに本人へ適切なサービスが提供できる支援

総合所見(現状)
母の意志や関係者からの提言に対する抵抗が強くサービスの受け入れが出来ないため、現状見守りとしかできない

総合所見(今後)
母に精神科受診を勧めて心理的な安定を図ってもらい、サービスの利用について安定して供給できるように支援したい

表22 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2119

性別:男　年齢:19　地域:宮西　国籍等:日本　平成21年10月21日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	自閉症	—	—	—	—	精神科で落着くための処方あり
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		自閉症によりこだわりや突発的行動がある	問題なし	問題なし	感覚過敏がある	—	自閉症によりこだわりや突発的行動がある
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	自立	家族が行っている	授産施設で作業を行っている	—	通所施設での作業になれてきている。
	能力(できる)	可	自立　時に声かけ必要	手伝い程度は可	作業内容、環境が整えば可能	—	配慮された環境で作業できる
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	無し	知的通所授産施設通所	紙きり	不明	—	学校卒業後通所が継続されている
	能力(できる)	困難と思われる	通所先での作業を行える	自ら選択して取り組むことは困難	不明	—	習慣とされていれば通所できる
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	無し	無し	不明		コップなど割れやすい物は使用しない	破壊行為が起こったときに安全を守る工夫が必要
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母、祖母、妹と生活。母、祖母とも仕事している	通所先での交流あり	不明	少しずつ慣らしながら関係を作っていった	本人が物を壊すので、祖母、妹が怖がっている	妹、祖母が本人の障害をどう理解しているか不明
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳A	なし	知的通所授産、日中一時、居宅介護、ST	なし	夕方から夜間の見守り	祖母が世話を行ってきたが、公的サービスで提供する必要あり
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	不明	不明	こだわりあり、壊すことで発散	コップ、プラスチック、鏡を割って壊す	スケジュールや、思惑が変わることへの抵抗が大きい	物を壊す行為あり本人なりの理由はあるが他者からは不明の場合有
会議参加者	参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
		—	母	養護学校教師	—	—	短期入所施設、通所授産施設、相談支援事業所、居宅介護事業所	現に困っている祖母が参加できるとよかった

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	本人の状況、対応の仕方について共通認識が持てた。中心となる援助者を決めることで、情報の集約がしやすくなった。	支援関係者の認識は統一できたが、家族の障害理解、対処方法についてはまだ十分でない	本人の物を壊す行為について、防ぐ方法、起こったときの対処方法が確認でき、落ちついた対応が期待できる
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	各機関が本人の行動にそれぞれの対応をしていた	対応を統一することで本人にも分かりやすい支援を提供する	関係者だけでなく、家族が安心して本人と関われるようにすることが必要

表23 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2120

性別:男　年齢:26　地域:西成　国籍等:日本　平成21年10月21日現在

健康状態		疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
		知的障害	自閉症	季節性のアレルギー症状	—	—	歯科通院(虫歯の治療)	風邪をひきやすい、不明熱あり(不適応症状か？)
生活機能		心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
			知的障害のため本人の意思を図ることは難しい	問題なし	聴覚過敏あり	—	—	障害のため本人の意思を図ることは難しい
	活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
		実行状況(している)	可	入浴は母からの制限で清拭のみ	母が行う	作業は支援があれば行える	落ち着き無く絶えず動いている	母からの制限がある
		能力(できる)	可	清潔は保たれている	支援があれば出来ることもあるが経験が不十分	福祉サービス利用の中での簡単な作業等	—	本人の能力を母が制限している印象
	参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
		実行状況(している)	なし	知的障害者通所更生施設利用	セロテープ工作(月3万円費やす)	なし	移動支援での週1回の買い物でキャンディを買う	余暇支援にも母の制限がある
		能力(できる)	通所更生施設での活動は可能	問題なく出来ている	工作は毎日の日課として行う	経験なし	定着している	障害のため、変化に弱く、パターン化している
背景因子	環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
		物的環境	なし	なし	なし	一戸建て(持ち家)	なし	物的環境に特に問題はない
			家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
		人的環境	母:パニック障害等で外出困難	なし	なし	通所先の職員や相談支援の職員など	なし	母の障害により本人も制限を受けることあり
			利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
		社会環境	療育手帳A、障害基礎年金1級	なし	通所更生施設、移動支援、福祉有償運送	短期入所、日中一時、余暇支援	通所施設の送迎サービス	自宅、母から離れて生活することも考えたい
			(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
		個人因子	不明	変化のない生活パターン	水遊びしてしまうので入浴はさせてもらえず清拭のみ	母の家政婦利用により経済的な破綻が予想される	—	収入を上回る出費で生活が出来なくなりつつある
会議参加者		本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	参加状況	—	なし(母から文書でのコメントあり)	—	—	—	相談支援事業所、知的障害者通所更生施設、入所施設、短期入所事業所	相談支援事業者は外出困難で出席できない母の代弁者としての役割

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	母子分離を視野に入れ、まず母が一人で過ごすことが出来るような支援策を母に提示し取り組むことで経済的負担を軽くする、本人はショートステイなどの利用を体験してみる	親族の協力や母の努力、自宅のケアホーム化、事業所での入浴の対応、余暇活動の充実	母が一人で過ごせないために家政婦を利用して家計は困窮し生活の破綻が予想されるため、一家の生活を支えるために相談支援やヘルパー等が一家の支援にあたっている
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	相談支援を中心に各関係機関とのネットワークが出来ている	近隣や親族を含めたネットワーク	母が一人で過ごせるような支援策を提示して母にも取り組んでもらい、親族や近隣の協力を今後のためにも得るよう支援し、一家の生活を支援する

表24 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2121

性別:女　年齢:44　地域:木曽川　国籍等:日本　平成21年11月5日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	—	—	—	—	—	精神科に定期通院
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		心理的に不安定になりさみしさを訴える	問題なし	問題なし	—	—	さみしいという気持ちが継続的にある
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	ほぼ自立	掃除や食事などはヘルパー支援あり	授産施設へ通所している	金銭管理が苦手	精神的な調子によって活動は左右される
	能力(できる)	可	ほぼ自立	適切には出来ないため支援必要	作業可能	日常生活自立支援事業利用	日常的な動作はほぼ自立
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	授産施設	買い物	なし	近所の公園で一人でお酒を飲んでいたりする	問題行動と紙一重なところがある
	能力(できる)	通所授産施設での活動は可能	施設への通所は毎日出来ている	金銭管理は出来ていない	なし	—	自己管理では不十分で支援が必要
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	アパート	実家があり処分を検討	実家があるが管理されていない
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母;施設入所、兄:同居、知的障害、就労している	不明	不明	ヘルパーや作業所の職員など	不明	本人の行動が不信を招き関係者との関係が良好に保ちづらい
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳B、障害年金2級	成年後見制度	居宅介護、知的通所授産、日常生活自立支援事業	なし	なし	本人は事あるごとに施設入所を希望している
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	寂しい思いをしないですむ生活	不明	買い物が好きだが金銭の管理はできない	実家の処分(財産管理)	万引き行為がある	万引きは犯罪という認識は薄いよう
会議参加者	参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
		参加	—	—	精神科病院PSW	—	社協(サービスセンター事業担当、日常生活自立支援事業担当)居宅介護事業所、知的通所授産、福祉課	本人の希望や意見が述べられた

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	万引きは行わないように関係者からも呼びかけ本人に自覚を促す、金銭管理について見直し、実家の処分について必要な手続きを行う	細かな金銭管理、成年後見制度の利用	金銭管理が自分では不十分なことなどから万引きしてしまったり、実家の処分について判断が難しく放置されている状態であった
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	日常生活上での支援関係者は整っており関係も出来ている	成年後見人など含め本人、一家への支援体制を保つ	支援内容について本人の要求と実際に必要と考えられる支援が異なること多いため、モニタリングしながら支援継続していく

表25 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2122

性別:女　年齢:54　地域:葉栗　国籍等:日本　平成21年11月10日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	統合失調症	—	—	—	—	—	精神科通院あるも不規則
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		時に不安定、思考力・判断力の低下が見られる	問題なし	問題なし	—	—	思考力、判断力の低下がみられる
活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	自立	ヘルパーによる援助	現在はなし	通販での買い物の管理ができない	身の回りのことはある程度できている
	能力(できる)	可	自立	手伝い程度は可	作業所での作業能力はとても高いと評価	金銭管理は苦手	身の回りのことはある程度できている
参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	就労継続B型事業所の利用を試み通所は保留	買い物	不明	—	自宅での生活が中心になっている
	能力(できる)	不明	条件整えば可	自ら進んで楽しみを見つけることは可	不明	—	役割遂行は困難と思われる
背景因子 環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	集合住宅	なし	物的環境は問題なし
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	夫:精神科入院中	不明	不明	受け入れは良好、民生委員の密接な関りあり	なし	関係は支援者に限られている
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	生活保護、精神保健福祉手帳2級、自立支援医療(精神通院)	なし	居宅介護、就労継続B、訪問看護、移送サービス、配食サービス	日常生活自立支援事業	なし	日常生活で必要なサービスはほぼ整っている
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	自由に買い物できる生活	不明	夫へお金を要求して通らないと不安定、喧嘩になる	通販の未払い	—	お金に関することで不安定になりやすい
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
参加状況	—	—	—	精神科PSW、Ns、訪問看護	—	相談支援センター、居宅介護事業所、民生委員、包括支援センター、日常生活自立支援事業担当者、福祉課(障害、保護)	地区民生委員が積極的に、密接に関っている

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	夫の退院後の生活について夫婦ともに生活のイメージが持てるようにまず外泊を試み、使えるサービスについて整理した。	夫退院後の介護保険サービス、障害福祉サービスの使い方	夫退院後、夫婦2人で自宅で生活するか施設等で別居するのか本人らの意見があいまいであったことや、安定した生活を送るための支援体制が組みにくいことなどから調整が困難であった
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	公的サービスや支援機関が関ることでそれぞれの生活が成立していた。	夫婦2人での生活で不安定になったときも地域で支えられるシステム	夫の外泊で自宅での生活のイメージを作り、支援体制をニーズに基づき組み立て地域で支えていける工夫をする

表26 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2123

性別:男　年齢:51　地域:尾西　国籍等:日本　平成21年11月10日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	—	—	—	—	—	通院等はしていない。健康状態は不明
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		軽度の知的障害あり複雑な手続きなど難しいことへの支援必要	問題なし	問題なし	—	—	複雑な手続きなど難しいことへの支援必要
活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	自立	簡単な家事は可	これまで就労なし	金銭管理は伯父がしている	日常の身の回りのことはほぼできている
	能力(できる)	可	自立	簡単な家事は可	簡単な作業は可能と思われる	訪問販売などに騙される可能性あり	日常の身の回りのことはほぼできている
参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	無し	なし	自転車で出かける	不明	—	自分なりの生活をしてきている
	能力(できる)	希望無し	希望なし	自転車で出かける	役を担うことは困難	—	社会経験の機会が極端に少ないため新たな通所に適応できるか不明
背景因子 環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	無し	無し	無し	一戸建(持ち家)	家は老朽化しておりところどころ修理が必要	家の中は物が少なく、しかし本人は困っていない
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	伯父が気にかけている。現在は金銭管理してもらっている	無し	近所の方は気にして見ていてくれる	相談支援担当、民生委員の関わりあり	—	本人に対して好意的な環境。伯父が体調から支援困難になってきている
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳C	成年後見制度	伯父による金銭管理、朝夕食事の宅配サービス	障害福祉サービス	—	生活費の確保のために成年後見が必要
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	今の生活を継続したい	不明	午後は自転車で外出している	生活費の確保ができていない	—	障害年金か自宅の売却により生活費を確保する必要がある
会議参加者 参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	参加	伯父	—	—	—	相談支援事業所、民生委員、生活保護担当職員、後見ネット会員	成年後見制度の利用のため、専門機関に参加してもらうことが出来た
会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点		残された課題等		総合所見(現状)		
	障害年金の申請、成年後見制度の申立てを相談支援センターの援助にて、伯父、本人により準備		障害年金の対象とならなければ、自宅の売却で生活費を確保しなければならない		長年自分なりの生活をしてきており、一人暮らしが可能だが、金銭管理など伯父によって行われてきた。今の家で暮らし続けるためには障害年金の受給しか方法がない		
地域連携	既存の地域支援ネットワーク		今後目指す地域支援ネットワーク		総合所見(今後)		
	伯父、民生委員など限られた関わり		伯父の代りを補助人、相談支援事業所、ヘルパーなど公的サービスで補っていく		伯父により行われてきた援助を公的なサービスに切り替えていく。また、生活費の確保をしていく必要がある。		

表27　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2124

性別:男　年齢:12　地域:浅井　国籍等:日本　平成21年11月10日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	自閉症	—	—	—	半年に1回程度受診している	環境を整えることが必要
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		自閉症による異食、突発的な行動への支援が必要	問題なし	問題なし	—	—	自閉症による異食、突発的な行動への支援が必要
活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	排泄など練習中	祖母・母が行っている。洗濯物を取り込む練習をしている	作業的な課題を取り組んでいる	買物で選択すること、買う手順の練習をしている	本人の理解にあわせた練習が必要
	能力(できる)	可	ある程度できるが介助が必要	不明	不明	支援があれば可能	習得したものは可能
参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	養護学校中学部1年生	児童デイサービス利用	字を書くこと	サッカー、スイミングに通っている	—	児童のため生活の中心は学校となる
	能力(できる)	学生のため不明	送迎介助は必要	自発的な活動は困難	活動可	—	参加のために設定が必要
背景因子 環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	コミュニケーションツール　スケジュールボード	なし	なし	一戸建	異食の対象となるものを隠す	本人の理解力を高め、生活力を高める必要がある
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母就労のため、夕方は祖父母の世話。土日は父が担当	学校での交流あり	地域の小学校に通い、本人のことをよく知っている人が多い	行動援護、居宅介護で自宅での支援あり	—	周囲が本人の障害を理解している
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳A	なし	児童デイサービス、行動援護、居宅介護	なし	預けられるサービスで適切な支援を提供してくれる事業所	サービスを提供できる事業所を複数で持つ必要がある
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	当たり前の生活が一緒に出来るようになってほしい(家族より)	祖父と自転車での散歩	自閉症によるこだわり、異食あり	突発的な行動をコントロールできない	—	問題行動が減り安心できる暮らしが必要
会議参加者 参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	—	母	—	—	—	児童デイ、行動援護事業所、相談支援事業所、養護学校	他のサービス事業所の参加があると良かった

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	本人に対する支援を複数の事業所で行なえるように、伝達していく	本人の支援を行なう知識と技術を持つ人材の不足(新たな居宅介護事業所に支援方法を伝達する)	これまでは祖父母の協力に頼ってきたが、年齢もありまた、本人の体格も大きくなってきていることから、公的サービスの割合を増やす必要が出ている
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	限られた関係者と家族による支援	技術を伝達し複数の機関が重層的に支援できる	公的サービスの提供料を増やすため、2事業所で週4日交代で支援に入り、本人の安定した生活のための支援を確保する

表28　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2125

性別:男　　年齢:3　　地域:宮西　　国籍等:日本　　平成21年11月18日現在

健康状態		疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
		知的障害(重心)	脳原性運動発達遅滞	てんかん	—	—	環境が変わると発作を起こしやすい	てんかんの発作あり、適切な服薬が必要
生活機能		心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
			全体的に知的発達の遅れがある	体幹機能障害により、はいはいで移動	問題なし	—	—	適切な療育が必要
	活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
		実行状況(している)	未	ほぼ全介助	本人は不可。母が行っている	児童のためなし	何でも口に入れて確かめている	生活習慣がまだ身についておらず、支援が必要
		能力(できる)	はいはいで移動	食事、排泄、着衣など練習中	不可	児童のためなし		働きかけにより獲得の可能性あり
	参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
		実行状況(している)	未就学	母子通園、児童デイ、肢体訓練施設	不明	不明	—	児童のため考慮しにくい
		能力(できる)	児童のため不明	利用可	不明	不明	—	児童のため考慮しにくい
背景因子	環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
		物的環境	車椅子	不明	不明	アパート	—	補装具の利用できている
			家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
		人的環境	母子家庭だが、父の協力あり	母子通園などでの交流あり	不明	福祉サービスの支援者の関係あり	離婚により父方祖父母との交流はなくなった	母が抱え込むか、全面的にサービスを頼る傾向
			利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
		社会環境	身体障害者手帳2級、療育手帳A、手当	不明	母子通園、ショートステイ、児童デイ、肢体訓練施設	施設入所	長時間利用できる重度障害児の保育	公的サービスの利用はされている
			(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
		個人因子	母とともに安定した生活をする	不明	不明	母の就労のため、夜間移動し短期入所を利用したり、十分なケアが得られない	—	本人にとって必要な養育、療育が確保できていない
会議参加者	参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
		—	—	—	—	—	母子通園、短期入所、児童デイ事業所、相談支援事業所、子育て支援課、福祉課	医療分野の参加が望ましい

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	父の協力が得られることが確認できた。サービス利用のため、夜間移動をなくした	本人の日常の世話と発達のための療育の確保	母が就労のため、母による本人の世話や発達を促す働きかけができなくなってきていた。本人を中心にサービス利用を調整する必要がある。
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	関われる機関が限られている	母が一番信頼しているところを核に関わり、関わる機関が共通認識の中で見守る	母子通園を中心に母が育児をしていけるようにする

表29　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2126

性別:女　　年齢:17　　地域:葉栗　　国籍等:日本　　平成21年月日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	自閉症	てんかん	—	—	—	祖父が亡くなった後発作の頻度が増えている
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		こだわりあり	問題なし	問題なし	—	—	こだわりあり
活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	食事、排泄ほぼ自立	母の手伝いをする	学生のため経験なし	—	発作以外の身体的問題なし
	能力(できる)	可	場面によっては見守り必要	母の手伝いをする	不明	—	場面によって本人の意思で行わないこともあり
参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	養護学校高等部3年生	日中一時支援	外出(行動援護利用)	不明	—	場面設定により参加はスムーズにできる
	能力(できる)	学生のため不明	利用可能	援助の設定が必要	不明	—	一人での外出は難しいが場面設定すれば落ち着いて過ごせる
背景因子 環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	一戸建て	なし	本人が理解しやすい環境が必要
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母・姉・父と同居	学校や日中一時での友人など	不明	活動の場面、環境によって差が出る	—	周囲の人が共通理解が持てると良い
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳A	なし	行動援護、日中一時支援	なし	なし	母が仕事をしている為本人の居場所が必要
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	家で落ち着いてすごせるようになる	自分なりのこだわり有	夕方家に帰るとなかなか家に入れない	感情の起伏が激しい	来春姉が進学のため別居予定	こだわりが強い、感情激変することあり
会議参加者 参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	—	母	—	—	—	養護学校、就労継続B型事業所、生活介護事業所、居宅介護事業所、相談支援	本人にとって何が大切か確認できた

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等
	各機関での取り組みを報告し、本人への対応を統一することが出来た	本人の感情の起伏の激しさと不安定さに対し母は心配している
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク
	関係機関それぞれの取り組みだった	本人への関り方を各機関で共有していくことと並行して情報を共有し連携していく

総合所見(現状)
本人の家族がいなくなるという喪失感を各機関で共有しつつ、安定した生活への取り組みを再確認できた
総合所見(今後)
家族を喪失した揺れを踏まえつつ本人の楽しみや可能性を生かした日中活動につなげていく

表30 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2127

性別:女　年齢:31　地域:尾西　国籍等:日本　平成21年12月2日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	—	—	—	—	婦人科の受診	健康状態は良好、体調不良時は自分で受診
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		緊張場面(初めての場面など)でひとりだと泣くことがある	問題なし	問題なし	—	—	難しいことの判断には支援が必要
活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	自立	ヘルパー利用し、調理など一緒に行う	福祉的就労	金銭管理は保佐人の支援受けている	生活していく上での不都合はない
	能力(できる)	可	自立	援助があれば可能	単純作業など	金銭管理は苦手	支援があればほぼ問題ない
参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	就労継続A型事業所	友達と遊ぶ、ペットを飼う	カラオケや外出で事業所の友人や同僚と交流が持てている	—	余暇も上手く利用して生活している
	能力(できる)	就労継続支援A型利用し作業行うことできている	休むことなくきちんと利用	人との関りを大切にできる	カラオケや外出で事業所の友人や同僚と交流が持てている	—	支援受け、場面に応じて行動できる
背景因子 環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	一戸建て(本人名義)	なし	父が残してくれた自宅で単身生活
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	両親:死亡、親類:日常的には関りなし	職場の友人等	不明	保佐人あり、支援者とは良好な関係	—	結婚を考えている相手との交際が始まったところ
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳C、障害年金2級、成年後見制度(保佐)	なし	就労継続A、居宅介護			支援体制は整っているが生活形態に応じて調整
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	結婚をして家庭をもって暮らしたい	不明	なし	なし	なし	人と一緒に幸せに過ごしたいという希望がある
会議参加者 参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	参加	親族(伯母、叔母夫妻、叔父)	交際相手、その両親	—	—	相談支援事業所、就労・生活支援センター、就労継続A、居宅介護事業所、福祉課	2人の意見をもとに心配なことや支援体制などが整理できた

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等
	2人の希望を踏まえた上で、親族や関係者から具体的な意見が述べられ、心配なことやどのような支援が受けられるかが整理できた。	結婚することで生活スタイルもかわるため、状況に応じて対応できるよう体制を整えておく必要がある。結婚について希望を持つ方は多いが事例が少ない。
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク
	支援者は整っており、ネットワークもできている	生活スタイルに応じ柔軟に対応できる支援体制

総合所見(現状)

結婚の希望により周囲がそれぞれに心配したり、本人たちの仕事や生活に良くも悪くも影響があったため情報交換や調整が必要であった。

総合所見(今後)

親族、家族間で話し合いを行っていき、必要があれば再会議を行うなど支援を考えていく。

表31　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2128

性別:女　年齢:18　地域:西成　国籍等:日本　平成21年12月4日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	脳性マヒ	心室中隔欠損症、てんかん	側弯症	—	—	てんかん発作(8年程無し)のため服薬あり
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		知的障害、こだわりやコミュニケーション障害あり	側弯症	不明	—	—	環境と本人に適した支援必要
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	常に見守り必要	一部介助、見守り必要	母が行う	経験無し	—	生活の中で常に見守り必要
	能力(できる)	単独歩行(平面)は可能だが常に見守り必要	場面によっては本人やる意欲あり	行う意欲はなさそう	不明	—	本人ができる所は見守りで、できない部分は支援
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	養護学校高等部3年生	日中一時支援	カラオケ、買物(行動援護利用)	不明	—	場面設定によって参加はスムーズに出来る
	能力(できる)	学生のため不明	利用可	楽しむこと出来るが一人での利用は困難	不明	—	整ったスケジュールで行動援護のような支援は必要
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	コミュニケーションボード、コミュニケーションツール、携帯用会話補助装置	なし	なし	一戸建て	—	本人が理解しやすい環境が必要
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	主に母と過ごしている	学校や日中一時での交流	不明	環境が整っていれば支援者の受け入れはよい		周囲の共通理解は必要
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳A、身障手帳1級	なし	行動援護、日中一時	なし	なし	行動には常に支援する必要あり
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	本人のできることをいかした生活	自分なりのこだわり有	不明	なし	新しい場面、人だといつもできることが出来ない	自分の意志が強く拒否してしまうことも多い
会議参加者	参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
		—	母	—	—	—	養護学校、生活介護、就労継続B事業所、相談支援	本人の進路に向け共通理解をもてた

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	本人の可能性を探りながら卒業後の安定した日中活動につなげていく	卒業後の本人の可能性と日中活動へのマッチング	卒業後の進路に向けて本人の持つ可能性をさぐり本人の安定した生活につなげる
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	母を介して事業所、学校で連絡をしていた	複数の関係者と連携して支えていく	卒業後は生活介護を利用しながら、本人の生活の豊かさのために日中一時や居宅(行動援護)の利用も並行して継続していく

表32　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2129

性別：女　　年齢：53　　地域：尾西　　国籍等：日本　　平成21年12月11日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	統合失調症	—	—	—	—	精神科入院中	精神科治療は今後も長期にわたって必要

生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		幻聴・幻覚があり不安定となる	ふらつきがある	問題なし	—	—	身体的な問題はないが、精神症状により行動が制限される
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	ふらつきある	ほぼ自立(自宅では入浴できない)	調理、買い物はヘルパー利用	なし	入院中も院内活動への参加はほとんどない	行動が精神症状により左右されている
	能力(できる)	屋外を歩行できる。タクシーの利用が可能	ほぼ自立	簡単な調理、買い物は可	以前は作業を行っていたが意欲がない	決まったプログラムをこなすのは困難	能力よりも意欲の低下によりできなくなっている
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	行けずにいる	不明	行事などへの参加はしていない	—	何をするでもなく1日過ごしている
	能力(できる)	以前はあったが現在は困難	以前はあったが現在は困難	編み物がしたい。スーパー銭湯に行きたい	退院のあいさつにだけと周囲への気遣いはできる	—	気分の良い時であれば可能だが参加のためにセッティングが必要
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	ポータブルトイレ(母のもの)	なし	入浴補助用具？	市営住宅	—	本人を良く知っている人も多く本人にとっては住み慣れた場所
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母は老健入所中	友人はいない	近隣の方は本人のことを気にしている	訪問看護、ヘルパー、相談支援等からの支援あり	—	関わる人のほとんどが支援者になってきている
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	生活保護、精神保健福祉手帳2級、自立支援医療	なし	日常生活自立支援事業　居宅介護、配食サービス、訪問看護	—	日常的に利用できる金銭管理サービス	複数の制度を利用しているが、カバーしきれていない
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	できれば仕事やその他の活動にも参加したい	盆、正月などの行事、仏壇のお供えなど	毎日タバコがほしい	日中1人で過ごし、症状にとらわれたり、タバコがコントロールできない	困ったこと、要求は電話などにより発信できる	生活の全てが精神症状に左右されているところがある

会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
参加状況	参加	—	—	医療相談員、訪問看護	—	居宅介護事業所、相談支援センター、社協、就労移行支援事業所	保健所、民生委員が参加できなかったが、参加できるといい

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等	総合所見(現状)
	退院後の支援調整ができた	症状が落着かず、生活してみての修正が必要	幻聴や幻覚に振り回されて生活全てに問題が生じてしまっている。服薬や金銭管理の方法等にも様々な工夫をして支援しているが、本来の本人の描く豊かな生活にたどりつけないでいる
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
	これまでの個別支援会議に参加してきた行政・福祉・医療等の基本的な暮らしを支えていくためのネットワーク	保健所や地域のボランティア団体などさらに豊かに暮らしていくために支援の輪を広げていく	今のありのままの現状を受け入れて支援していかなければならないか、病状が安定せずその都度起きることに対応していくことが主となってしまっているため本来の本人のニーズが見えてこない

表33 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2130

性別:女　年齢:57　地域:今伊勢　国籍等:日本　平成21年12月11日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	脳出血	高血圧	—	—	降圧剤を服用している	脳出血の後遺症により麻痺や障害がある
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		変化は苦手で軽いこだわりあるが情緒は安定	右片麻痺あり	問題なし	言語障害あり	—	言葉は聴きづらいがゆっくりであれば聞き取り可能
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	右麻痺のため不安定	一部介助	食事や買物の支援はヘルパー利用	過去に就労あり	少し遠出をするときは、自らタクシーを呼び利用している	ヘルパー支援受け生活している
	能力(できる)	可	一部見守り、支援が必要	洗濯は自分で行う	過去に就労あり	—	日常的な活動にあまり不自由はない
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし、過去に就労有	介護保険での通所介護、居宅介護	カラオケ。喫茶店のスタッフが店に連れて行ってくれることがある	不明	—	通所先との信頼関係が築けている
	能力(できる)	おそらく現在は不可	良好な関係で利用できている	カラオケ	不明	—	通所先との信頼関係が築けている
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	ポータブルトイレ	なし	—	借家	手すりつきのベッド(起き上がり時必要)	自宅は老朽化しているが生活に不都合はなさそう
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	子どもからの電話や来訪。実家に行くこともある	通所介護での友人とのおしゃべりは楽しみ	喫茶店のスタッフ	支援者との関係は良好	—	良好な対人関係を築くことが出来る
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳B、障害年金2級、生活保護	なし	居宅介護、通所介護(介護)	生活介護	基準該当生活介護	現在利用の通所介護を引き続き利用したい
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	今とかわらない生活	不明	喫茶店に行くこと	—	—	自分でできることは人に頼らず自分でやる
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	参加状況	参加	—	—	—	相談支援(2)、通所介護(介護保険)居宅介護、基準該当生活介護(2)、福祉課	本人の希望をもとに支援方針が定まった。

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等
	利用が不可能と考えられていた通所介護事業所が基準該当の手続きをとって引き続き利用ができないか検討することになった	介護保険と障害福祉サービスの連続性が確保されていないため、継続して現在の事業所を使えない場合は他事業所へ移らざるをえない
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク
	介護保険のケアマネ中心に支援体制が組まれていた	障害福祉の相談支援を中心に本人の日常生活をサポート

総合所見(現状)
介護保険利用していたが生活保護で手帳所持のため障害福祉サービスへの切り替えが必要、同事業所を引き続き利用できずに本人の希望がかなわず負担となってしまうことが心配されていた
総合所見(今後)
同事業所を引き続き利用できるよう検討することと介護認定の更新が必要、それぞれでの結果を待って再調整

表34 国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2131

性別:男　年齢:11　地域:浅井　国籍等:日本　平成21年12月17日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	知的障害	自閉症	猫鳴き症候群	—	—	—	自傷、奇声があり支援が必要
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		パニック、自傷、睡眠障害がある	問題なし	聴覚過敏	嗅覚・触覚過敏	—	睡眠障害あり眠剤服用、感覚過敏あり配慮必要
活動		歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	可	食事、排泄はほぼ自立	行っていない	不明	—	身体的には問題なし。行動上の支援が必要
	能力(できる)	可	スプーンで食べる、排便後の処理要介助	行っていない	不明	—	個々の動作はほぼ獲得している
参加		一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	養護学校小学部6年生	児童デイサービス、日中一時支援	行動援護で外出乗り物が好き	不明	—	学校、児童デイに参加
	能力(できる)	児童のため不明	児童デイサービス、日中一時支援	設定の援助がいる	不明	—	自発的な活動は困難。行動援護にあるような支援を要する
背景因子 環境因子		利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	コミュニケーションツール	集合住宅で近所に音が伝わりやすい	暴れたとき静める場所として学校では教室の隅にマットを用意	本人が理解しやすい環境を用意することが必要
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	母子家庭、祖母が食事作りを手伝っている	学校・児童デイ、日中一時	暴れて出る音に苦情あり	活動場面によっては差が出る		周囲の人が共通理解が持てるといい
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	療育手帳A		児童デイサービス、行動援護、日中一時支援		学校の送迎支援	母が仕事をするために、本人の居場所が必要
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	家で落着いて過ごせるようになる	自分なりのこだわりあり	夕方帰宅後暴れてしまうそのため夜ドライブ	コミュニケーション方法の獲得		スケジュールの変更、意思疎通ができないため不安定になる
会議参加者 参加状況	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	—	母	—	—	—	児童デイサービス事業所、行動援護事業所、児相、養護学校	役割分担を一同で確認できた

会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点	残された課題等
	相談支援機関の介入により、相談・本人に適したサービスのコーディネートをしていく	母が仕事をしているため、学校の送迎が困難。また、放課後の居場所となる所が毎日必要
地域連携	既存の地域支援ネットワーク	今後目指す地域支援ネットワーク
	事業所と母、学校と母、との線での関わりだったと思われる	複数の関係者が共通の認識で支援にあたる

総合所見(現状)
1事業所のみでの支援に限界が生じた状況。コーディネーターが必要
総合所見(今後)
相談担当を決め、家で落着いた生活ができるようになることを目標に自宅での行動援護を取り入れ、母の就労のため平日の児童デイは継続する

表35　国際生活機能分類(ICF)を基にした現状分析表

IDNo.2132

性別:女　年齢:44　地域:大和　国籍等:日本　平成21年12月28日現在

健康状態	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
	統合失調症	乳ガン	糖尿病、子宮筋腫、子宮内膜症	交通事故後外傷	—	乳がんにより左胸切除	疾患が多く服薬も多い。今後は抗がん剤治療も開始予定。
生活機能	心身機能・身体構造	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	その他	評価・所見
		不安が強く、希死念慮あり。思考パターンは年齢より幼い	左腕は重いものは持ってはいけないがリハビリ必要	糖尿病のため眼科通院あり	—	—	体調、精神面の調子に配慮が必要
	活動	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
	実行状況(している)	まれにふらつき	洗髪や重いものを持つなどは介助が必要	ヘルパーの支援うけつつ自分で出来ることを行う	過去に就労あり	金銭管理はしっかりできている	支援を受けながら単身生活を送れている
	能力(できる)	可	ほぼ自立	簡単な家事は可能	不明	金銭管理はしっかりできている	物の管理や整理は苦手、服薬管理が不十分
	参加	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
	実行状況(している)	なし	なし	テレビ、ラジオ、雑誌	不明	喫茶店に行くのが楽しみ	デイケアはほぼ定期的に利用している
	能力(できる)	過去に就労あり	精神科デイケアに定期的に通うことできている	楽しみを見つけられる	不明	—	余暇も自力で過ごすことができる
背景因子	環境因子	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	あれば利用したい福祉用具	住居の状況	その他の特筆すべき物的環境	評価・所見
	物的環境	なし	なし	なし	市営住宅	—	住環境は整っている
		家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流・支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
	人的環境	入院時は兄弟など家族の支援がある	デイケアの友人	不明	支援者は整っており関係は良好	—	人当たり良く、本人に対して周囲は好意的
		利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
	社会環境	精神手帳2級、自立支援医療、障害年金2級、生活保護	—	居宅介護、精神科デイケア、訪問看護、配食サービス	—	—	必要に応じてサービスを適切に利用することが出来る
		(生活観)実現したい生活	(価値観)大事にしていること	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
	個人因子	不明	不明	喫茶店のモーニング	退院後の生活支援	—	ときに心理的に不安定になり沈みがち
会議参加者	本人	家族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
	参加状況						
	参加(途中退席)	—	—	市民病院MSW,ガン相談支援センターNs、精神科デイケアPSW、訪問看護Ns	—	相談支援(2)、居宅介護事業所、福祉課	がん治療や対応について具体的に知り支援を考えることができたが本人の心理的負担も大きいものであった
会議開催後の経過	会議後の取り組み等で改善された点		残された課題等		総合所見(現状)		
	乳がんの治療や経過について関係者が適切な知識を持ち本人への対応や支援策を考えることが出来た。		抗がん剤治療で体調不良時の支援や入院する場合の支援など臨機応変な対応が必要		乳がん治療のために手術し入院中、今後の治療方針に従って生活支援も見直しが必要、支援者の体制を整えておく必要がある		
地域連携	既存の地域支援ネットワーク		今後目指す地域支援ネットワーク		総合所見(今後)		
	連携もって本人の支援体制が出来ていた		場面に応じて関係者で調整し本人が安心して生活できるようにサポート		治療方針が定まったところで支援者間で再度打ち合わせ行い、具体的に本人への支援体制を整える。		

資　料　2

9　分析項目別全事例一覧表（表 36～表 46）

表36 分析項目別全事例一覧表（健康状態）

IDNo.	疾病	疾病	疾病	外傷	外傷	その他	評価・所見
2021	知的障害	—	—	—	—	—	年齢相応の体力、健康を保持できている
2022	知的障害	自閉症	—	—	—	—	自分から不調を訴えることは出来ない
2023	統合失調症	心不全	—	—	—	外食などによる急な体重増加がみられる	精神科への定期的な通院継続が出来ている
2101	アスペルガー症候群	強迫性障害	—	—	—	本人に障害の認知があまりない、本人受診なし	アスペルガーの二次障害としての強迫性障害
2102	知的障害	てんかん	—	—	—	—	てんかんのための受診継続が必要
2103	アスペルガー症候群	—	—	—	—	—	処方薬あり
2104	知的障害	自閉症	—	—	—	好きなものばかり自由に食べられる生活のため肥満ぎみ	精神科に定期通院あり
2105	神経症	精神発達遅滞	—	交通外傷（右大腿骨骨折）	—	—	精神科に定期通院あり
2106	統合失調症	—	—	—	—	精神症状から食事摂れず体重減少	精神科定期通院あり、現在入院中
2107	境界性人格障害	—	—	—	—	—	精神科通院あり、自立支援医療診断書の病名は統合失調症
2108	統合失調症	—	—	—	—	—	精神科通院あるも不規則
2109	非定型精神病	知的障害	—	—	—	—	定期的に精神科クリニックに通院あり
2110	知的障害	—	—	—	—	—	精神科定期的通院あり
2111	パニック障害	うつ病	下痢症	—	—	—	外出できず通院が出来ない（処方薬あり）
2112	統合失調症	痒疹	—	—	—	下肢の廃用性筋力低下で自力歩行不可	定期的に通院あり、2ヶ月に1度（精神科）
2113	知的障害	自閉症	—	—	—	—	定期通院なし
2114	知的障害	自閉症	—	—	—	肥満傾向	心療内科での処方薬あるがきちんと服用できていない
2115	知的障害（重心）	もやもや病による脳血管障害	Ⅰ型糖尿病、部分てんかん、神経因性膀胱	—	—	血糖のコントロールが困難	疾患多く、定期通院あり
2116	知的障害	—	—	—	—	小・中と学校生活に馴染めず不登校、夜泣きや失禁、髪を抜く自傷みられた	小・中の頃の様な精神的不安定さはない
2117	知的障害	自閉症	—	—	—	—	定期通院等はなし
2118	知的障害（重心）	脳性小児マヒ	—	—	—	呼吸管理必要、体温調整難しい	痙攣止めの薬処方あり、定期通院有り
2119	知的障害	自閉症	—	—	—	—	精神科で落着くための処方あり
2120	知的障害	自閉症	季節性のアレルギー症状	—	—	歯科通院（虫歯の治療）	風邪をひきやすい、不明熱あり（不適応症状か？）
2121	知的障害	—	—	—	—	—	精神科に定期通院
2122	統合失調症	—	—	—	—	—	精神科通院あるも不規則
2123	知的障害	—	—	—	—	—	通院等はしていない。健康状態は不明
2124	知的障害	自閉症	—	—	—	半年に1回程度受診している	環境を整えることが必要
2125	知的障害（重心）	脳原性運動発達遅滞	てんかん	—	—	環境が変わると発作を起こしやすい	てんかんの発作あり、適切な服薬が必要
2126	知的障害	自閉症	てんかん	—	—	—	祖父が亡くなった後発作の頻度が増えている
2127	知的障害	—	—	—	—	婦人科の受診	健康状態は良好、体調不良時は自分で受診
2128	知的障害	脳性マヒ	心室中隔欠損症、てんかん	側弯症	—	—	てんかん発作（8年程無し）のため服薬あり
2129	統合失調症	—	—	—	—	精神科入院中	精神科治療は今後も長期にわたって必要
2130	知的障害	脳出血	高血圧	—	—	降圧剤を服用している	脳出血の後遺症により麻痺や障害がある
2131	知的障害	自閉症	猫鳴き症候群	—	—	—	自傷、奇声があり支援が必要
2132	統合失調症	乳ガン	糖尿病、子宮筋腫、子宮内膜症	交通事故後外傷	—	乳がんにより左胸切除	疾患が多く服薬も多い。今後は抗がん剤治療も開始予定

表37 分析項目別全事例一覧表（心身機能・身体構造）

IDNo.	精神機能	運動機能	視覚・聴覚	その他	評価・所見
2021	変化は苦手であるが情緒は安定	問題なし	問題なし	—	体調・健康面にあまり心配のない状態
2022	自閉症のため、コミュニケーションの特徴やこだわりがある	問題なし	問題なし	—	自閉症のため、コミュニケーションの特徴やこだわりがある
2023	現実検討能力は乏しい	右足をひきづって歩くため長い歩行は困難	問題なし	—	精神疾患の影響から判断能力の低下等みられる
2101	強迫性障害の症状が強く出ている状態	問題なし	音に敏感	—	強迫性障害の行動に家族(母)が巻き込まれている
2102	不明	問題なし	問題なし	—	てんかんのための受診継続が必要
2103	不安定になることが時々ある	問題なし	問題なし	—	周囲の影響により不安定になる
2104	こだわりやコミュニケーション障害あり	問題なし	問題なし	—	知的の障害は軽いので、自分の意を通そうとする
2105	被害的な思考パターンにより易怒的で不安定	歩行に困難有り	問題なし	—	機能的に十分ではないが一定の能力はある
2106	時々不安定になる	問題なし	問題なし	—	不調の自覚がうすい
2107	他者への操作性高い、見捨てられ不安が強い	問題なし	問題なし	—	思うようにならないと不安定になる
2108	時に不安定	問題なし	問題なし	—	思考力、判断力の低下がみられる
2109	変化に弱く、パニックになる	問題なし	問題なし	—	変化に弱いことについて自覚はある
2110	知的障害ベースで、不安定になることあり	問題なし	問題なし	—	自由を好むが誰かにかまってほしいという行動あり
2111	不安が強く、家の外に出られない、他者への操作性が高い	五十肩で腕が上がらない	問題なし	身体症状は多数あり	こだわりや思い込みが強く生活が制限されている
2112	理解力・現実検討能力は乏しいが、知的好奇心は高い	下肢の廃用性筋肉低下	問題なし	—	リハビリにより身体的能力改善傾向
2113	自閉症のためこだわりなどあり	問題なし	視覚、聴覚の感覚過敏	—	感覚過敏やこだわりへの配慮が必要
2114	知的障害は軽いため、わかっていることは多い	問題なし	問題なし	—	知的障害は軽いため、わかっていることは多い
2115	知的障害あるが意思疎通は可	体幹、上肢に障害有り、歩行不可	問題なし	バルンカテーテル留置	問いかけについて単語での返答や笑顔みられる
2116	精神的不安定さは確認されず服薬もない	問題なし	問題なし	—	小・中の頃の様な精神的不安定さはない
2117	気分のムラがあり不安定になることある	問題なし	視覚的情報交換が有効	—	気分のムラがあり不安定になることある
2118	重心の状態で意思表示等はほぼできない	ほぼ寝たきり、寝返り不可	不明	—	重心の状態ですべてに介護が必要
2119	自閉症によりこだわりや突発的行動がある	問題なし	問題なし	感覚過敏がある	自閉症によりこだわりや突発的行動がある
2120	知的障害のため本人の意思を図ることは難しい	問題なし	聴覚過敏あり	—	知的障害のため本人の意思を図ることは難しい
2121	心理的に不安定になりさみしさを訴える	問題なし	問題なし	—	さみしいという気持ちが継続的にある
2122	時に不安定、思考力・判断力の低下がみられる	問題なし	問題なし	—	思考力、判断力の低下がみられる
2123	軽度の知的障害あり複雑な手続きなど難しいことへの支援必要	問題なし	問題なし	—	複雑な手続きなど難しいことへの支援必要
2124	自閉症による異食、突発的な行動への支援が必要	問題なし	問題なし	—	自閉症による異食、突発的な行動への支援が必要
2125	全体的に知的発達の遅れがある	体幹機能障害により、はいはいで移動	問題なし	—	適切な療育が必要
2126	こだわりあり	問題なし	問題なし	—	こだわりあり
2127	緊張場面（はじめての場面など）でひとりだと泣くことがある	問題なし	問題なし	—	難しいことの判断には支援が必要
2128	知的障害、こだわりやコミュニケーション障害あり	側弯症	不明	—	環境と本人に適した支援必要
2129	幻聴・幻覚があり不安定となる	ふらつきがある	問題なし	—	身体的な問題はないが、精神症状により行動が制限される
2130	変化は苦手で軽いこだわりあるが情緒は安定	右片麻痺あり	問題なし	言語障害あり	言葉は聴きづらいがゆっくりであれば聞き取り可能
2131	パニック、自傷、睡眠障害がある	問題なし	聴覚過敏	嗅覚・触覚過敏	睡眠障害あり眠剤服用、感覚過敏あり配慮必要
2132	不安が強く、希死念慮あり。思考パターンは年齢より幼い	左腕は重いものは持ってはいけないがリハビリ必要	糖尿病のため眼科通院あり	—	体調、精神面の調子に配慮が必要

表38 分析項目別全事例一覧表（生活機能・活動 上段：実行状況（している） 下段：能力（できる））

ID No.	歩行	ADL	家事	職業能力	その他	評価・所見
2021	可	身の回りのことはほぼ自立	洗濯機の使用は可能	簡単な作業は可能	家事に支援必要(ヘルパーの利用)	家事に援助は必要
	可	身の回りのことはほぼ自立	洗濯は出来る	簡単な作業は可能		家事に援助は必要
2022	可	整容、入浴、食事に援助が必要	母が行う	学生のため未就労	—	自閉症のため、身の回りのことに援助が必要
	可	動作自体は可能だが、こだわり等により困難	電子レンジを使うことあり	作業は可	—	自閉症のため、身の回りのことに援助が必要
2023	右足をひきずって歩く	ほぼ自立	洗濯や掃除は自分で行う	就労はしていない	育児が人任せ	活動意欲はあまりない
	単独歩行は可能	ほぼ自立	食事の援助はヘルパー利用。元夫宅の食事をもらうこともあり	就労意欲が本人にない	育児が人任せ	活動意欲はあまりない
2101	可	こだわりや確認行為が多く、行動に支障あり	母が行う	中卒後、ひきこもりがちで就労なし	—	こだわりや確認行為が多く、行動に支障がある
	可	動作そのものはできる	不明	不明	—	こだわりや確認行為が多く、行動に支障がある
2102	可	自立	不明	一般就労	自転車通勤していたが発作のため母送迎	発作のため制限あるがそれ以外に不都合はないと思われる
	可	自立	不明	軽作業可能	自ら通勤は出来ていない	発作時の対応が適切であれば問題ないと思われる
2103	可	自立	言われたことはできる	学生のためなし	—	中学生として相応
	可	自立	言われたことはできる	学生のためなし	—	中学生として相応
2104	可	清潔保持や入浴などは不十分	父とヘルパーが行う	民間企業の好意でお手伝い程度に行っている	簡単な買物はできる	身の回りのことはある程度出来るが不十分な面もあり
	可	清潔保持や入浴などに一部介助、見守り要	行う意欲はなさそう	過去就労経験あり、作業可能	金銭管理は苦手	自分の意思で自由に行動できる
2105	屋内、短距離は歩行可	ほぼ自立	家事全般はヘルパーが行う	なし	2週間分の金銭管理をしている	ヘルパー等による援助により単身生活を送っている
	屋内、短距離は歩行可	ほぼ自立	手伝い程度	不明	2週間分の金銭管理をしている	ヘルパー等による援助により単身生活を送っている
2106	可	自立	ヘルパー利用あり	就労経験なし	医療的なケアは精神科訪問看護の支援、服薬管理は兄	病状により生活能力の低下がみられる
	可	自立	具体的には不明	病状不安定のため困難と思われる	自らの不調を訴えることはできる	病状により生活能力の低下がみられる
2107	可	自立	行えるが不十分	過去就労あり、現在はなし	育児が不十分と自ら訴えあり	調子の良し悪しにより差がある
	可	自立	行えるが不十分	過去アルバイト経験有り	—	調子の良し悪しにより差がある
2108	可	自立	ヘルパーによる援助	現在はなし	通販での買い物の管理ができない	身の回りのことはある程度できている
	可	自立	手伝い程度は可	不明	金銭管理は不十分	身の回りのことはある程度できている
2109	可	自立	母がほとんど行っている	事業所でのボランティア的な手伝い	—	手伝いにとどまっている
	可	自立	指示されたことは出来る	指示されたことは出来る	—	決まったこと・指示されたことは出来そう
2110	可	ほぼ自立	気分による(ヘルパー利用あり)	作業所通所している	金銭管理は苦手	精神的な調子、気分的なところに左右される
	可	ほぼ自立	一通り可能	作業所通所可能	日常生活自立支援事業利用している	個人の生活能力は備わっている
2111	可	自立	全般行う	就労は現在ない	外出できない	能力はあるが、実行できない
	可	自立	家事は出来る	不明	外出できない	能力はあるが、実行できない
2112	四つん這いで可	ほぼ全介助	ヘルパーによる	現在は就労不可と思われる	—	自宅のベッド上で過ごすことがほとんど
	昨年は全く出来なかったがリハビリにより改善傾向	セッティングあれば着脱や食事可	不可	不可	—	下肢のリハビリにより活動の幅は広がる
2113	可	排泄や衣類の着脱は一部介助	母が行う	児童のため不明	—	身の回りのことで見守り、仕上げがいる
	可	介助や見守りでほぼ可能	児童のためお手伝い程度	児童のため不明	—	習慣化されていることはできている
2114	可	入浴や着替えなど衛生面の保持は適切でない	ヘルパー利用	地活利用、作業は可能	簡単な買物	清潔保持に介助は必要だが身の回りのことは自力で可能
	可	動作は行えるが見守りや声かけなど必要	整頓程度	以前就労経験あり、地活での作業もできている	金銭管理は苦手	能力的には可能でも、意思が不明確
2115	不可	ほぼ全介助	夫が行っている	なし	—	夫による介助で支えられている
	不可	お茶を飲む、車椅子の操作などの動きは可能	介助が必要	作業的活動は軽度であれば可能と思われる	—	ゆっくりとした動作は可能、意思も伴う
2116	可	自立	母が行う	中卒後はどこにも通わず就労もしていない	—	家事はほとんど母が行うが本人もやれば出来る
	可	自立	自分でもできる	不明	—	家事はほとんど母が行うが本人もやれば出来る
2117	可	入浴一部介助必要	母、姉が行っている	施設での作業	—	家族の支援がある状態で、支障なく生活している
	可	洗体や洗髪には介助が必要だがそれ以外はほぼ自立	経験が無いのでおそらく不可	簡単な作業なら可能	—	支援が無い場合どこまで可能か不明確
2118	不可	全介助	母とヘルパーが全般行う	なし	意思表示も困難	全面的に介助が必要
	不可	全介助	不可	不可		全面的に介助が必要
2119	可	自立	家族が行っている	授産施設で作業を行っている	—	通所施設での作業になれてきている。
	可	自立 時に声かけ必要	手伝い程度は可	作業内容、環境が整えば可能	—	配慮された環境で作業できる
2120	可	入浴は母からの制限で清拭のみ	母が行う	作業は支援があれば行える	落ち着き無く絶えず動いている	母からの制限がある
	可	清潔は保たれている	支援があれば出来ることもあるが経験が不十分	福祉サービス利用の中での簡単な作業等	—	本人の能力を母が制限している印象
2121	可	ほぼ自立	掃除や食事などはヘルパー支援あり	授産施設へ通所している	金銭管理が苦手	精神的な調子によって活動は左右される
	可	ほぼ自立	適切には出来ないため支援必要	作業可能	日常生活自立支援事業利用	日常的な動作はほぼ自立
2122	可	自立	ヘルパーによる援助	現在はなし	通販での買い物の管理ができない	身の回りのことはある程度できている
	可	自立	手伝い程度は可	作業所での作業能力はとても高いと評価	金銭管理は苦手	身の回りのことはある程度できている
2123	可	自立	簡単な家事は可	これまで就労なし	金銭管理は伯父がしている	日常の身の回りのことはほぼできている
	可	自立	簡単な家事は可	簡単な作業は可能と思われる	訪問販売などに騙される可能性あり	日常の身の回りのことはほぼできている
2124	可	排泄など練習中	祖母・母が行っている。洗濯物を取り込む練習をしている	作業的な課題を取り組んでいる	買物で選択すること、買う手順の練習をしている	本人の理解にあわせた練習が必要
	可	ある程度できるが介助が必要	不明	不明	支援があれば可能	習得したものは可能
2125	未	ほぼ全介助	本人は不可。母が行っている	児童のためなし	何でも口に入れて確かめている	生活習慣がまだ身についておらず、支援が必要
	はいはいで移動	食事、排泄、着衣など練習中	不可	児童のためなし		働きかけにより獲得の可能性あり
2126	可	食事、排泄ほぼ自立	母の手伝いをする	学生のため経験なし	—	発作以外の身体的問題なし
	可	場面によっては見守り必要	母の手伝いをする	不明	—	場面によって本人の意思で行わないこともあり
2127	可	自立	ヘルパー利用し、調理など一緒に行う	福祉的就労	金銭管理は保佐人の支援受けている	生活していく上での不都合はない
	可	自立	援助があれば可能	単純作業など	金銭管理は苦手	支援があればほぼ問題ない
2128	常に見守り必要	一部介助、見守り必要	母が行う	経験無し	—	生活の中で常に見守り必要
	単独歩行(平面)は可能だが常に見守り必要	場面によっては本人やる意欲あり	行う意欲はなさそう	不明	—	本人のできる所は見守りで、できない部分は支援
2129	ふらつきある	ほぼ自立(自宅では入浴できない)	調理、買い物はヘルパー利用	なし	入院中も院内活動への参加はほとんどない	行動が精神症状により左右されている
	屋外を歩行できる。タクシーの利用が可能	ほぼ自立	簡単な調理、買い物は可	以前は作業を行っていたが意欲がない	決まったプログラムをこなすのは困難	能力よりも意欲の低下によりできなくなっている
2130	右麻痺のため不安定	一部介助	食事や買物の支援はヘルパー利用	過去に就労あり	少し遠出をするときは、自らタクシーを呼び利用している	ヘルパー支援受け生活している
	可	一部見守り、支援が必要	洗濯は自分で行う	過去に就労あり	—	日常的な活動にあまり不自由はない
2131	可	食事、排泄はほぼ自立	行っていない	不明	—	身体的には問題なし。行動上の支援が必要
	可	スプーンで食べる、排便後の処理要介助	行っていない	不明	—	個々の動作はほぼ獲得している
2132	まれにふらつき	洗髪や重いものを持つなどは介助が必要	ヘルパーの支援うけつつ自分で出来ることを行う	過去に就労あり	金銭管理はしっかりできている	支援を受けながら単身生活を送れている
	可	ほぼ自立	簡単な家事は可能	不明	金銭管理はしっかりできている	物の管理や整理は苦手、服薬管理が不十分

表39 分析項目別全事例一覧表（生活機能・参加 上段：実行状況（している）　下段：能力（できる））

IDNo.	一般就労・就学	福祉施設等の利用	趣味等	地域活動	その他	評価・所見
2021	一般就労はない	就労継続支援B型の利用あり	特になし、テレビを見ること	なし	生活支援ハウスで生活	就労支援施設の活動は積極的にできる
	高齢者のため一般就労の可能性低い	就労継続支援B型の利用あり	自ら余暇活動を行うことは困難	不明	生活支援ハウスでの共同生活可	慣れた場面では積極的に活動できる
2022	養護学校在籍中	日中一時支援	音楽を聴く、ビデオ鑑賞	なし	不登校気味（登校に支援が必要）	スムーズな参加のためには支援が必要
	福祉サービス事業所での実習は可	作業所通所は可能と思われる	自分で楽しみを見つけることが出来る	不明	援助があれば通所できる	スムーズな参加のためには支援が必要
2023	なし	なし	外食	自ら近所づきあいは出来ていない	元夫との交遊あり	元夫と一緒に遊びあるいてしまう
	継続的に働くことは困難と思われる	通所の意思なし	適切にはできない	自ら近所づきあいは出来ていない	—	必要な行動の判断はできない
2101	なし	なし	ゲーム、TV、PC、音楽	なし	—	自宅でひきこもり生活、外出は母とのみ
	不明	不明	機器を扱うことは可能だが周囲への配慮はできない	不明	—	自らの社会参加困難で支援が必要
2102	一般就労	なし	マクドナルド、映画、カラオケが好きだがあまり行けない	不明	—	余暇を充実して過ごせていない
	軽作業可	—	1人では行けない	不明	—	支援があれば趣味を充実することが出来る
2103	中学2年生（普通学級）	なし	好きなことはいろいろありそう	不明	習い事：パソコン、塾、スイミング、部活：テニス	通常の社会参加をしている
	学生のため不明	ボランティアとして参加できそう	自分で楽しむことできる	不明		適切な友人関係を作ることが困難
2104	民間企業で掃除などお手伝い程度	現在はなし	ボウリング、回転寿司、喫茶店、スーパー銭湯	近所へのいたずらがある	—	気ままな生活を過そうとしている
	過去就労経験有り、対人関係の困難など支援は必要	就労系通所サービスの利用可能	楽しむことは出来るが節度な利用は困難	してはいけないことだと分かってやっている	—	個人の活動は出来るが、集団になじみにくい
2105	なし	なし	ラジオにて音楽を聴く	なし	—	個人的な交遊関係はあり
	不明	集団活動は現段階では困難	不明	不明	—	本人に適する日中活動の場がない
2106	なし	なし	未確認	なし	—	社会的参加はほぼない
	不明	本人の意志が固まれば可能	料理を覚えたい希望あり	不明	—	通所には条件を整える必要がある
2107	現在は無し	なし	不明	おそらくなし	あちこちの相談窓口に自ら相談をしている	対人関係がうまく構築できないことでのトラブルは予想される
	おそらく可（対人関係は困難か）	必要としていない	不明	不明	あちこちの相談窓口に自ら相談をしている	対人関係がうまく構築できないことでのトラブルは予想される
2108	なし	なし	買い物	不明	—	自宅での生活が中心になっている
	不明	条件整えば可（生活介護など）	自ら進んで楽しみを見つけることは出来る	不明	—	役割遂行は困難と思われる
2109	なし	週1回ボランティア的なお手伝い	オセロなどのゲーム	不明	—	保護的な環境での参加にとどまっている
	不明	毎日は行けない	自発的に楽しみを見つけるのは困難	不明	—	支援者がいて、定型的なことならできる
2110	なし	通所授産施設利用	買い物	不明	通所事業所帰りにショッピングセンターに寄る	行動範囲は限られている
	通所授産施設での活動は可能	通所は毎日できている	抑制はきかない	不明	毎日寄ることが出来る	限られた範囲での行動は単独で可能
2111	現在はなし	なし	不明	不明	—	外出できないため社会活動に制限を受ける
	不明	必要なし	不明	不明	—	支援関係者への要求は強い
2112	なし	なし	不明	不明	—	外出は通院時のみ
	不可	金銭面で母のストップあり	不明	不明	—	福祉施設の利用も可能と思われる
2113	養護学校小学部6年生	放課後、休日に児童デイ、日中一時利用	水遊び、高いところが好き	不明	—	設定されれば参加し、過ごしている
	児童のため不明	児童デイ、日中一時それぞれに適応している	室内プールは苦手	不明	—	自発的な参加にはなっていない
2114	なし、地活での作業	地域活動支援センター	ボーリング、喫茶店、スーパー銭湯	他の家の郵便物を抜き取るなどのいたずらをしてしまう	—	本人のいたずら行動が支援を妨げている
	過去就労経験有り。作業可能（ゆっくり）	新の支援がいるが一応継続して利用できている	楽しむことはできるが計画的に利用できない	いたずらだとわかってやっている	—	いたずら行為について自覚あるがやめられない
2115	なし	なし	ペンたてのような作品を作りたいと希望を話す	不明	—	身体疾患などにより行動に制限を受けている
	困難	身体疾患も多く利用可能な事業所は少ない	援助があれば可能	不明	—	介助のもとで外出は出来る
2116	なし	なし	携帯電話、音楽鑑賞、お化粧、猫と遊ぶ	なし	—	外出は母といとことのみ
	あいさつ、簡単な読み書き、計算、日常会話が可	不明	公共交通機関利用して遠方までコンサートに行ける	不明	—	勉強なり就職なり通えるところが欲しいが支援必要
2117	なし	通所更生施設、日中一時支援	外出、買い物、絵を描く、アニメ、フィギュア	不明	—	休日は単独で外出している
	簡単な作業、通所更生施設での活動は可能	定期的に利用	お金の計算はできない	不明	—	余暇を楽しむことができている
2118	なし	なし	不明	なし	—	障害が重く参加に制限がある
	不可	不明	不明	不可	—	障害が重く参加に制限がある
2119	無し	知的通所授産施設通所、日中一時支援	紙きり	不明	—	学校卒業後通所が継続されている
	困難と思われる	通所先での作業を行える	自ら選択して取り組むことは困難	不明	—	習慣とされていれば通所できる
2120	なし	知的障害者通所更生施設利用	セロテープ工作（月3万円賛やす）	なし	移動支援での週1回の買い物でキャンディを買う	余暇支援にも母の制限がある
	通所更生施設での活動は可能	問題なく出来ている	工作は毎日の日課として行う	経験なし	定着している	障害のため、変化に弱く、パターン化している
2121	なし	授産施設	買い物	なし	近所の公園で一人でお酒を飲んでいたりする	問題行動と紙一重なところがある
	通所授産施設での活動は可能	施設への通所は毎日出来ている	金銭管理は出来ていない	なし	—	自己管理では不十分で支援が必要
2122	なし	就労継続B型事業所の利用を試み通所は保留	買い物	不明	—	自宅での生活が中心になっている
	不明	条件整えば可	自ら進んで楽しみを見つけることは可	不明	—	役割遂行は困難と思われる
2123	無し	なし	自転車で出かける	不明	—	自分なりの生活をしてきている
	希望無し	希望なし	自転車で出かける	役を担うことは困難	—	社会経験の機会が極端に少ないため新たな通所に適応できるか不明
2124	養護学校中学部1年生	児童デイサービス利用	字を書くこと、サッカーやスイミング	不明	—	児童のため生活の中心は学校となる
	学生のため不明	送迎介助は必要	自発的な活動は困難	不明	—	参加のために設定が必要
2125	未就学	母子通園、児童デイ、放休訓練施設	不明	不明	—	児童のため考慮しにくい
	児童のため不明	利用可	不明	不明	—	児童のため考慮しにくい
2126	養護学校高等部3年生	日中一時支援	外出（行動援護利用）	不明	—	場面設定により参加はスムーズにできる
	学生のため不明	利用可能	援助の設定が必要	不明	—	一人での外出は難しいが場面設定すれば落ち着いて過ごせる
2127	なし	就労継続支援A型利用	友達と遊ぶ、ペットを飼う	カラオケや外出で、事業所の友人や同僚と交流がもてている	—	余暇も上手く利用して生活している
	就労継続支援A型利用し作業行うことできている	休むことなくきちんと利用	人との関りを大切にできる	良好な関係が築けている	—	支援受け、場面に応じて行動できる
2128	養護学校高等部3年生	日中一時支援	カラオケ、買物（行動援護利用）	不明	—	場面設定によって参加はスムーズに出来る
	学生のため不明	利用可	楽しむこと出来るが一人での利用は困難	不明	—	整ったスケジュールで行動援護のような支援は必要
2129	なし	行けずにいる	不明	行事などへの参加はしていない	—	何をするでもなく1日過ごしている
	以前はあったが現在は困難	以前はあったが現在は困難	縫ぐるみがしたい。スーパー銭湯に行きたい	退院のあいさつしたいと周囲への気遣いはできる	—	気分の良い時であれば可能だが参加のためにセッティングが必要
2130	なし、過去に就労あり	介護保険での通所介護、居宅介護	カラオケ。喫茶店のスタッフが店に連れて行ってくれることがある	不明	—	通所先との信頼関係が築けている
	過去に就労あるが現在はおそらく不可	良好な関係で利用できている	カラオケ	不明	—	通所先との信頼関係が築けている
2131	養護学校小学部6年生	児童デイサービス、日中一時支援	行動援護で外出 乗り物が好き	不明	—	学校、児童デイに参加
	児童のため不明	児童デイサービス、日中一時支援	設定の援助がいる	不明	—	自発的な活動は困難。行動援護にあるような支援を要する
2132	なし	なし	テレビ、ラジオ、雑誌	不明	喫茶店に行くのが楽しみ	デイケアはほぼ定期的に利用している
	過去に就労あり	精神科デイケアに定期的に通うことはできている	楽しみを見つけられる	不明	—	余暇も自力で過ごすことができる

表40　背景因子（環境因子：物的環境）

IDNo.	利用している福祉用具	あるが利用していない福祉用具	られば利用したい福祉用具	住居の状況	その他特筆すべき特記事項	評価・所見
2021	なし	なし	なし	生活支援ハウス	なし	生活上の環境は整っている
2022	なし	なし	なし	一戸建て	なし	物的環境に特に問題はない
2023	電動カート	なし	なし	集合住宅	—	家具など、自宅内の持ち物は少ない
2101	なし	なし	なし	一戸建て	なし	物的環境に特に問題はない
2102	不明	不明	不明	不明	住居は交通機関が無く移動に不便を感じている	不明な事は多いがおそらく問題なし
2103	なし	なし	なし	集合住宅	特になし	物的環境に問題なし
2104	なし	入浴補助器具	なし	集合住宅	浴槽が深く入浴が困難	浴槽改修が必要
2105	なし	なし	なし	一戸建て	—	身障あるが用具なしで生活できる
2106	なし	なし	なし	一戸建て（老朽化激しい）	近隣から植木の苦情などあり	自宅の管理は負担になっているよう
2107	なし	なし	なし	集合住宅	自家用車利用あり	物的環境に特に問題なし
2108	なし	なし	なし	集合住宅（市営住宅）	なし	物的環境は問題なし
2109	なし	なし	なし	一戸建て	—	物的環境に問題なし
2110	なし	なし	なし	アパート	実家があるが空家になっており管理不十分	通常の生活に不自由な面はない
2111	なし	なし	なし	一戸建て	なし	物的な整備等は特に必要としていない
2112	車イス、ポータブルトイレ	なし	歩行器	一戸建て（持ち家）	2階居室のゴミの影響で不衛生、害虫やねずみも	姉の居室にヘルパーは入れないため改善しない
2113	絵カード	なし	なし	一戸建て	パニック時に落着けるための場所が必要	関係する機関でコミュニケーションツールの統一がされるといい
2114	なし	なし	なし	集合住宅	—	物的環境に特に問題なし
2115	車イス、介護ベッド、ポータブルトイレ、体位変換機	—	—	集合住宅1階（賃貸）	自宅のお風呂場が狭く入浴は不可	通院先医療機関に近いため通院は便利
2116	なし	なし	なし	大家と同一敷地内の離れを借りている	なし	物的環境にほぼ問題なし
2117	なし	なし	なし	一戸建て	同敷地内に姉一家が居住	物的環境は整っている
2118	たん吸引機、紙おむつ、座位保持装置	特殊寝台、マット（自宅床が抜けそう、母が抱えられない）	なし	一戸建て（築70年）	自宅の老朽化で隙間風などあり、室温調節が難しい	必要最低限の物品はある
2119	無し	無し	不明		コップなど割れやすい物は使用しない	破壊行為が起こったときに安全を守る工夫が必要
2120	なし	なし	なし	一戸建て（持ち家）	なし	物的環境に特に問題はない
2121	なし	なし	なし	アパート	実家があり処分を検討	実家があるが管理されていない
2122	なし	なし	なし	集合住宅	なし	物的環境は問題なし
2123	無し	無し	無し	一戸建（持ち家）	家は老朽化しておりところどころ修理が必要	家の中は物が少なく、しかし本人は困っていない
2124	コミュニケーションボード、コミュニケーションツール	なし	なし	一戸建	異食の対象となるものを隠す	本人の理解力を高め、生活力を高める必要がある
2125	車椅子	不明	不明	アパート	—	補装具の利用できている
2126	なし	なし	なし	一戸建て	なし	本人が理解しやすい環境が必要
2127	なし	なし	なし	一戸建て（本人名義）	なし	父が残してくれた自宅で単身生活
2128	コミュニケーションボード、コミュニケーションツール、携帯用会話補助装置	なし	なし	一戸建て	—	本人が理解しやすい環境が必要
2129	ポータブルトイレ（母のもの）	なし	入浴補助用具	市営住宅	—	本人を良く知っている人も多く本人にとっては住み慣れた場所
2130	ポータブルトイレ	なし	—	借家	手すりつきのベッド（起き上がり時必要）	自宅は老朽化しているが生活に不都合はなさそう
2131	なし	なし	コミュニケーションツール	集合住宅で近所に音が伝わりやすい	暴れたとき静める場所として学校では教室の隅にマットを用意	本人が理解しやすい環境を用意することが必要
2132	なし	なし	なし	市営住宅	—	住環境は整っている

表41　背景因子（環境因子：人的環境）

IDNo.	家族の支援	友人との交流・支援	近隣との交流支援	関係者との交流・支援	ボランティア等その他の人的交流・支援	評価・所見
2021	兄弟、親戚数名	施設利用者との交流	施設入所のために交流なし	支援者との関係は良好	なし	本人に対し支持的な支援者が多い。
2022	母：本人に振り回されがち、父：身障あり、兄弟：協力的	学友との交流あり	不明	先生からの支援や、通所事業所の協力あり	なし	家族が本人を支える力が弱い
2023	両親死亡、兄：長期入院中、元夫：同集合住宅内に居住、知的障害、子：2人、元夫宅におり知的障害有り	不明	民生委員の見守りあり	通所先の職員や相談支援の職員など	なし	元夫との交遊が浪費につながっている
2101	母：本人の行動に巻き込まれている、父：理解不十分	不明	不明	第3者の受け入れはかなり拒否的	なし	本人の拒否姿勢から他者の介入はほとんどない
2102	家族と外出、買物	友人は居るが休みがあわず会えないためメールでの交流が主	不明	職業開拓校担当者との日常的な報告・相談	—	本人能力で出来る範囲内でのコミュニケーションが取れている
2103	母子家庭で弟に身障、アスペあり、母うつ状態	学校の悪友に巻き込まれトラブルになっている	不明	学校の先生による配慮あり	なし	障害に配慮して関れる支援者が必要
2104	母が亡くなってから父にベッタリで父の疲労激しい	不明	不明	支援者の助言の受け入れはやや良い	以前利用していた事業所職員	父の前と第3者の前では本人の態度が異なる
2105	母：精神科入院中、会えば激しい喧嘩となる	交際している男性がいる	不明	支援者の役割理解し使い分けている	母の支援者への関りあり	自ら関係をくずすことはない
2106	母：認知症あり、入所待機登録中、兄：うつ病あり	不明	不明	関係者の受け入れは良好	なし	関係は受身的だが支援者は確保されている
2107	父：厳しいが常識的範囲で、子育て支援あり、母：精神通院あり、元夫・子：同集合住宅に居住	不明	不明	感情的に訴えてくることあり	なし	支援者側は対応統一の必要がある
2108	夫：精神科入院中、夫の姉：金銭管理の支援あり	不明	近隣住民とあいさつや多少の行き来あり	受け入れは良好、民生委員の密接な関りあり	なし	関係は支援者に限られている
2109	母のみ	ほとんどなし	不明	ヘルパー、通所事業所の職員など	なし	関っている人が限られている
2110	母：養護老人ホーム入所中、兄：同居、知的障害有り、就労あり	不明	不明	福祉関係の支援者との関係有り	不明	関係者と良好な関係を築くことが困難なので、関係者側に配慮必要
2111	息子：自閉症、叔母：施設入所（以前同居）、弟：別居、アルコール依存	障害を持つ子の親として仲良くしている友人の助け有	ほとんどない	関係者に対しての要求が高い	なし	本人のこだわり強く、家族・親戚の援助が得られる状態ではない
2112	母：判断力低下、姉：なんらか障害がありそう（精神疾患未治療）	なし	不明	ヘルパー、相談支援、医療機関など、訪問リハ担当	—	姉への支援も必要と思われる
2113	母：主介護者、父：単身赴任、兄：受験生、本人とトラブル多い	学校、児童デイでの交流あり	不明	本人の支援者との関係は良好	通りがかりの人を押したり、パニック時に胸ぐらつかむことある	安心できる人には要求を示せる
2114	父：本人中心の生活に限界を感じている	不明	不明	支援者との関りは積極的だが人を選ぶ	以前通所先の施設長	本人の行為に父や関係者が振り回されがち
2115	内縁の夫が本人の介護を行っている	不明	不明	関係者と夫が良好な関係を築けない傾向	不明	夫が本人の支援のため行動を起こし結果トラブルに
2116	母：理解力低く支援不十分、弟：身体、知的障害	いとこと外出する	大家がいるがほとんど交流なし	就業・生活支援センター職員や弟の担任教員との交流あり	なし	つきあいの範囲が狭く、家族に障害あるため支援必要
2117	父：直腸ガン、母：透析、姉：自家のことで手一杯	不明	不明	支援者との関係は構築されている	異性への興味強く、問題となってしまうことある	家族の支援は今後受けることが困難になる
2118	母のみ	不明	隣人との交流（母）	病院、ヘルパー、相談支援の関りある	なし	関係者の関りに母が協力的ではない
2119	母、祖母、妹と生活。母、祖母とも仕事している	通所先での交流あり	不明	少しずつ慣らしながら関係を作っていった	本人が物を壊すので、祖母、妹が怖がっている	妹、祖母が本人の障害をどう理解しているか不明
2120	母：パニック障害等で外出困難	なし	なし	通所先の職員や相談支援の職員など	なし	母の障害により本人も制限を受けることあり
2121	母：施設入所、兄：同居、知的障害、就労している	不明	不明	ヘルパーや作業所の職員など	不明	本人の行動が不信を招き関係者との関係が良好に保ちづらい
2122	夫：精神科入院中	不明	不明	受け入れは良好、民生委員の密接な関りあり	なし	関係は支援者に限られている
2123	伯父が気にかけている。現在は金銭管理してもらっている	無し	近所の方は気にして見ていてくれる	相談支援担当、民生委員の関わりあり	—	本人に対して好意的な環境。伯父が体調から支援困難になってきている
2124	母就労のため、夕方は祖父母の世話。土日は父が担当	学校での交流あり	地域の小学校に通い、本人をよく知っている人が多い	行動援護、居宅介護で自宅での支援あり	—	周囲が本人の障害を理解している
2125	母子家庭だが、父の協力あり	母子通園などでの交流あり	不明	福祉サービスの支援者の関係あり	離婚により父方祖父母との交流はなくなった	母が抱え込むか、全面的にサービスを頼る傾向
2126	母・姉・父と同居	学校や日中一時での友人など	不明	活動の場面、環境によって差が出る	—	周囲の人が共通理解が持てると良い
2127	両親：死亡、親類：日常的には関りなし	職場の友人等	不明	保佐人あり、支援者とは良好な関係	—	結婚を考えている相手との交際が始まったところ
2128	主に母と過ごしている	学校や日中一時での交流	不明	環境が整っていれば支援者の受け入れはよい	—	周囲の共通理解は必要
2129	母は老健入所中	友人はいない	近隣の方は本人のことを気にしている	訪問看護、ヘルパー、相談支援等からの支援あり	—	関わる人のほとんどが支援者になってきている
2130	子どもからの電話や来訪。実家に行くこともある	通所介護での友人とのおしゃべりは楽しみ	喫茶店のスタッフ	支援者との関係は良好	—	良好な対人関係を築くことが出来る
2131	母子家庭、祖母が食事作りを手伝っている	学校・児童デイ、日中一時	暴れて出る音に苦情あり	活動場面によっては差が出る	—	周囲の人が共通理解が持てるといい
2132	入院時は兄弟など家族の支援がある	デイケアの友人	不明	支援者は整っており関係は良好	—	人当たり良く、本人に対して周囲は好意的

表42　背景因子（環境因子：社会環境）

ID No.	利用している制度	あるが利用していない制度	利用している公私のサービス	あるが利用していない公私のサービス	あったら利用したい制度・サービス	評価・所見
2021	療育手帳B、年金	なし	介護保険居宅介護、就労継続支援	介護保険デイサービス、養護老人ホーム	金銭管理	必要な社会資源を利用できている
2022	療育手帳A	なし	日中一時支援、行動援護	居宅家事援助、通院介助、短期入所	通学援助	通学の支援が必要であった
2023	精神保健福祉手帳2級、障害年金2級、自立支援医療	なし	居宅介護、通院介助	日常生活自立支援事業、福祉有償運送	—	金銭管理の援助が必要
2101	自立支援医療（精神通院）	精神保健福祉手帳	なし	なし	ひきこもりに対しての訪問	制度の狭間にあり適する公的サービスがない
2102	療育手帳B	なし	なし	居宅介護、就業・生活支援センターの当事者交流会	なし	サービスメニューの情報提供はされている
2103	アスペでの障害者医療	なし	なし	なし	余暇活動支援	公的サービスとしてではない社会参加支援が必要
2104	療育手帳B、障害年金2級	なし	居宅介護（私的契約）	就労系通所サービス	—	本人はサービス利用の意思はあまりない
2105	身体障害者手帳3級、精神保健福祉手帳2級、障害年金2級	なし	居宅介護、訪問看護	日常生活自立支援事業	常時相談可能なところ	サービスは整っている
2106	生活保護、精神保健福祉手帳2級	なし	居宅介護、精神科訪問看護	デイケアなど日中活動の通所系事業	料理教室など	自宅外での活動の場の確保ができるとよい
2107	母子医療、児童手当、自立支援医療（精神通院）	なし	なし	なし	就労支援	収入のために仕事に就くことを求めている
2108	生活保護、精神保健福祉手帳2級、自立支援医療	なし	居宅介護、訪問看護、移送サービス、配食サービス	日常生活自立支援事業、就労系事業	—	日常生活で必要なサービスはほぼ整っている
2109	精神保健福祉手帳2級、障害年金2級	なし	居宅介護、事業所のボランティア的利用	通所事業所	サロン的地域活動支援センター、ケアホーム	緊急性はないが、サロン的通所が出来る所があるとよい
2110	療育手帳B、障害年金2級	なし	居宅介護、知的障害者通所授産施設、日常生活自立支援事業	短期入所	—	必要な制度やサービスの利用はある
2111	精神保健福祉手帳3級、自立支援医療	なし	居宅介護、日常生活自立支援事業、家政婦利用	なし	常にそばにいてくれる人	自分で制度・サービスを選択して使っている
2112	精神手帳1級、身障手帳4級、障害基礎年金1級、自立支援医療	成年後見制度	ヘルパー、訪問リハ、相談支援による訪問	生活介護、日常生活自立支援事業	—	近い将来には成年後見が必要
2113	療育手帳A	なし	児童デイ、日中一時、移動支援	通院介助、身体介護		サービスの利用あり、統一の対応、質の向上を要す
2114	療育手帳B、障害年金2級	なし	地域活動支援センター、居宅介護（公費、自費）、移動支援	なし	なし	サービス利用希望はあるが、実際は本人のいたずらで関係者が困っている
2115	生活保護、身障手帳1級、療育手帳A、障害基礎年金1級	なし	訪問看護、医療でのレスパイト入院、移動入浴	居宅介護、生活介護、短期入所	—	医療的ケアが多くサービス利用が困難になっている
2116	療育手帳C	なし	なし	職業訓練校、職業開拓校	自宅近くの就労移行支援事業所	生活保護停止は妥当でないと思われる
2117	療育手帳A、障害基礎年金2級	なし	知的障害者通所更生施設、短期入所、日中一時	なし	入所施設、ケアホーム	介護者不在のため施設入所で対応する必要がある
2118	身体障害者手帳1級、療育手帳A最重度、特別障害者手当、障害年金1級	なし	居宅介護、訪問看護	生活介護、短期入所	無料で利用できるサービス	サービスについて母のこだわり強く結びつきにくい
2119	療育手帳A	なし	知的通所授産、日中一時、居宅介護、ST	なし	夕方から夜間の見守り	祖母が世話を行ってきたが、公的サービスで提供する必要あり
2120	療育手帳A、障害基礎年金1級	なし	通所更生施設、移動支援、福祉有償運送	短期入所、日中一時支援、余暇支援	通所施設の送迎サービス	自宅、母から離れて生活することも考えたい
2121	療育手帳B、障害年金2級	成年後見制度	居宅介護、知的通所授産、日常生活自立支援事業	なし	なし	本人は事あるごとに施設入所を希望している
2122	生活保護、精神保健福祉手帳2級、自立支援医療（精神通院）	なし	居宅介護、就労継続B、訪問看護、移送サービス、配食サービス	日常生活自立支援事業	なし	日常生活で必要なサービスはほぼ整っている
2123	療育手帳C	成年後見制度	伯父による金銭管理、朝夕食事の宅配サービス	障害福祉サービス	—	生活費の確保のために成年後見が必要
2124	療育手帳A	なし	児童デイサービス、行動援護、居宅介護	なし	預けられるサービスで適切な支援を提供してくれる事業所	サービスを提供できる事業所を複数で持つ必要がある
2125	身体障害者手帳2級、療育手帳A、手当	不明	母子通園、ショートステイ、児童デイ、肢体訓練施設	施設入所	長時間利用できる重度障害児の保育	公的サービスの利用はされている
2126	療育手帳A	なし	行動援護、日中一時支援	なし	—	母が仕事をしている為本人の居場所が必要
2127	療育手帳C、障害年金2級、成年後見制度（保佐）	なし	就労継続A、居宅介護	なし	—	支援体制は整っているが生活形態に応じて調整
2128	身体障害者手帳1級、療育手帳A	なし	行動援護、日中一時	なし	—	行動には常に支援する必要あり
2129	生活保護、精神保健福祉手帳2級、自立支援医療	なし	日常生活自立支援事業　居宅介護、配食サービス、訪問看護	なし	日常的に利用できる金銭管理サービス	複数の制度を利用しているが、カバーしきれていない
2130	療育手帳B、障害年金2級、生活保護	なし	居宅介護、通所介護（介護）	生活介護	基準該当生活介護	現在利用の通所介護を引き続き利用したい
2131	療育手帳A	なし	児童デイサービス、行動援護、日中一時支援	なし	学校の送迎支援	母が仕事をするために、本人の居場所が必要
2132	精神手帳2級、自立支援医療、障害年金2級、生活保護	なし	居宅介護、精神科デイケア、訪問看護、配食サービス	なし	—	必要に応じてサービスを適切に利用することが出来る

表43　背景因子（個人因子）

ID№	生活観（実現したい生活）	価値観（大事にしていること）	独自の生活習慣等	未解決の生活上の問題	その他の特記事項	評価・所見
2021	安定した生活がしたい	安定した生活	衣服に対してのこだわり	なし	支援者の指示には従うが、同僚や他利用者には我が出てしまう	変化に弱いが、緩やかであれば適応良好
2022	不明	不明	パターンの固定化された生活により安定する	コミュニケーションの困難から母への暴力行為あり	自分の思うとおりにならないと暴力をふるうことあり	自閉症に配慮した支援が必要
2023	元夫と再婚して楽しい生活を送りたい	元夫と一緒に過ごすこと	なし	金銭管理と母子関係の形成	—	自分の意思は強いが現実的ではない
2101	このままではよくないと感じているが具体的には不明	不明	障害のために生活行為に多々支障がある	コミュニケーションの障害により社会参加が困難	—	現状は強迫性障害への対応が優先される
2102	余暇を充実させたい	職業開拓校の担当者との日常的な連絡（報告・相談）	なし	一人で外出できない	—	情報提供したなかで本人が希望すれば支援受けられる
2103	安心できて、疲れない生活	不明	なし	交友関係	—	周囲の影響や変化に弱い
2104	父と一緒の自由気ままな生活	不明	自宅の風呂に入らない	入浴できない、通所しない	本人の希望：トレーニングジム、布団やさん、かっぱ寿司がやりたい	気ままな生活がしたいようである
2105	自宅で静かに過ごしたい	自由にできること	タバコ	母親との関係	寂しいという訴えあり	精神的に不安定ながら単身生活できている
2106	不明	不明	なし	母の介護	—	本人の意思表出少ないため確認はその都度必要
2107	子供と自分の3人での自由な生活	不明	服薬しすぎで朝起きれないことある	規則正しい生活、育児ができること	感情が先行し、操作性が高い	本人の特性を周囲が理解しておくことが必要
2108	自由に買い物できる生活	不明	夫へお金を要求して通らないと不安定、喧嘩になる	通販の未払い	—	お金に関することで不安定になりやすい
2109	一人暮らしは無理だと思っているし望まない	マイペース	飼い犬とのふれあいが大きな心理的サポート	変化に対して対応できるようにしたい	—	自分の意思や意見もあり、状態も把握している
2110	自由な生活	自由な生活	毎日ショッピングセンターに寄ること	適切な人間関係が保てない	—	自由にしていたいが誰かに認めてもらいたい
2111	自分の意のままになる生活	体調不良はサプリメントで調整（月7万）	きちんとしていないと気がすまない	外出できない、お金の遣い方、経済的問題、息子の介護	共同生活の提案、紹介には拒否	人格障害の要素を呈している
2112	不明	母親の判断	入浴の機会が確保されていない	住環境の衛生保持	会話可能だが複雑な話は理解難しい	新しい出来事に不安を示すが適応はよい
2113	安心できる生活	不明	ヒラヒラ等常動行動有、自慰行為有	原因は不明だが人を押す行為あり	スケジュールの示し方やコミュニケーションの方法の確立	押す行為を予防し、安心できる環境を作る援助を要す
2114	母が居たころの生活	不明	自宅の風呂に入っていない	本人のいたずらが絶えない	電話頻回で、調子が悪いときは無言	母への寂しさがいたずら行為を増長
2115	不明	不明	自宅で入浴が出来ない	入浴の機会確保	—	利用できる制度が少なく入浴の機会が少ない
2116	学校に行き将来は子ども相手の仕事や図書館、花屋で働きたい	10代のファッションや音楽についていくこと	なし	生活保護停止、学校にも施設にも所属していない	—	現状ではいけないという思いがあるため支援は有効
2117	不明	不明	日曜日は本人なりの余暇活動あり	公的サービスによる支援に慣れる必要がある	慣れてしまえば定着する	新たな生活スタイルにゆっくり慣れる支援を要する
2118	不明	不明	生活は母の采配による	入浴など金銭的理由によりサービス利用されていない	本人の希望はわからない	母の意志により本人の生活は左右される
2119	不明	不明	こだわりあり、壊すことで発散	コップ、プラスチック、鏡を割って壊す	スケジュールや、思惑が変わることへの抵抗が大きい	物を壊す行為あり本人なりの理由はあるが他者からは不明の場合有
2120	不明	変化のない生活パターン	水遊びしてしまうので入浴はさせてもらえず清拭のみ	母の家政婦利用により経済的な破綻が予想される	—	収入を上回る出費で生活が出来なくなりつつある
2121	寂しい思いをしないですむ生活	不明	買い物が好きだが金銭の管理はできない	実家の処分（財産管理）	万引き行為がある	万引きは犯罪という認識は薄いよう
2122	自由に買い物できる生活	不明	夫へお金を要求して通らないと不安定、喧嘩になる	通販の未払い	—	お金に関することで不安定になりやすい
2123	今の生活を継続したい	不明	午後は自転車で外出している	生活費の確保ができていない	—	障害年金か自宅の売却により生活費を確保する必要がある
2124	当たり前の生活が一緒に出来るようになってほしい（家族より）	祖父と自転車での散歩	自閉症によるこだわり、異食あり	突発的な行動をコントロールできない	—	問題行動が減り安心できる暮らしが必要
2125	母とともに安定した生活をする	不明	不明	母の就労のため、夜間移動し短期入所を利用したり、十分なケアが得られない	—	本人にとって必要な養育、療育が確保できていない
2126	家で落ち着いてすごせるようになる	自分なりのこだわり有	夕方家に帰るとなかなか家に入れない	感情の起伏が激しい	来春姉が進学のため別居予定	こだわりが強い、感情激変することあり
2127	結婚をして家庭をもって暮らしたい	不明	なし	なし	—	人と一緒に幸せに過ごしたいという希望がある
2128	本人のできることをいかした生活	自分なりのこだわり有	不明	なし	新しい場面、人だといつもできることが出来ない	自分の意志が強く拒否してしまうことも多い
2129	できれば仕事やその他の活動にも参加したい	盆、正月などの行事、仏壇のお供えなど	毎日タバコがほしい	日中1人で過ごし、症状にとらわれたり、タバコがコントロールできない	困ったこと、要求は電話などにより発信できる	生活の全てが精神症状に左右されているところがある
2130	今とかわらない生活	不明	喫茶店に行くこと	—	—	自分でできることは人に頼らず自分でやる
2131	家で落着いて過ごせるようになる	自分なりのこだわりあり	夕方帰宅後暴れてしまう、そのため夜ドライブ	コミュニケーション方法の獲得		スケジュールの変更、意思疎通ができないため不安定になる
2132	不明	不明	喫茶店のモーニング	退院後の生活支援	—	ときに心理的に不安定になり沈みがち

表44　会議参加者（参加状況）

IDNo.	本　人	家　族	私的関係者	医療関係者	保健関係者	福祉関係者	評価・所見
2021	—	兄弟（5名）	—	—	—	相談支援事業所、就労継続支援事業所、養護老人ホーム、居宅介護事業所、高年福祉課、福祉課	本人参加予定であったが、施設側の都合があり参加できず、本人への確認が別途必要になった
2022	—	母	—	—	—	相談支援事業所（2）、知的障害者通所授産施設、養護学校	卒業後のスムーズな移行について役割確認を行った
2023	参加	元夫	—	—	—	相談支援事業所、居宅介護事業所、民生委員、福祉課（保護、障害福祉）	日常生活自立支援事業担当者は都合つかず欠席
2101	—	母	—	精神科病院医師、PSW	保健所	相談支援事業所（2）、療育サポートプラザ、発達障害者支援センター、福祉課	医師の意見を元に関係者間で支援方針を検討できた
2102	参加	母	—	—	—	職業開拓校、相談支援、身障療護施設、居宅介護事業所、就業・生活支援センター	本人の希望に対しフォーマル・インフォーマル支援の提案ができた
2103	—	母	—	—	—	相談支援事業所（2）、中学校、養護学校、児童デイ事業所、身体障害者療護施設、療育サポートプラザ、児童相談センター、福祉課	参加機関は本人に対し協力的
2104	参加	父	民間企業の管理者	—	—	相談支援事業所（3）、地域活動支援センター、短期入所事業所、福祉課	本人宅で本人の意思、希望確認しながらサービスの調整ができた
2105	—	—	—	精神科病院訪問看護担当者	—	相談支援センター、包括支援センター、居宅介護事業所、日常生活自立支援事業担当者、高年福祉課、福祉課	本人、家族の参加は見込めない
2106	—	兄	—	—	—	相談支援センター、包括支援センター、高年福祉課、福祉課（障害、保護）	兄からの訴えあり、本人の状況確認と、今後の対応について検討
2107	なし（参加は拒否）	—	—	精神科主治医	—	児童相談センター、相談支援センター、子育て支援課、母子自立支援員、福祉課、小学校	主治医から本人の障害特性について助言あり、対応を具体的に検討できた
2108	—	夫	—	精神科PSW、訪問看護	—	相談支援センター、居宅介護事業所、民生委員、包括支援センター、日常生活自立支援事業担当者、福祉課（障害、保護）	地区民生委員が積極的に、密接に関っている
2109	参加	母	—	—	—	居宅介護事業者、相談支援事業者、ケアホーム事業所、福祉課	本人が意見を言うことができた
2110	参加	—	—	精神科病院PSW	—	社協（サービスセンター事業担当、日常生活自立支援事業担当）居宅介護事業所、相談支援事業所、通所事業所、福祉課	本人の参加により、本人の意見を関係者に伝えることが出来た。
2111	—	—	—	参加なし（主治医コメント有り）	—	相談支援事業所、居宅介護事業所（2）、息子の通所事業所、福祉課	医師のコメントが会議で参考になった
2112	—	—	—	精神科病院PSW	保健所	居宅介護事業所、包括支援センター、相談支援事業所、高年福祉課、福祉課	成年後見の利用も含め医療機関からの意見をとのことで通院先も参加
2113	—	母	—	—	—	養護学校、児童デイサービス事業所、日中一時支援事業所、療育サポートプラザ、相談支援事業所、居宅介護事業所、福祉課	本人に関わる機関が参加でき、情報の集約ができた
2114	参加	父	—	—	—	相談支援事業所（2）、居宅介護事業所（3）、地域活動支援センター、福祉課	本人、父からの意見に基づいて検討できた
2115	参加	内縁の夫	—	通院先医療機関MSW、生活介護事業所母体医療機関Ns	—	相談支援、生活介護事業所、介護保険居宅介護支援CM、福祉課（保護、障害）	利用先の事業所との情報交換が適切に行われた
2116	—	—	—	—	—	相談支援事業所、障害者就業・生活支援センター、養護学校	本人のみでなく世帯単位で支援が必要であると確認できた
2117	—	姉	—	—	—	相談支援（3）、知的障害者入所更生施設、通所更生施設、施設入所支援、ケアホーム事業所、福祉課	本人の代弁者として姉の参加
2118	参加	母	—	訪問看護	—	相談支援センター、居宅介護、生活介護事業所、福祉課	本人参加でも本人の意思や希望は確認できない
2119	—	母	養護学校教師	—	—	短期入所施設、通所授産施設、相談支援事業所、居宅介護事業所	現に困っている祖母が参加できるとよかった
2120	—	なし（母から文書でのコメントあり）	—	—	—	相談支援事業所、知的障害者通所更生施設、入所施設、短期入所事業所	相談支援事業者は外出困難で出席できない母の代弁者としての役割
2121	参加	—	—	精神科病院PSW	—	社協（サービスセンター事業担当、日常生活自立支援事業担当）居宅介護事業所、知的通所授産、福祉課	本人の希望や意見が述べられた
2122	—	—	—	精神科PSW、Ns、訪問看護	—	相談支援センター、居宅介護事業所、民生委員、包括支援センター、日常生活自立支援事業担当者、福祉課（障害、保護）	地区民生委員が積極的に、密接に関っている
2123	参加	伯父	—	—	—	相談支援事業所、民生委員、生活保護担当職員、後見ネット会員	成年後見制度の利用のため、専門機関に参加してもらうことが出来た
2124	—	母	—	—	—	児童デイ、行動援護事業所、相談支援事業所、養護学校	他のサービス事業所の参加があると良かった
2125	—	—	—	—	—	母子通園、短期入所、児童デイ事業所、相談支援事業所、子育て支援課、福祉課	医療分野の参加が望ましい
2126	—	母	—	—	—	養護学校、就労継続B型事業所、生活介護事業所、居宅介護事業所、相談支援	本人にとって何が大切か確認できた
2127	参加	親族（伯母、叔母夫妻、叔父）	交際相手、その両親	—	—	相談支援事業所、就労・生活支援センター、就労継続A、居宅介護事業所、福祉課	2人の意見をもとに心配なことや支援体制などが整理できた
2128	—	母	—	—	—	養護学校、生活介護、就労継続B事業所、相談支援	本人の進路に向け共通理解をもてた
2129	参加	—	—	医療相談員、訪問看護	—	居宅介護事業所、相談支援センター、社協、就労移行支援事業所	保健所、民生委員が参加できなかったが、参加できるといい
2130	参加	—	—	—	—	相談支援（2）、通所介護（介護保険）居宅介護、基準該当生活介護（2）、福祉課	本人の希望をもとに支援方針が定まった。
2131	—	母	—	—	—	児童デイサービス事業所、行動援護事業所、児相、養護学校	役割分担を一同で確認できた
2132	参加（途中退席）	—	—	市民病院MSW、ガン相談支援センターNs、精神科デイケアPSW、訪問看護Ns	—	相談支援（2）、居宅介護事業所、福祉課	がん治療や対応について具体的に知り支援を考えることができたが本人の心理的負担も大きいものであった

表45　現状を中心としたまとめ（会議開催後の経過・地域連携・総合所見）

ID№	会議後の取り組み等で改善された点	既存の地域支援ネットワーク	総合所見（現状）
2021	養護老人ホームへ入所移行となり、日中活動も障害福祉サービスの利用から介護保険デイへの利用へと緩やかにつなげる計画を関係者で共有できた。	障害福祉サービス関係者と介護保険事業者との連携あり	生活支援ハウスでの生活や介護保険デイサービスの利用にも適応出来つつある
2022	朝の送り出しの支援にヘルパーが入ることで、スムーズな通所が可能になった	家族（特に母）が支援の中心者であり、学校の先生や通所予定先事業所の職員の関りもあった	学校卒業に伴って、障害福祉サービス事業所の利用となるため、スムーズに移行できるように通所の支援や余暇活動の確保などが得られるよう調整がなされた
2023	生活保護の利用は元夫からの借金返済優先と生活実態などの理由でできないが、金銭管理は日常生活自立支援事業の利用へ結びついた	ヘルパーの利用と民生委員の関りあり、元夫との交遊に規制はなく現実的な判断無く自由に行動。	預貯金が100万円程度あったものを元夫や子との外食や交遊で使い果たしてしまい、生活困難となったため会議で検討。年金支給までは元夫の借金返済分で生活し、その後は日常生活自立支援事業を利用し適切な金銭管理の支援をうける。
2101	母より、第3者の介入という希望があり、相談支援事業所が介入することとなった（主治医の協力のもと）	母が医療機関受診、相談機関に相談するのみで本人の関りなし	アスペルガーをベースに強迫性障害が強く出ているため、周囲が対応に苦慮しており、母の孤立を防ぐためにも支援必要とされている
2102	生活相談が出来る事業所の確認、居宅介護利用の提案、サークル活動、就業・生活支援センターの当事者交流会の情報提供、療護施設のボランティアの週末参加	この会議を機に支援機関が顔を合わせそれぞれの役割分担を明確にすることが出来た	会議で情報を得たものの中から本人が希望する内容に参加（療護施設の週末ボランティア参加）
2103	学校内で先生たちが注意してみてくれるようになった。	関係機関は母を通してのつながりのみだった	一般的な学生生活を送ることが出来るが、アスペルガーゆえ周囲の影響や変化に弱く、適切な交友関係が持てないことあり、周囲の協力や支援を必要としている
2104	地域活動支援センターの見学、朝の支度のヘルパー支援など、障害福祉サービスの利用に対し本人の同意を得た	父と本人にさまざまな関係機関が関っていた	本人の意見をもとにサービス利用計画の作成をすることが出来、関係機関で共有することが出来た
2105	日常生活自立支援事業の実施、お風呂のガス開栓	相談支援、訪問看護、居宅介護などの関係者や、母の関係者との連携もとれており、本人の支援体制はほぼ整っている	本人の年金受給がスタートしたため日常生活自立支援事業の利用が可能となり、本人の生活費が確保され金銭面は母と分離可能になった
2106	母の介護負担大きいことから母への適切な介護サービスや医療の導入、自宅のゴミの処分など関係者の関り継続の確認	関係者で連携取られているが、ケアマネとの連携がうまく取れていなかった	本人は入院治療継続、退院後の生活は現在と変わらず。兄の訴えや母の対応については関係機関で役割分担しながら支援継続。
2107	本人の状態安定のために就労支援が適当とのことで、対応方針を関係者で統一する確認ができた	本人から各関係機関への訴え多く、それぞれで対応していた	本人の状態不安定で両親との不和や、育児が不適切だったりと様々な問題が出ていたが、過去の経験から本人の就労が安定につながること予想できたため、就労支援を支援方針とした
2108	夫の日常生活自立支援事業の利用と、本人の定期的な通院の確保	身内による金銭管理と、公的サービスの利用で生活は成り立っていた	夫入院中の本人の生活は支援を受けつつ成立しているが、夫が退院してからのサービス調整については不十分であった
2109	通所事業所の見学	関っているところが限られていた	緊急性はないが将来的な不安を持っている
2110	ヘルパーの支援内容の見直し、入所施設の体験（短期入所など）	関係者は整っている	サービスの利用や支援者は整っているが本人の希望することは支援者側の考えや実際の支援と異なることがある。本人の状態に応じて柔軟に対応を変えて関ることが望ましい（支援は途切れないように）
2111	本人に対する関係者の理解が深まって、対応の統一を図ることが出来た	本人が支援者を集めるだけで、ネットワーク化していなかった	本人の思い、意思が強いため、確認しながら見守り、関係者が出来る範囲での支援を継続する
2112	本人らの金銭の状況について明らかになり母の成年後見についてまずは進めることになった。他、姉へのアプローチも開始されることに	訪問系の事業による関りで形成されていた	母の判断能力低下みられ、金銭管理も不十分であることから母への成年後見が必要となった。本人らの生活安定のためにも姉への支援が必要とされ、介入の機会をうかがっていた
2113	各関係機関での取り組みが報告され、本人への対応を統一することができた	関係機関でのそれぞれの取り組みだった	本人の不安や思いと外れることから起こる問題行動について共通の認識がもて、対処についても共有できた
2114	ヘルパーの利用について本人の意思確認と、父の想いを伝えてもらい、支援の継続について関係機関で確認することができた	相談支援を中心に本人の支援が行われている	本人のいたずらに父も支援者も振り回されがちで、現在の支援の継続に疑問が生じたため検討を要した
2115	新規の生活介護事業所を含め、関係機関で本人への支援方針や連絡体制などが確認でき、スムーズに利用を進めることができた	医療機関や相談支援など様々な関係機関へ夫が相談を持ちかけ、整理されない状態であった。	利用できるサービスが少なく、夫が中心となって介護に当たる一方で、関係機関との信頼関係を築きにくく関係が悪化しがち。福祉サービスの調整を会議で行うことによりスムーズなサービス利用につなげたい
2116	情報共有と役割分担ができ、支援方針を一致させることが出来たため連絡がスムーズになった	生活保護ケースワーカーや弟の担任教員があるが連携はほとんどない	不登校、ひきこもりの期間が長かったこと、また家族から進路選択についての有効な支援が得られないことから継続的な支援が必要である
2117	施設入所のめどを立てることができた。	通所施設と家族のみのネットワーク	両親の体調悪化で今までどおり自宅で生活することが困難になってしまったため、入所施設を探し、生活の拠点を移す。
2118	母の精神科受診を勧めたい、ヘルパー（身体介護）を2人体制で利用できるようにする	各関係機関で母からの訴えを受け止めつつ支援継続している	母の意志や関係者からの提言に対する抵抗が強くサービスの受け入れが出来ないため、現状見守りとしかできない
2119	本人の状況、対応の仕方について共通認識が持てた。中心となる援助者を決めることで、情報の集約がしやすくなった。	各機関が本人の行動にそれぞれの対応をしていた	本人の物を壊す行為について、防ぐ方法、起こったときの対処方法が確認でき、落ちついた対応が期待できる
2120	母子分離を視野に入れ、まず母が一人で過ごすことが出来るような支援策を母に提示し取り組むことで経済的負担を軽くする、本人はショートステイなどの利用を体験してみる	相談支援を中心に各関係機関とのネットワークが出来ている	母が一人で過ごせないために家政婦を利用して家計は困窮し生活の破綻が予想されるため、一家の生活を支えるために相談支援やヘルパー等が一家の支援にあたっている
2121	万引きは行わないように関係者からも呼びかけ本人に自覚を促す、金銭管理について見直し、実家の処分について必要な手続きを行う	日常生活上での支援関係者は整っており関係も出来ている	金銭管理が自分では不十分なことなどから万引きしてしまったり、実家の処分について判断が難しく放置されている状態であった
2122	夫の退院後の生活について夫婦ともに生活のイメージが持てるようにまず外泊を試み、使えるサービスについて整理した。	公的サービスや支援機関が関ることでそれぞれの生活が成立していた。	夫退院後、夫婦2人で自宅で生活するか施設等で別居するのか本人らの意見があいまいであったことや、安定した生活を送るための支援体制が組みにくいことなどから調整が困難であった
2123	障害年金の申請、成年後見制度の申立てを相談支援センターの援助にて、伯父、本人により準備	伯父、民生委員など限られた関わり	長年自分なりの生活をしてきており、一人暮らしが可能だが、金銭管理など伯父によって行われてきた。今の家で暮らし続けるためには障害年金の受給しか方法がない
2124	本人に対する支援を複数の事業所で行なえるように、伝達していく	限られた関係者と家族による支援	これまでは祖父母の協力に頼ってきたが、年齢もありまた、本人の体格も大きくなってきていることから、公的サービスの割合を増やす必要が出ている
2125	父の協力が得られることが確認できた。サービス利用のため、夜間移動をなくした	関われる機関が限られている	母が就労のため、母による本人の世話や発達を促す働きかけができなくなってきていた。本人を中心にサービス利用を調整する必要がある。
2126	各機関での取り組みを報告し、本人への対応を統一することが出来た	関係機関それぞれの取り組みだった	本人の家族がいなくなるという喪失感を各機関で共有しつつ、安定した生活への取り組みを再確認できた
2127	2人の希望を踏まえた上で、親族や関係者から具体的な意見が述べられ、心配なことやどのような支援が受けられるかが整理できた。	支援者は整っており、ネットワークもできている	結婚の希望により周囲がそれぞれに心配したり、本人たちの仕事や生活に良くも悪くも影響があったため情報交換や調整が必要であった。
2128	本人の可能性を探りながら卒業後の安定した日中活動につなげていく	母を介して事業所、学校で連絡をしていた	卒業後の進路に向けて本人の持つ可能性をさぐり本人の安定した生活につなげる
2129	退院後の支援調整ができた	これまでの個別支援会議に参加してきた行政・福祉・医療等の基本的な暮らしを支えていくためのネットワーク	幻聴や幻覚に振り回されて生活全てに問題が生じてしまっている。服薬や金銭管理の方法等にも様々な工夫をして支援しているが、本来の本人の描く豊かな生活にたどりつけないでいる
2130	利用が不可能と考えられていた通所介護事業所が基準該当の手続きをとって引き続き利用ができないか検討することになった	介護保険のケアマネ中心に支援体制が組まれていた	介護保険利用していたが生活保護で手帳所持のため障害福祉サービスへの切り替えが必要、同事業所を引き続き利用できずに本人の希望がかなわず負担となってしまうことが心配されていた
2131	相談支援機関の介入により、相談・本人に適したサービスのコーディネートをしていく	事業所と母、学校と母、との線での関わりだったと思われる	1事業所のみでの支援に限界が生じた状況。コーディネーターが必要
2132	乳がんの治療や経過について関係者が適切な知識を持ち本人への対応や支援策を考えることが出来た。	連携もって本人の支援体制が出来ていた	乳がん治療のために手術し入院中、今後の治療方針に従って生活支援も見直しが必要、支援者の体制を整えておく必要がある

表46　今後を中心としたまとめ（会議開催後の経過・地域連携・総合所見）

ID№	残された課題等	今後目指す地域支援ネットワーク	総合所見(今後)
2021	本人への確認と移行後の適応状態の確認	公的サービスとしてではなく、これまで利用していた支援者や事業所との関係を保つ	高齢者の制度による支援を受け生活していく
2022	時に母への暴力行為があったり、生活パターンが崩れる恐れもあるため適宜介入は必要	家族が支援困難な場面でのヘルパー利用や相談支援事業所のコーディネートによる生活支援	障害福祉サービス利用し、家庭での安定した生活と通所先事業所への適応を図る
2023	生活していくためには元夫にかしたお金を返済したもらうなどの不安定な要素に頼るしか手段がない	元夫の家庭とのかかわりも含めて相談支援事業所による生活支援のコーディネートが必要	日常生活自立支援事業利用し、適切な金銭管理の支援。相談支援事業所の支援を受け生活の立て直し、元夫や子との適切な関係を構築する。
2101	本人からのニーズをひきだすこと、本人の精神科受診	医療機関と相談支援事業所の連携をもって本人に関り、本人のニーズを元に支援体制を構築する	本人との関係を徐々に構築しながら、本人の受診やサービス利用などにつなげたい
2102	ニーズに対し情報提供されたため本人がどのようなサービスを希望するかの見守り	職業開拓校担当者が聴き取った本人ニーズを地域の支援機関と連携できる体制	今ある地域資源での余暇活動の提案に対し本人がどのような希望を持つか、どの資源を活用するか見届けていく
2103	放課後や長期休暇の生活をどうするか	障害に限らない、包括的な地域支援ネットワーク	学校の先生による配慮や、地域に存在する支援者の見守りなどの協力により、本人の社会活動への継続的な支援ができるとよい
2104	障害福祉サービスの利用が定着して本人の生活リズムが確立できるかどうか	各関係機関の目標の共有(本人、父も含め)	サービスの利用状況、経過のモニタリングが必要
2105	母との関係不良で、母退院後の同居は困難と思われるためその際に再度検討は必要である	金銭管理の制度も利用し、各関係機関での連携を保つ	母の調子に左右されない環境での生活を送るため、今後も関係機関による支援や検討が随時必要
2106	母の介護サービス調整、認知症の治療、一家のことについて判断が必要な際は三女の協力が必要	本人、兄は相談支援事業所、母はケアマネ中心に各関係機関が連携しながら一家の支援にあたる	今後も案件が随時絶えない一家であるため見守りと必要時の介入に備える
2107	子供の成長発達に適した育児	各関係機関の連携により統一された対応をもって本人の支援にあたること	仕事に就くことで、収入と居場所が確保されることで安定した生活をおくることが期待される
2108	夫退院後の介護保険サービス、障害福祉サービスの使い方	医療、福祉(障害、生活保護)、介護の支援者らの連携と地域での見守り	夫の退院が決定したところでの再調整が必要
2109	通所事業所の見学	関っているところが限られていた	母不在となった場合に備え、本人の対処能力を身につけていくことが必要
2110	金銭管理の問題	適切な距離感で支援者が途切れないように関係を継続させたい	支援者が本人と適切な関係を保ちつつ関りを持つことが必要
2111	お金の遣い方(残金わずかで2月に破綻の予測あり)、息子の介護、本人が生活の変化を受容し、対応すること	関係機関の統一した対応が求められるネットワーク	本人が出来ることをなるべく伸ばせるような関りを継続しつつ、息子の介護や将来のことについても検討が必要
2112	本人の成年後見と、姉との関係作り	本人が外出できるよう通所の事業所も含め、連携を保つ	本人への成年後見の準備、生活介護の利用を進める。相談支援による姉への関りもスタートする
2113	母は、どんな大人になって自立した生活ができるかとの心配を持っている	本人への関りを関係機関で共有し、情報交換しながら支援していく	会議の結果を今後、実際に本人と関わるときに生かしていくことが必要
2114	支援が上手く継続されるか、本人のいたずらがどうなるか、モニタリングが必要	今後も継続して連携を持って支援、私的利用のヘルパーも含めネットワークを構築	本人にヘルパーの利用希望有り、通所も継続し、支援は継続。今後も時機をみて再検討しながら支援していく
2115	入浴の機会の確保など含め、医療的ケアの重いかたが利用できる福祉サービスの拡充	医療的ケアと福祉サービスの連携	利用できるサービスは限られているが、継続して定期的に利用できるよう今後も計画的にサービスを利用していく
2116	生活保護開始へ理解が得られるか、本人が望む就労に向けた学びの場があるか、またあっても利用できるか	相談支援事業所が介入し生活保護CW,弟の担任交え世帯全体への支援体制を構築する	生活保護の開始、職業訓練校等の進学を支援していくなかでひきこもりの弟へのアプローチを試み、家族全体を支援していきたい
2117	施設側の体制未整備のため通いなれた施設を離れなければならず、施設入所に伴い本人の通所先が変更になる	入所先施設を拠点に家族や関係者との関係を継続	施設入所に向けショートステイでの施設利用から徐々に慣れていけるように準備をしていく。
2118	本人への適切な介護やサービスの確保のための母の理解	母の意志に左右されずに本人へ適切なサービスが提供できる支援	母に精神科受診を勧めて心理的な安定を図ってもらい、サービスの利用について安定して供給できるように支援したい
2119	支援関係者の認識は統一できたが、家族の障害理解、対処方法についてはまだ十分でない	対応を統一することで本人にも分かりやすい支援を提供する	関係者だけでなく、家族が安心して本人と関われるようにすることが必要
2120	親族の協力や母の努力、自宅のケアホーム化、事業所での入浴の対応、余暇活動の充実	近隣や親族を含めたネットワーク	母が一人で過ごせるような支援策を提示して母にも取り組んでもらい、親族や近隣の協力を今後のためにも得るよう支援し、一家の生活を支援する
2121	細かな金銭管理、成年後見制度の利用	成年後見人など含め本人、一家への支援体制を保つ	支援内容について本人の要求と実際に必要と考えられる支援が異なること多いため、モニタリングしながら支援継続していく
2122	夫退院後の介護保険サービス、障害福祉サービスの使い方	夫婦2人での生活で不安定になったときも地域で支えられるシステム	夫の外泊で自宅での生活のイメージを作り、支援体制をニーズに基づき組み立て地域で支えていける工夫をする
2123	障害年金の対象とならなければ、自宅の売却で生活費を確保しなければならない	伯父の代りを補助人、相談支援事業所、ヘルパーなど公的サービスで補っていく	伯父により行われてきた援助を公的なサービスに切り替えていく。また、生活費の確保をしていく必要がある。
2124	本人の支援を行なう知識と技術を持つ人材の不足(新たな居宅介護事業所に支援方法を伝達する)	技術を伝達し複数の機関が重層的に支援できる	公的サービスの提供料を増やすため、2事業所で週4日交代で支援に入り、本人の安定した生活のための支援を確保する
2125	本人の日常の世話と発達のための療育の確保	母が一番信頼しているところを核に関わり、関わる機関が共通認識の中で見守る	母子通園を中心に母が育児をしていけるようにする
2126	本人の感情の起伏の激しさと不安定さに対し母は心配している	本人への関り方を各機関で共有していくことと並行して情報を共有し連携していく	家族を喪失した揺れを踏まえつつ本人の楽しみや可能性を生かした日中活動につなげていく
2127	結婚することで生活スタイルもかわるため、状況に応じて対応できるよう体制を整えておく必要がある。結婚について希望を持つ方は多いが事例が少ない。	生活スタイルに応じ柔軟に対応できる支援体制	親族、家族間で話し合いを行っていき、必要があれば再会議を行うなど支援を考えていく。
2128	卒業後の本人の可能性と日中活動へのマッチング	複数の関係者と連携して支えていく	卒業後は生活介護を利用しながら、本人の生活の豊かさのために日中一時や居宅(行動援護)の利用も並行して継続していく
2129	症状が落着かず、生活してみての修正が必要	保健所や地域のボランティア団体などさらに豊かに暮らしていくために支援の輪を広げていく	今のありのままの現状を受け入れて支援していかなければならないが、病状が安定せずその都度起きることに対応していくことが主となってしまっているため本来の本人のニーズが見えてこない
2130	介護保険と障害福祉サービスの連続性が確保されていないため、継続して現在の事業所を使えない場合は他事業所へ移らざるをえない	障害福祉の相談支援を中心に本人の日常生活をサポート	同事業所を引き続き利用できるよう検討することと介護認定の更新が必要、それぞれでの結果を待って再調整
2131	母が仕事をしているため、学校の送迎が困難。また、放課後の居場所となる所が毎日必要	複数の関係者が共通の認識で支援にあたる	相談担当を決め、家で落着いた生活ができるようになることを目標に自宅での行動援護を取り入れ、母の就労のため平日の児童デイは継続する
2132	抗がん剤治療で体調不良時の支援や入院する場合の支援など臨機応変な対応が必要	場面に応じて関係者で調整し本人が安心して生活できるようにサポート	治療方針が定まったところで支援者間で再度打ち合わせ行い、具体的に本人への支援体制を整える。